

種	第 四										
	第二十目	第十九目	第十八目	第十七目	第十六目	第十五目	第十四目	第十三目	第十二目	第十一目	第十目
前顯各種目、物件員數、明細別表ノ如ク當寺現在ノ寺有財産一々實際ニ照合シ關係人立會調査ヲ致シ登記仕候處相違無之候依テハ法令宗規等ヲ守リ嚴重ニ保管可仕候此段關係人連署證印上申仕候也	種目未定ノ物件	第一種第一目乃至第十目以外ノ諸財産	境外山林地上立木竹	境内地上立木竹及物件	雜 什 具	食 具	法衣及衣類	書籍及書畫骨董	法 具 及 僧 具	建 物 ニ 附 屬 物 件	第一種第一目第二目以外ノ佛體畫像佛具經卷
右											
院寺											
住職											

大正 年 月 日

- 右寺 檀徒總代人
- 右寺 法類總代人
- 右寺 末寺總代人
- 右寺 組寺總代人
- 右寺 本 寺

右寺有財産帳各種目員數明細如別表相違無之候ニ付連署證印仕候也

大正 年 月 日

新義眞言宗智山派管長級氏名殿

右寺有財産帳各種目物件員數明細如別表監查候處相違無之候依テ與印候也

縣府 智山派宗務支所管理

大正 年 月 日

員數欄ニハ明細別表ノ物件合計員數ヲ記入スルコト該種目ナキトキハ○點ヲ附スルコト
 明細表欄ニハ別表何枚添附ト記入ノコト、備考欄ニハ參考必要ノ事由アラハ記入ノコト
 無末寺院ハ末寺總代人ヲ削除スルコト
 明細別表ハ本細則第三條各項ニ依リ用紙ハ美濃紙又ハ内山紙ヲ用イテ字體楷書ニ明記ス
 ルコト其様式ハ各種目毎ニ別表トシ本細則第三條ノ各種目認方注意事項ヲ明細確實ニ記
 入シ一見シテ見易キコトヲ要ス

◇寺院收入調査規則(大正五年一月八日教令第三號)

本派寺院専帳記載ノ收入額ハ遠ク本派獨立以前ノ調査ニ屬シ爾來多年ヲ經過シタレハ時勢ノ變遷ト土地ノ盛衰ト寺有財産并ニ檀信徒ノ増減ト其他ノ事由トニ依リ寺院收入ニ異動ヲ生シタルモノ多々ナルヘシ依之派内寺院ノ現在實際ノ收入ヲ調査スルハ本派宗務調整上極メテ緊要ナリト認メ今回別記ノ通り寺院收入調査規則ヲ制定シ發布ノ日ヨリ之ヲ實施ス

寺院收入調査規則

第一條 本派寺院收入調査ハ宗務所内宗務調整部ニ於テ擔任シ之ヲ處理スルモノトス
第二條 本派寺院ノ收入額ハ一ケ年度ニ於ケル該寺ノ諸信施入及ヒ寺有財産ヨリ生スル果實其他ノ雜收入等ヲ稱シ左項ニ依リ住職人ヲシテ其實際ヲ取調ヘ別記様式ニ準シ之ヲ申告セシム

第一項 本條寺院收入ヲ左ノ通り分類ス

第一類 檀信徒等ノ諸信施收入

第二類 寺有土地收入

第三類 寺有金收入

第四類 寺有建物收入

第五類 前各類以外ノ雜收入

第二項 本條收入ノ表示ハ事實收入ノ物件品目數量ヲ記シ更ニ物件ハ時價ニ換算シ該收入ヲ得ルニ要スル諸經費ヲ引去リ年度純益收入ヲ定ムヘシ

第三項 第一項收入ハ大正二年一月一日ヨリ大正四年十二月三十一日ニ至ル三ケ年間ヲ三分シテ一ケ年度平均收入額ヲ定ムヘシ但シ該期間檀信徒等ニ増減アルトキハ大正四年度現在數ニ依ルヘシ

第四項 第二項收入ハ明治四十四年一月一日ヨリ大正四年十二月三十一日ニ至ル五ケ年間ヲ五分シテ豊凶一ケ年平均收入及ヒ其價額ヲ定ムヘシ

山林ノ收入ハ地上ノ副產物果實ヲ稱ス

山林ノ立木ハ不動産ナレハ收入ト評價スヘカラス其伐採認可ヲ得タルトキハ其年度ノ増收入トスヘシ

山林ノ立木ニシテ薪炭用トシ年々伐採スルモノハ年度收入ニ加記スヘシ

第五項 第三類第四類第五類ハ大正四年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一ケ年間收入ヲ記スヘシ但シ年々收入ニ異動アルモノハ第一類收入ニ準スヘシ

第六項 寺院收入ニシテ一定ノ期間收入ヲ得ルモノ又ハ數年度毎ニ一回ツ、收入ヲ得ルモノ若クハ他ノ權利ニ屬スルモノヲ使用シ之ニ依リ收益ヲ得ラルヘキモノアルトキハ別記様式末尾備考欄ニ記入スヘシ

第三條 本派寺院住職人ハ前條收入取調申告書ヲ本年二月十五日迄ニ作成調印シテ該組寺總代人ニ提出スヘシ

第四條 組寺總代人ハ前條收入取調申告書ヲ該組會ノ議ニ附シ組會多數ノ評決收入ヲ別記様式ニ依リ記入調印シテ本年二月二十八日迄ニ該宗務支所ニ提出スヘシ

第五條 宗務支所管理ハ前條申告書評決書ヲ副管理ト共ニ調査ヲ遂ケ別記様式ニ依リ副申請印シテ本年三月十五日迄ニ宗務所ニ進達スヘシ

- 第六條 組寺總代人ハ收入取調申告書ニ不正當ノ點アリト思量スルトキハ該寺住職人ニ修正セシムヘク若シ應セサルトキハ其旨評決書ニ明記スヘシ
- 第七條 宗務支所管理ハ收入取調申告書又ハ評決書ニ不正當ノ點アリト認ムルトキハ之ヲ修正又ハ再議セシメ若シ應セサルトキハ其旨副申告書ニ明記スヘシ
- 第八條 宗務所内宗務調整部ニ於テハ寺院收入取調申告書組會評決書支所副申告書ヲ調査シテ不審アルトキハ書面ヲ以テ期間ヲ定メ再調ヲ命シ必要アルトキハ召喚若シクハ派出シテ調査ヲ遂ケ結了シタルトキハ調了收入額ヲ記入シ部員及部長檢印シ置クヘシ
- 第九條 前條調了收入額ヲ管長ニ具申シテ當該寺收入額ヲ査定ス此ノ査定額ニ對シテハ當該寺ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
- 第十條 本派寺院住職人ハ他ノ寺院ニ關スル收入取調申告書若クハ組會評決書支所調査副申告書ヲ不正當ナリト思量スルトキハ當該人ニ注告シ又ハ直接宗務所内宗務調整部ニ申告スルコトヲ得
- 第十一條 本規則第三條第四條第五條第八條ノ期限ヲ經過シテ第二條收入取調申告書ヲ提出セサルトキハ宗務所内宗務調整部ニ於テ當該寺有財產其他ノ收入ヲ酌量シテ調了收入額ヲ認定スルコトアルヘシ此ノ場合ニハ當該寺ハ異議ヲ申立ルコトヲ得ス
- 第十二條 本派寺院住職、組寺總代人、支所員ニシテ故意ニ收入取調申告書、組會評決書、支所調査副申告書ヲ怠リ又ハ虛偽ノ記入ヲ爲ストキハ本派賞罰條例ニ照シ懲戒處分セラル、コトアルヘシ
- 第十三條 本則施行細則及ヒ寺院收入調査ニ必要ナル解説ハ宗牒ヲ以テ發セシムヘシ

以上

新義眞言宗智山派寺院收入取

(甲)

縣府		宗務支所		組		郡市		町村		等		院寺	
種	第一類	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀
目	檀信徒等ノ	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀
數	檀信徒等ノ	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀
員	檀信徒等ノ	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀
數	檀信徒等ノ	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀
品	檀信徒等ノ	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀
數	檀信徒等ノ	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀
量	檀信徒等ノ	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀
額	檀信徒等ノ	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀
諸	檀信徒等ノ	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀
費	檀信徒等ノ	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀
備	檀信徒等ノ	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀
考	檀信徒等ノ	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀
入	檀信徒等ノ	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀
純	檀信徒等ノ	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀
益	檀信徒等ノ	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀
收	檀信徒等ノ	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀
入	檀信徒等ノ	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀
額	檀信徒等ノ	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀	檀

境内地ノ土地收入
 境内地上ノ副産物果實ヲ收入トス
 境内品目數量ヲ記スベシ
 小作入付品量地代金ハ實際契約評定シ
 公租稅ハ該土地ニ關スルモノニ限ル
 諸經費ハ該收入ヲ得ルニ要スル實費
 評定小作入付品量地代金
 均年收
 諸經費及
 小作入付品
 純益收入
 換算金額

院 寺		書中副査調入收院寺派山智	
別紙	大正 年 月 日	額入收査調所支	寺收入取調申告書及組會評決書當支所ニ於テ左之通り調査仕候也
備考	新義真言宗智山派宗務長級氏名殿	事由	右 組寺惣代人 寺 住職
備考	大正 年 月 日	備考	縣府 宗務支所管理 副管理
備考	新義真言宗智山派宗務長級氏名殿	備考	調了額
備考	大正 年 月 日	備考	檢部員
備考	新義真言宗智山派宗務長級氏名殿	備考	印

●宗規第十八號

菩提院結衆集議選任條例

(明治三十八年十月廿八日內務大臣認可同年十一月二十三日發布)

第一章 總 則

第一條 本條例ハ宗憲第二章第十七條ニヨリ之ヲ定ム

第二章 選 任

第二條 本派ニ菩提院結衆三十名ヲ置キ菩提院結衆ノ内ニ就キ集議十名ヲ置ク

第三條 菩提院結衆ハ兩大會已講ノ者ニシテ權少僧正以上ノ教師中教學ノ軌範ニ堪ユヘキ者又ハ五ヶ年以上宗事ニ盡力シ其功顯著ナルモノヲ候補者トス

(大正九年八月二十日教令第四號修正)

第四條 管長ニ於テ菩提院結衆ヲ選任セントスルトキハ候補者人名ヲ列記シ菩提院結衆ニ諮詢シ多數ニ於テ適任ト認メタルモノヲ補命ス

第五條 集議ハ菩提院結衆ノ互選ヲ以テ選舉シ管長之ヲ任命ス

第六條 集議ノ選舉ハ宗務所ヨリ達示シ投票ハ菩提院結衆中ヨリ一名ヲ立會人トシテ開緘ス

第七條 其他選舉上必要ノ條項ハ宗規第四號宗會議員選舉條例ノ規定ヲ準用ス

第八條 菩提院結衆補缺選任ハ毎年十二月トス

但シ被選資格ヲ有スルモノナキトキハ此限リニアラス

第九條 集議ハ缺員ヲ生シタルトキヨリ三ヶ月以内ニ補缺ノ選舉ヲ爲スヘシ

第十條 集議菩提院結衆ハ管長ノ特志ニ依リ諭示解任ヲ命セラレサル限リハ終身其任ニアルモノトス

第十一條 管長ハ教學及宗治上重要ノ事項ヲ諮詢スル爲メ集議中ヨリ二名其他ノ菩提院結衆中ヨリ

- 三名ノ顧問ヲ任命ス
- 第十二條 前條顧問ノ選出ハ各互選ニ依リ任期ハ三ケ年トス
- 第十三條 集議菩提院結衆及顧問ニ選任セラレタルモノハ相當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スル事ヲ得ス
- 第十四條 集議菩提院結衆ハ一派ノ教學其他學務ニ關シ意見アルトキハ直ニ管長ニ建議スルコトヲ得
- 第十五條 集議菩提院結衆及顧問ハ名譽職トス

◇宗機顧問選任規則

- 第一條 宗規第十八號第十一條ニ依ル顧問ヲ宗機顧問ト名稱ス
- 第二條 宗機顧問ノ選舉ハ宗務所ヨリ達示シ投票ハ菩提院結衆ノ内一名ヲ立會人トシ開絨ス
- 第三條 宗機顧問選舉達示ハ集議ハ同席ノ人名菩提院結衆ハ同結衆ノ人名ヲ列記シ各別ニス
- 第四條 已ムヲ得サル事由ニ依リ當選人就職ヲ辭シ又ハ任期中ニ辭職ヲナスモノアルトキハ次點者ヲ就職セシム次點者辭シタルトキハ更ニ選舉ス
- 第五條 選舉上必要ノ條項ハ宗規第四號宗會議員選舉條例ノ規定ヲ準用ス
- 第六條 管長ニ於テ宗治其他ノ事項ニシテ諮詢ヲ要スルトキハ事ノ輕重ニ依リ召集諮詢シ又ハ書面ヲ以テ諮詢ス
- 第七條 宗機顧問ハ管長ノ宗治ニ關スル行爲ニ對シテ意見アルトキハ諫議スル責任ヲ有ス
- 第八條 宗機顧問ハ在職中總本山宗務所勸學院ノ職員及常在布教師タルヲ得ス
- 第九條 宗機顧問ノ旅費等ハ本派規定ノ第二等ヲ準用ス

●宗規第十九號

教育會條例

(大正三年六月八日文 部大臣認可同日發布)

- 第一條 本條例ハ宗憲第三十四條ニ依リ之ヲ定ム
- 第二條 教育會ハ本派教育ニ關スル重要ナル事項ヲ審議シ又ハ管長ノ諮詢ニ應答ス
- 第三條 教育會ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス
 - 一 管長特選 三名
 - 一 宗會議員ノ互選 四名
- 第四條 議員ノ任期ハ三ケ年トス補缺ニ依リ就任セラレタルモノハ任期ハ前任者ノ殘任期トス但シ宗會議員ノ互選ニシテ宗會議員ノ資格ヲ失ヒタルモノハ同時ニ失格スルモノトス
- 第五條 教育會ニ於テハ左ノ各項ヲ審議決定スルモノトス
 - 一 教育ノ方法
 - 二 本派私立大學智山勸學院ニ關スル事項
 - 三 教育費歳入出豫算施行ニ關スル事項
 - 四 教育財團ニ關スル事項
 - 五 教育財團ニ關スル事項
 - 六 法資教育ニ關スル事項
 - 七 學事監督ニ關スル事項
 - 八 事教兩相ノ研究ニ關スル事項
 - 九 學生補給ニ關スル事項
 - 十 留學生ニ關スル事項

- 十一 其他教育ニ關シ管長ニ於テ必要ト認メタル事項
- 第六條 教育會議案ハ宗務所ヨリ提出ス
- 第七條 教育會ハ教育ニ關スル事項ニ付管長ニ建議シ又ハ本派僧侶ノ建議ヲ受クルコトヲ得
- 第八條 教育會ハ議事細則ヲ定メ管長ノ認可ヲ得テ施行スヘシ
- 第九條 教育會ノ議長ハ議員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十條 教育會ハ毎年一回之ヲ開キ其會期ヲ二日間トス(大正十一年八月四日教令第五號修正)
- 但シ管長ニ於テ必要ト認メタル場合ニハ會期ヲ延長シ又ハ臨時ニ開クコトヲ得
- 第十一條 本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ實施ス

◇教育會議員選舉細則(大正四年二月 教令第一號)

- 第一條 宗規第十九號教育會條例第三條宗會議員互選ニ關スル教育會議員ノ選舉ヲ宗會大會閉會中ニ執行スルトキハ左項ニ依ル
 - 第一項 選舉會ハ投票ヲ以テ宗務所ニ於テ之ヲ開ク其期日ハ宗務所ヨリ告示シ其投票用紙ハ宗務所ヨリ各宗會大會議員ノ住職寺ニ配附ス
 - 第二項 各宗會大會議員ハ前項告示投票用紙ヲ受ケタルトキハ宗會大會議員中ニ就キ被選人四名ヲ列記投票シテ自署實印ヲ捺シ封筒ニ入レ教育會議員互選投票ト表記シ裏面ニ自署捺印ノ上選舉期日前日迄ニ宗務所ニ差出スヘシ
 - 投票ヲ郵送スルトキハ更ニ封筒ヲ用ユヘシ
- 第三項 選舉長ハ宗會大會正副議長ノ内ヨリ壹名ヲ立會人ハ宗會大會議員ノ内ヨリ貳名ヲ管長ノ指名ニ依リ之ヲ命ス

- 第四項 選舉長ハ選舉錄ト共ニ當選者ヲ宗務所ニ上申ス
- 第二條 前條當選者ニハ管長ヨリ當選狀ヲ交附ス
- 第三條 管長特選ノ教育會議員ニハ管長ヨリ特選狀ヲ交附ス
- 以上

◇教育會議事細則(大正四年三月 告示第五號)

- 第一條 議員選舉最初ノ召集期日定期後ニ宗務所參集議員總數三分ノ二ニ充テタルトキハ宗務長假議長トナリ無記名投票ヲ以テ議長ノ選舉ヲ行フ投票過半數ヲ得タルモノヲ當選人トシ當選人ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得サルモノトス
- 第二條 前條議長當選人定マリタルトキハ宗務長ヨリ管長ニ任命ヲ申請スルモノトス
- 第三條 議長ハ議長席ニ着キ抽籤ヲ以テ議員ノ席次ヲ定ムルモノトス
- 第四條 議事ハ議員總數三分ノ二以上出席シ且ツ宗務所委員出席スルニアラサレハ之ヲ開クコトヲ得サルモノトス
- 第五條 開議時間ハ通常午前九時ヨリ午後三時迄トス議長ハ議事日程ニ掲ケタル議事終了シタルトキハ閉會ヲ宣告シ其未タ議了セサルトキハ開議時間延長ヲ宣告スルコトヲ得
- 第六條 議事日程ハ宗務所委員ノ同意ヲ求メ議長之ヲ定ム開議案緊急動議ヲ提出シテ之ヲ變更セントスル議員アルトキ若クハ議長自ラ必要ヲ認ムルトキハ宗務所委員ニ同意ヲ得タル上ニ討論ヲ用キスシテ會議ニ諮ヒ之ヲ變更スルコトヲ得
- 第七條 議員發言セントスルトキハ議長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第八條 議長ハ議事整理上必要ト認ムルトキハ議員ノ發言ヲ止メ又ハ中止スルコトヲ得

第九條 議員ハ一名以上ノ賛成ヲ得テ建議案ヲ提出スルコトヲ得但シ其案ヲ具ヘ理由ヲ明記シテ

賛成議員ト連署シテ議長ニ提出スルコトヲ要ス

第十條 議員ノ動議ハ總テ一名以上ノ賛成議員アルニアラサレハ議題トナスコトヲ得ス

第十一條 議案ハ第一讀會第二讀會第三讀會ノ議事ヲ經テ確定議了トス

但シ事宜ニヨリ議長ハ討論ヲ用キスシテ會議ニ諮ヒ讀會ヲ省略シテ確定議了ヲ宣告スルコトヲ得

第十二條 議員ハ第二讀會第三讀會ニ於テ修正案ヲ提出スルコトヲ得

但シ第二讀會ニ於テハ一名以上ノ賛成議員、第三讀會ニ於テハ三名以上ノ賛成議員アルニアラサレハ議題トナスコトヲ得ス

第十三條 通常議事ハ出席議員ノ過半數ヲ以テ其可否ヲ決シ可同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

重大議事ハ出席議員ノ三分ノ二以上ヲ以テ其可否ヲ決ス

第十四條 表決ノ法ハ議員ヲ起立セシメ議長其數ヲ認メ可否ヲ宣告スルヲ通常トス議長ニ於テ必要ト認メ又ハ議員ヨリ請求シ一名以上ノ賛成議員アルトキハ討論ヲ用キスシテ會議ニ諮ヒ

氏名點呼若クハ記名投票無記名投票ヲ以テ之ヲ決ス

第十五條 宗務所委員ハ開議中意見ヲ陳述シ又ハ何時ト雖モ宗務所提案ノ議案ハ之ヲ撤回シ若クハ修正スルコトヲ得

第十六條 本派教學財團理事長本派私立大學智山勸學院長ハ教育會ニ出席シテ意見ヲ陳述シ若クハ書面ヲ以テ建議スルコトヲ得

第十七條 本派僧侶ノ建議ハ其案ヲ具シ理由ヲ明記シテ議長ニ提出スルコトヲ要ス議長ハ之ヲ審査委員ニ附シ其報告ニ依リ議事日程ニ加列シ若クハ相當ノ處理ヲナスモノトス

第十八條 前條ノ場合若クハ議事ニ關シ審査ノ必要アルトキハ議員中ヨリ審査委員ヲ選定シテ之ヲ審査セシム議員ハ正當ノ事故ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第十九條 審査委員ノ員數及ヒ選定法ハ議長ノ認ムル處ニ依リ議長ノ指令若クハ議員ノ互選トス但シ議員ノ發議ニヨリ之ヲ定メントスルトキハ一名以上ノ賛成議員ヲ得テ討論ヲ用キスシテ會議ニ諮ヒ之ヲ決ス

第二十條 審査委員ハ互選ヲ以テ委員長ヲ定メ審査ノ結果ハ委員長ヨリ議長ニ報告ス議長ハ必要ト認ムルトキハ審査ノ經過及結果ヲ委員長ヲシテ會議ニ報告セシムルコトヲ得

第二十一條 審査委員少數意見ヲ議長ニ提出スルトキハ前項ニ準ス

第二十二條 確定議了ノ議案ハ議長ヨリ管長ニ開申ス

第二十三條 議事録ハ議長及幹事書記之ニ署名捺印シ宗務所ニ提出ス

第二十四條 教育會ニ幹事一名書記若干名ヲ置ク

第二十五條 幹事ハ教學部主事ヲ以テ之ニ充テ書記ハ宗務所員中ヨリ選任ス

第二十六條 議員召集ニ應シタル後開議當日病氣其他ノ事故ニ依リ出席スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ具シテ議長ニ缺席屆書ヲ提出スヘシ

第二十七條 議員病氣其他ノ事故ニ依リ召集ニ應セラレサルトキハ其理由ヲ具シテ宗務所ニ缺席屆書ヲ差出スヘシ

第二十八條 議員病氣其他ノ事故ニ依リ議員ヲ辭セントスルトキハ其理由ヲ具シ管長ニ辭任聽許ヲ願出ツヘシ

第二十九條 傍聽券交附ヲ受ケタルモノニアラサレハ議事ヲ傍聽スルコトヲ得ス

第三十條 傍聽券ハ議員又ハ宗務所員ノ紹介ニ依リ幹事之ヲ交附ス

右寺檀徒(信徒)惣代人別紙之通改選就任候ニ付本日本町村長ニ届出候條此段御届申上候也
大正何年何月何日

右寺住職

級 氏 名印

新義真言宗智山派宗務所

宗務長 級 氏 名殿

前書取調候處相違無之候間奥印進達候也

大正何年何月何日

何宗務所支所管理 級 氏 名印

別紙町村長宛届書式ハ前記甲號書式中何府何宗務支所管内及宛名ト奥書トヲ削除シテ町村長宛トスヘシ

(備考) 檀信徒惣代人死亡其他缺員ヲ生シタルトキハ速ニ補缺選出スヘシ

○任期中辭任ニヨリ改選シタルトキハ其辭表寫ヲ添附スヘシ

○任期三ヶ年滿了ノトキハ改選スヘシ

○任期滿了スト雖モ後任者選出就職スルマテハ檀信徒惣代人タル資格ヲ失ハサルコト

○正當ノ必要理由アルニアラサレハ猥リニ増員スヘカラス若シ増員ノ必要アルトキハ所轄官廳ニ出願シ認可ヲ得テ増員選出スヘシ

傳法灌頂入壇願

何府縣何宗務支所部内
何府縣何市郡何町村大字何々新義真言宗智山派何寺住職級氏名法資 級 氏 名

右者今回貴山ニ於テ御開壇相成候何流傳法灌頂ニ入壇志願ニ付御許可被成下度此段履歷書相添へ願上候也
何年何月何日

右本人 級 氏 名印

右師僧 級 氏 名印

何々寺住職 級 氏 名殿

何々寺住職 級 氏 名殿

師僧替届

何府縣何宗務支所部内
何府縣何市郡何町村本派
何寺前住職亡級氏名法資 級 氏 名

右師僧級氏名何年何月何日死亡ニ付法類ノ緣故ニ依リ(又ハ協議ノ上)何府縣何市郡何町村本派何寺住職級氏名ノ法資ト相成候條此段連署御届申上候也

也
何年何月何日

右本人 級 氏 名印

右元師僧(死亡ノ時ハ法類惣代) 級 氏 名印

右新師僧 級 氏 名印

管 長 宛

支所奥印ヲ要スルコト

(備考) 協議ノ上異法類ノ法資トナリタルトキハ從來ノ法類惣代連署ヲ爲スヘシ

師資ハ深縁關係ヲ要スルモノナレハ法資未丁年者ナルトキハ親権者連署然ルヘシ又タ甲支所部内ヨリ乙支所部内ニ轉籍ノ場合ニハ甲乙兩支所ノ奥印ヲ要ス

轉派承認願

何府何宗務支所部内

何府何町大字何々本派何寺前住職(又ハ住職級氏名法資)

級 氏 名

右私儀何府縣何市郡何町村新義真言宗智山派(又ハ真言宗何派)何々寺住職級氏名ノ法資ト相成度候ニ付同宗派ニ轉籍御承認被下度冥加料相添へ此段連署願上候也

書式

年月日

右本人 級 氏 名印

右師僧(師僧ノキトキハ法類惣代) 級 氏 名印

新義真言宗智山派管長大僧正氏名殿

前書之通相違無之候ニ付奥書進達候也

年月日

何府縣何宗務支所管理級氏名印

略履歷證明願(武通ヲ要ス)

私儀今回何宗何派へ轉籍御承認ヲ蒙リ候ニ付テハ左記履歷項目御證明被成下度候

一 教師等級 何級 何年何月何日新義真言宗智山派管長ヨリ拜受

一 色衣 何色何年何月何日同上ヨリ被着允可

一 住職 何府縣何市郡何町村智山派何々寺住職任

一 免何年何月何日辭任

一 役務 何々何年何月何日何拜命何年何月何日辭任

一 賞罰 共ニ無シ

(備考) 此ノ他必要ノ項目ハ列記スヘシ

右御願申上候也

年月日

右本人 級 氏 名印

新義真言宗智山派宗務長級氏名殿
支所奥印ヲ要スルコト如前

◇轉派入籍願

何府縣何派宗務支所部内
何府縣何市郡何町村大字何々
何宗派何寺前住職(又ハ住職
級氏名法資)

右私儀今何府縣何市郡何町村貴宗派何寺住職級
氏名ノ法資ニ相成候ニ付貴宗派ニ轉派入籍御承認
被成下度別紙履歷書戶籍謄本何宗派轉派證明書及
禮祿金相添へ此段連署願上候也
年月日

右本人 級 氏 名印
右師僧(師僧ナキトキ) 級 氏 名印
新義真言宗智山派管長大僧正氏名殿
支所奥印ヲ要スル如前
(備考) 轉派及轉派入籍ハ特ニ必要ヲ認ムルト
キハ其事實ヲ調査シ充分詮議ノ上之ヲ許否セ
ラルヘシ

◇死亡届

何府縣何宗務支所部内
何府縣何市郡何町村本派何寺
住職

右者何年月何日何時何々病ニテ死亡候條別紙埋
葬認許證寫相添へ此段御届申上候也
追テ本人兼務住職寺名ハ別紙之通リニ付添申仕
候(尤モ兼住職寺ナキモノハ此ノ追書ヲ要セス
又ハ無之ト記スルモ可ナリ)
何年月何日

右寺法類惣代人何寺住職 級 氏 名印
右寺檀信徒惣代人 氏 氏 名印
氏 氏 名印
氏 氏 名印

管長 宛
支所奥印ヲ要スルコト
(備考) 法類ナキトキハ末寺アル寺院ハ末寺惣
代末寺ナキ寺院ハ本寺住職人トス惣本山直末
寺院ハ隣寺住職人ニテ可ナリ

◇褒賞具狀

何年月何日
支所管理 級 氏 名印
管長 宛

◇檀徒(信徒)拒絕認可願

何年月何日
一事實及理由 何々ト明記スルコト
一證據 別紙調書又ハ何々
右ハ本派檀信徒取扱條例第何條何項ニ該當スルモ
ノニ有之候ニ付檀徒(又ハ信徒)タルコトヲ拒絕致
度候條御許可被成下度此段奉願候也
何年月何日

右寺住職 級 氏 名印
管長 宛
支所奥印ヲ要スルコト
(備考) 賞罰ハ嚴正ナルヲ期セザルベカラス其
具狀ニ際シテハ其事實及理由ト證據書類ヲ添
附シ明確ナルコトヲ要ス又タ檀信徒拒絕認可
願ハ住職人タルモノ自己教化ノ職責ヲ願ミ最
善ノ説諭ヲ盡スモ應ゼス寺門教化ノ爲メ不得
止場合ニ限リ提出スルコトヲ要ス

◇懲誠具狀

何年月何日
何府縣何宗務支所管理級氏名印
管長 宛
一功績事實及理由 何々ト明記スルコト
一證據 別紙寄附證寫若クハ調書又ハ何々ノ如シ
右ハ本派賞罰條例第何章何條何項ニ該當スルモノ
ト相認候條御詮議ノ上相當ノ行賞相成度此段具狀
候也

兼務住職任免申請書

宗務支所下

府縣 府縣 市郡 町大字 等地

寺末

一現住職 年月日任命級氏名(又ハ現兼務住職)

(理由)ノ爲メ辭任又ハ任期滿了

一後任兼務住職 府縣 府縣 市郡 町大字 等地 院寺 住職級氏名ヲ

兼務住職ニ選定ス

一兼務ノ理由 小檀微祿ニシテ別紙收支計算表ノ

通り住職常在生活致シ難シ(三ヶ年ノ收入支出

表添付スヘシ)

又ハ別啓上申ノ理由ニヨリ專任住職選定致シ難

シ

一保障 後任者ハ宗規第十四號第十條ニ該當ス

ル行爲無之

右ノ通り相違無之候條御任免被成下度此段關係書

類並禮錄相添關係人連署申請仕候也

連署者住職任免申請ニ同シ

管長宛 (備考) 關係書類 後任者履歷書誓約書、別啓

上申書、檀信徒惣代人同意書 別啓上申ニハ關係人ニ於テ正當ト認メタル理

由ヲ詳記スヘキコト

宗費免除願

宗務支所下

府縣 府縣 市郡 町大字 等地

寺末

免除期間 自 年 年 期 宗費(又ハ臨時費)

免除金額 總額 内譯

事實及理由 年月日(災害ヲ被リタル事實)ニヨリ

小作料(詳細記入)ノ處(減收高)減收(又ハ皆無)

右宗費免除被成下度此段町村長ノ災害證明者添付

上願候也

住職檀信徒總代並ニ本寺

管長宛 支所奥印ヲ要スルコト

寺務引繼届

何府縣何宗務支所部内

何府縣何市郡何町村何等地何

寺住職

級氏名

何年何月何日住職拜命

右ハ本派宗規第十七號寺有財產保管條例第十二條及同條例施行細則第七條ニ依リ當寺寺有財產帳ト現在ノ寺有財產各種目物件ヲ照合シ(又ハ別紙之通り増減有之候間)該寺有財產帳ニ授受ノ連署證印及ヒ管理奥印ヲ受ケ申候且ツ當寺ノ寺務一切無事引繼ヲ了シ候ニ付別紙引繼目錄書相添ヘ此段連署御届申上候也

右寺住職 級氏名印

關係人等連署調印ノコト

管長宛

支所奥印ノコト

照會ノ書式

貴支所管内何市郡何町村何寺住職級氏名(又ハ法資級氏名)今回當支所管内何市郡何町村何寺住職任命申請書提出相成候處貴支所ニ支梧ノ有無及御照會候也

年月日

何府縣何宗務支所管理級氏名印

何府縣何宗務支所 御中

何月何日御照會相成候當支所管内何寺住職級氏名(又ハ法資級氏名)今回貴支所管内何寺住職任命申

書式

請書提出ノ赴キ當支所ニ於テ支梧無之候條及回答候也

年月日

何府縣何宗務支所管理級氏名印

副仲願

何府縣何々宗務支所部内

何府縣何市郡何町村何々何等地

何々々

右寺今般何々願ヲ別紙ノ如ク所轄管應(何府縣知事等ト記スヘシ)へ出願仕度候間副申御下附被成下度此段連署願上候也

年月日

右寺住職並關係人本寺連署

新義眞言宗智山派管長大僧正氏名殿

(備考) 總本山直末ハ本寺連署トアル處へ總本山副仲ヲ要スルコト

特ニ事實具申ヲ要スルモノハ右寺今般何々

(此處ニ詳細具申スヘシ)事由ニ依リ何々願ヲ

トスルコト

地所賣却代金保管及利

子用途法承認願

何府縣何宗務支所管内
何府縣何市郡何町村大字何々
何寺院
金子一ヶ年
金圓也

右ハ年月日御承認ヲ經何月何日地方廳ノ許可ヲ得
テ賣却セル所有田何筆ノ賣却代金ニ有之候處相當
ノ換地ヲ購入スル迄任職及檀徒惣代連名ニテ何々
銀行ニ預入シ確實ニ保管仕リ又利子ノ義ハ寺院收
得ノ財産トシテ任職ニ附與致度候間御承認相成度
此段連署ヲ以テ出願候也

管長宛
連署人ハ任職、檀徒惣代

堂宇貸與承認願

何府縣何宗務支所管内
何府縣何市郡何町村大字何々
何寺院
本堂又ハ庫裡ノ一部
坪數何坪
貸與料一ヶ年(又ハ一ヶ月)何圓也

右ハ當寺本堂(又ハ庫裡)ノ一部當村小學校新築迄
貸與ノ義當該町村長ヨリ請求有之右ハ公共事業ナ
ルヲ以テ前記ノ料金ニテ貸與仕度尤モ教會法要其
他寺務上ニ支障無之又貸與中ハ寺院ノ體面ヲ汚損
セス火災等ニモ留意可致候間特ニ御承認相成度此
段連署ヲ以テ出願候也

管長宛
連署人前記ノ通り

地所買入許可届

何府縣何宗務支所管内
何府縣何市郡何町村大字何
何寺院
右寺地所買入ニ付何年何月何日副仲下附相成其筋
へ書面差出候處何月何日許可セラレ何月何日所有
權移轉登記ヲ了シ候間此段及御届候也

住職檀徒惣代連署ノコト

建物新築許可及落成届

何府縣宗務支所管内
何府縣何市郡何町村大字何
何寺院
右寺建物新築ニ付年月日副仲下附相成其筋へ書面
差出候處月日許可セラレ月日落成候間收支決算書
相添へ此段及御届候也

連署人 同 上

寺院移轉願

何府縣何市郡何町村大字何々
新義眞言宗智山派 何々々 寺
當寺ハ目下本堂頽破スルモ檀家僅少ニシテ到底維
持ノ見込相立タズ然ルニ本縣何郡何町村何番地何
某所有地何坪ヲ移轉境内トシ該地ニ存在セル建物
ヲ以テ本堂兼庫裡ニ充テ移轉境内地ハ勿論該建物
ヲモ併テ所有者ヨリ當寺へ寄附ノ上移轉致度候間
御許可被成下度別紙相添へ此段奉願候也

右寺住職 級 氏 名 印
右寺法類總代 何寺住職級氏名印
書式

寺院移轉濟届ノ書式

當寺ハ何年何月何日指令第何號ヲ以テ何郡何村ヨ
リ何郡何村へ移轉ノ儀御許可相成候處今般移轉濟
ニ相成候ニ付別紙明細帳相添此段及御届候也

- 此書面ニ左ノ書面ヲ添附スヘシ
- 一、移轉後豫定明細帳(移轉濟トナリタル曉ニ
寺院ニ附屬スル建物、所有物件、檀信徒數、
管轄應マテノ距離、由緒ヲ記入スヘシ)
 - 一、移轉境内地並ニ本堂庫裡ニ充ツヘキ建物ノ
所有者ヨリ移轉許可ノ上ハ其寺ニ寄附スヘ
シトノ書面
 - 一、建物ノ位置ヲ示シタル移轉境内並ニ周圍ノ
狀況ヲ見ルニ足ルヘキ見取圖面
 - 一、移轉後寺院ノ維持方法ヲ記載シタル書面
 - 一、管長ノ副仲書
- 右寺檀徒總代 氏名三名以上連印
右寺末寺總代 何寺住職級氏名印
右組寺總代 何寺住職級氏名印
右寺本寺 何寺住職級氏名印
何縣知事宛

何郡町村大字何
 何宗派何寺住職 級 氏 名
 右寺檀徒總代 三 名
 府縣知事宛
 一移轉後ノ明細帳ヲ添付

◇寺院移轉跡無料使用地
 拂下願ノ書式

官有荒蕪地拂下願
 何縣郡村字何番地
 一荒蕪地 何百坪
 右地所ハ何年何月何日指令第何號ヲ以テ無料使用
 願ノ儀御許可ノ上直ニ開墾ニ着手致候處今般畑地
 ニ開墾濟ト相成候ニ付無料使用出願當時ノ素地代
 價金何圓ヲ以テ御拂下相成度此段奉願候也
 年月日

何縣郡村大字何
 何宗派何寺住職 級 氏 名
 右寺檀徒總代 三 名
 府縣知事宛

◇佛堂廢止願ノ書式

佛堂廢止願
 何府縣市郡町村大字何
 何々々堂
 當佛堂ハ到底維持ノ見込無之候ニ付廢止致度候間
 御許可被成下度財產ハ別紙ノ通處理致度候間併テ
 御許可相成度奉願候也
 年月日

右何堂受持
 何寺住職 級 氏 名
 右信徒總代 三 名
 府縣知事宛
 一境内及建物ハ賣却シ最寄佛堂又ハ寺院へ寄附ス
 ル等其處理方法等ヲ添付スルヲ要ス

◇佛堂合併願ノ書式

佛堂合併願
 何縣郡町村大字何
 何堂
 當佛堂ハ到底維持ノ見込無之ニ付何郡何村大字何
 何々堂へ合併致度候間御許可被成下度財產ハ別紙
 之通處理致度候條併テ御許可相成度此段奉願候也
 年月日

右何々堂受持

拂下願ノ書式

官有荒蕪地拂下願
 何縣郡町村大字何番字何
 一荒蕪地 百三十坪 代價金何圓
 但壹坪ニ付何十錢 隣地一坪ニ付何十錢
 右地所ハ元當寺境内地ニ有之候處何年何月何日指
 令第何號御許可ノ上何郡何村へ移轉致シタル跡地
 ニ有之當寺ト關係淺カラサル土地ニ付キ永ク當寺
 所有地トシテ御拂下被成下度別紙實測圖面相添此
 段奉願候也
 年月日

何縣郡町村大字何
 何宗派何寺住職 級 氏 名
 右寺檀家總代 三 名
 府縣知事宛

(注意) 隨意契約ニ依リ荒蕪地ノ拂下ヲ出願ス
 ル土地ハ必ス本例ノ如ク百五十坪未滿ナルヲ
 要ス
 寺院境内地區域増加願

一官有荒蕪地 幾坪
 當寺ハ本縣中有名ノ寺院ニシテ毎年何月何日ノ法
 要執行ノ際ニハ近郷ヨリ數千人ノ參詣有之候處境
 内僅ニ二百坪ニシテ是等ノ參詣人群集雜沓シテ自

何寺住職 級 氏 名
 右信徒總代 三 名
 府縣知事宛

◇佛堂移轉ノ書式

佛堂移轉願
 何縣郡町村大字何
 何堂
 當佛堂境内地全部何々鐵道ノ線路敷地ニ該當致シ
 候ニ付今般信徒協議ノ上本縣何郡何町村大字何番
 地何某所有地何坪ヲ移轉地境内トシ該地ニ存在セ
 ル建物ヲ以テ堂宇ニ充テ移轉境内地ハ勿論該建物
 ヲモ併セテ所有者ヨリ當佛堂ニ寄附ノ上移轉致度
 候間御許可被成下度別紙相添此段奉願候也
 年月日

右何々堂受持
 何寺住職 級 氏 名
 右信徒總代 三 名
 府縣知事宛
 (注意) 寺院移轉願參照

◇百五十坪未滿ノ寺院跡地

書式

然官有地ニ侵入スルコト、相成リ候ノミナラス尚
法要執行上ニ於テモ境内狹隘ノ爲メ支障少カラス
然ルニ前記官有荒蕪地ハ當寺境内地ニ接續シ當寺
ノ法要執行上ニ於テモ必要ノ箇所ニ有之候間境内
へ編入増加ノ儀御許可相成度別紙圖面相添此段奉
願候也

年月日

何府縣市郡町村大字何

宗派何寺住職 級 氏 名

右寺檀徒總代 三 名

府縣知事宛

附屬書類

一境内及官有荒蕪地其他建物ノ位置、法要上必要
ナル箇所、參詣道路トシテ必要ナル箇所等ノ明
細圖及管長ノ添書

◇寺院境内地區域變更願ノ書式

寺院境内地區域變更願

當寺現境内地何千坪ノ内何百坪縣道何々街道(若
クハ何々私設鐵道會社ノ鐵道敷地)ニ該當致シ候
ニ付別紙圖面ノ通り區域變更相成度此段奉願候也
年月日

何府縣市郡町村大字何

宗派何寺住職 級 氏 名
右寺檀徒總代 三 名

附屬書類
一境内區域及建物位置鐵道敷地ニ充用セシ箇所等
ノ明細圖

◇寺院境内區域變更并ニ境内

佛堂明細帳へ編入願ノ書式

寺院境内區域變更并ニ境内佛

堂明細帳ニ編入願

何府縣市郡町村大字何

新義眞言宗智山派 何 寺

一境内佛堂壹宇(編入出願ノ佛堂)

何々堂貳間半四面境外官有地三反三畝步(實測
反別六反步)官有地ノ儘何々寺境内へ編入出願
ノ分

本尊聖觀世音菩薩 金佛御丈壹寸八分(本派菜
寺願書)

由緒 養老年中建立ノ旨古老ノ口碑ニ傳ヘア
ルモ寛政年中何々 火災ニ罹リ記録由緒等灰
燼ニ歸シ事跡不詳元祿二年建築ノ棟札アリ

牛頭天王堂 一間四面境外民有地山林二畝步民

有ノ儘 編入出願ノ分

本尊 牛頭天王 木像

由緒 不詳

右何々堂ハ官有地何町步ノ箇所ニ存在有之候該佛
堂ハ往古當寺境内佛堂ニ有之候處當寺明細帳ノ脱
漏ト共ニ脱漏致シ居リ候處當寺ハ明治三十二年二
月二日指令甲第九七號ヲ以テ明細帳編入御許可相
成候ヘトモ該佛堂ハ編入漏ト相成居候ニ付該佛堂
境内地六反步ヲ當寺境内ニ編入シ該堂ヲ當寺境内
佛堂トシテ編入相成度該堂ノ存在ト關シテハ元祿
二年建築ノ棟札ニモ別當何寺住職何々本寺何々寺
住職何々ノ名前モ記載有之候ノミナラス建物等モ
別紙圖面ノ通り今代ノ建築ニアラサルコトハ其ノ
古色等ニ於テ一目明瞭ニ有之候又牛頭天王堂ハ當
時境外所有地ニ有之由緒等不明ニ有之候ヘトモ是
亦其ノ建物等ニ依レハ古來ヨリ存在セシモノニ有
之候ニ付該堂宇ノ存在セルニ畝歩ハ民有地ノ儘當
寺境内へ編入相成該堂ヲモ境内佛堂トシテ編入相
成度別紙圖面并棟札寫管長副申書相添此段相願候
也

年月日

右何々寺住職 級 氏 名

右寺檀徒總代 三 名

府縣知事宛

書式

◇寺院境内樹木伐採願ノ書式

寺院境内樹木伐採願

一杉立木 五尺何本

一松立木 三尺何本

右ハ當寺境内ニ存在スル樹木ニシテ別ニ風致木ニ
モ無之ニ付今般當寺本堂及庫裏修繕用トシテ伐採
致度候間御許可被成下度別紙圖面相添此段奉願候
也

年月日

何府縣市郡町村大字何

宗派何寺住職 級 氏 名

右寺檀徒總代 三 名

府縣知事宛

附屬圖面ハ現境内ノ地圖、伐採セントスル樹木ノ
位置ヲ朱書シ且ツ總樹木ノ數ヲ類別記載ヲ要ス

◇寺院所有地賣却願ノ書式

寺院所有地賣却願

何郡何町何村大字何々何番地字

一田 何反何畝步

右土地ハ當寺境外所有地ニ有之候處本堂改築ノ儀
何年何月何日御許可ヲ得テ目下工事中ノ處折柄圖

ラズ本年ノ凶作ニ遭遇セシ爲メ金融逼迫從テ寄附金等モ無之此儘工事ヲ中止スルモ遺憾ノ至リニ有之候間前記地所賣却ノ上改築費ニ補充仕度候間御許可被成下度此段奉願候也

何府縣市郡町村大字何
宗派何寺住職 級 氏 名
右寺檀徒總代 三 名
府縣知事宛

◇寺院買入ノ土地ヲ明細帳

ニ記入願ノ書式

寺院買入ノ土地ヲ明細帳ニ記入願
何郡町村大字何番地字何
一田 何反歩
右土地ヲ當寺へ買入何年月日登記致シ候間明細帳ニ境外所有地トシテ御記入被成下度此段相願候也
年月日
何府縣市郡町村大字何
宗派何寺住職 級 氏 名
右檀徒總代 三 名
府縣知事宛

◇寺院境内地紀念碑建設願ノ書式

寺院境内地紀念碑建設願
右寺院前任職又ハ檀徒ハ(詳細ナル理由ヲ記スヘシ)事蹟有之當寺ニ對シ其効勞尠カラス候間特ニ當寺ノ境内地ヲ撰テ同氏ノ碑表ヲ建設セントスル儀ニ有之候間御許可相成度別紙碑文寫并ニ圖面添付此段奉願候也
年月日
何縣何郡大字何
何寺住職 級 氏 名
右檀徒總代 三 名
府縣知事宛

一碑文ノ寫及建碑ノ位置ヲ示シタル現境内ノ圖面ヲ添フ
何縣何郡何村大字何番森林
面積何町歩ノ内
一實測面積何程
木竹ノ種類及數

◇佛堂上地官林保管願

伸相添へ此段相願候也
年月日
右寺住職及關係人連署
右地所々有者 氏 名
府縣知事又郡市長宛
(備考)

松 凡何本 杉 凡何本
竹 凡何本 雜木 凡何本
期間何年間但至何年何月
右ハ佛堂ノ上地森林ニ有之候ニ付保管御許可相成度別紙實測圖及保護法書相添此段相願候也
年月日
何府縣市郡町村大字何
何々堂受持
何寺住職 級 氏 名
右信徒惣代 三 名
何々大林區署長宛

◇寺有地買入許可願

何府縣市郡區町村字
新義眞言宗智山派 何 寺 院
府縣郡町村大字字地番
一地目 反別 持主 何 某
地價金何圓也
買入代金何圓也

右ハ今般當時永續資料トシテ前記ノ地所買入度相互異議無之尤モ買入代金ハ檀信徒ノ寄附金ヲ以テ支辨シ毫モ寺院ニ負債等生起セサル義ニ候間願意速ニ御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副

◇地所賣却許可願

何府縣市郡區町村字
新義眞言宗智山派 何 寺 院
地番
一地目 反別

地價金何圓也

賣却代金何圓也

右ノ土地拙寺所有ニ有之候處今般當村小學校設立敷地ニ相當スル由ニテ賣却方申込有之仍テ前記代金ヲ以テ賣却致度雙方異議無之候間願意速ニ御許可相成度尤モ賣却代金ハ確實ナル銀行ニ預入レ保管可致關係者一同連署シ本派管長ノ副伸相添ヘ此段相願候也

年月日

連署人ハ前願書式ニ準シ住職、檀徒總代、地所買受人及法類、本寺署名捺印スヘシ

(備考) 地所賣却代金ハ換地ヲ購入スル乎什金或ハ祠堂金等ニ編入スルノ外處理シ能ハサルモノナレハ確實ナル保管方法ヲ設ケ管長ノ承認ヲ受クルヲ要ス

◇地所交換許可願

府縣市郡區町村大字

新義真言宗智山派

何

寺

院

地番

一地目 反別

持主 何

寺

地價金何圓也

地番

一地目 反別

持主 何

某

地價金何圓也

(備考) 交換地所ハ就レカ一方朱書ニシ見易カラシムヘシ

右ハ今般相互土地ノ情況上交換致度利害ニ付雙方異議無之候間願意速ニ御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副伸相添ヘ此段相願候也

年月日

連署人ハ前願書式ニ準シ住職檀徒總代及交換地所有人並ニ法類本寺署名捺印スヘシ

(備考) 地所交換ノ場合ハ寺有地所ヲ以テ他ノ所有地ト交換スルトキハ兩地ノ坪數價格同等若シクハ其以上ノ場合ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス又交換地ニ付テハ所屬稅務署ノ謄本カ或ハ町村長ノ證明アル土地證明書及甲乙兩地ノ利害比較表ノ添附ヲ要ス

◇地目變換許可願

府縣市郡區町村字

新義真言宗智山派

何

寺

地番

一地目 反別

持主 何

寺

地價金何圓也

右ノ地所從來畑地ニ有之候處今般宅地ニ變換致度候間願意速ニ御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副伸相添ヘ此段相願候也

年月日

連署人ハ前書式ニ準シ住職、檀徒總代及法類、本寺署名捺印スヘシ

(備考) 地目變換ハ地方廳ノ許可ヲ得タル後稅務署へ届出土地臺帳ノ訂正ト地價ノ修正ヲ要ス或ハ稅務署ノ許可ヲ得タル後地方廳へ明細帳ノ訂正ヲ願フモ差支ナシ

◇地所開墾許可願

府縣市郡區町村字

新義真言宗智山派

何

寺

地番

一地目 反別

持主 何

寺

地價金何圓也

右當寺所有ノ山林ニ有之候處今回畑地ニ開墾致度候間願意速ニ許可相成度關係者一同連署本派管長ノ副伸及施業方法書圖面相添ヘ此段相願候也

年月日

連署人ハ住職、檀徒總代、法類、本寺

書式

開墾施業方法

所有地 何府縣市郡區：地番地目記載

全反別 何反何畝歩

開墾反別 何反何畝歩(分筆開墾ノ場合)

開墾願人 所在地及寺院名記載

開墾地目 田、畑、宅地等

施業地 開墾方法記載ス

土性 地質ノ肥瘠

地表 混地雜草塵芥木竹雜生スル等ノコトヲ記載ス

地勢 高低、傾斜、平坦、凹凸等ノ類

林木種 松、杉、雜木等ノ類

林木齡 何年

疎密

慣行伐採

已上

右之通リ相違無之候也

年月日

(備考) 開墾願書ニハ圖面一葉添付スルコト猶開墾成功ノ上ハ稅務署及宗務所ニ届出ツヘシ

住職、檀徒總代、連署

連署人ハ住職、檀徒總代、法類、本寺

◇地所寄附願

(本願ハ公共事業ノ爲メ表面賣却行爲ヲナス能ハス仍テ多少ノ要償金ヲ以テ寄附スルトキ)

何府縣市郡區町村字
新義眞言宗智山派 何 寺 院

地番
一地目 反別

地價金何圓也

右之地所今般當縣何處ヨリ彼處ニ通スル縣道改修敷地ニ當リ候故公共事業ノ爲メ寄附致度仍テ御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副伸相添へ此段相願候也

年月日

連署人ハ住職、檀徒總代、法類、本寺

(備考) 要償金ハ寄附行爲ナレハ不要ナル義ナレトモ寺院財產ハ單ニ減却スヘキモノニアラサレハ多少ノ補充資金ヲ要スルモノトス、尙圖面必要ノ場合ハ一葉添附スヘシ

◇堂宇新築許可願

(堂宇ハ假設ナレハ實際建物ニ書換ユヘシ)
何府縣市郡區町村字
新義眞言宗智山派 何 寺 院

新築堂宇 何造何葺 間口何間 建坪何坪
右ハ當寺堂宇無之法要教會等ニ都合ヲ感候故今回檀信徒一同協議ヲ遂ケ別紙圖面朱引ノ個處ニ前記ノ堂宇新築致度候間願意御許可相成度關係者連署シ本派管長ノ副伸及設計豫算書圖面相添へ此段相願候也

追テ工事ハ御許可ノ日ヨリ滿何月間ニ成效可致候也

年月日

右寺住職(又ハ兼務住職) 氏 名印

住所番地記載 右寺檀徒(又ハ信徒)總代氏名印

同上 同上 氏 名印

同上 同上 氏 名印

同上 同上 氏 名印

同上 同上 氏 名印

同上 同上 氏 名印

地方長官宛
△設計收支豫算書

◇堂宇改築許可願

何府縣市郡區町村大字
新義眞言宗智山派 何 寺 院

從來堂宇 何造何葺 間口何間 建坪何坪

改築堂宇 同上 同上 同上

右ハ當寺從來ノ堂宇材質腐蝕シ修繕ノ見込無之ノミナラス法要教會等ニ狹隘ヲ感シ候條從來ノ堂宇ヲ取崩シ前記ノ通改築仕度檀信徒一同協議決定致候間願意速ニ御許可相成度關係者連署シ本派管長ノ副伸及設計豫算書並ニ圖面相添へ此段相願候也 (追書同上)

年月日

△連署人及豫算書ハ前記ノ通り

△圖面ハ從來ノ本堂及改築堂宇トノ二葉ヲ添附スヘシ

◇堂宇再建許可願

何府縣市郡區町村大字
新義眞言宗智山派 何 寺 院

再建堂宇 何造何葺 間口何間 建坪何坪

右ハ當寺堂宇何年何月何日燒失(又ハ倒潰)致候間今般檀信徒一同協議致シ前記ノ通り再建仕度候條願意速ニ御許可相成度關係者連署シ本派管長ノ副

一金何圓也

內譯

一金何圓也

一金何圓也

一金何圓也

一金何圓也

內譯

一金何圓也

一金何圓也

一金何圓也

一金何圓也

已上

住職某出金額
檀徒寄附金額
信徒寄附金額
積立金額
支出豫算額

材木一式見積額

大工手間見積額

其他種目記載

豫備金額

右之通り相違無之支辨仕リ萬一支出超過ノ場合ハ住職及檀信徒ニ於テ補充方法ヲ講シ寺院トシテ負債ヲ生スル如キコト致間敷候也

年月日

住職及檀信徒總代連署

(外ニ建物圖面及境內見取圖添附ノ事)

(備考) 新築ノ理由ハ假設ナレハ實際ニ當リ理由ヲ記載スヘシ已下準知

伸及設計豫算書圖面相添へ此段相願候也

(追書同上)

年月日

△連署人、設計書、圖面(一葉)前記ノ通り

◇堂宇取毀許可願

府縣市郡區町村大字

新義真言宗智山派 何 寺 院

取毀堂宇 何造何葺 間口何間 建坪數

右ハ當寺堂宇建設後數十年ノ星霜ヲ經過シ傾斜甚シク危險ニ有之候條改築ヲ企圖候迄一時取毀度候間願意速ニ御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲及圖面相添へ此段相願候也

年月日

△連署人前記ノ通り圖面一葉添附ノコト

◇堂宇移轉許可願

府縣市郡區町村大字

新義真言宗智山派 何 寺 院

移轉堂宇 何造何葺 間口何間 建坪數

右ハ當寺堂宇從來ノ個處ニ有之候テハ火災等ノ憂モ有之仍テ別紙添附ノ圖面朱引ノ處へ移轉仕度尤

モ寺院ノ風致ヲ損害致サス候間願意速ニ御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲及設計豫算書並ニ圖面相添此段相願候也

年月日

△連署人、設計書、圖面等前記ニ準スヘシ

◇堂宇増築許可願

府縣市郡區町村大字

新義真言宗智山派 何 寺 院

現在堂宇 何造何葺 間口何間 建坪數

増築 何 坪

右ハ當寺堂宇現在ノ建坪ニテハ法要教會等ニ頗ル狹隘ヲ感シ候間今般檀信徒一同協議ノ結果前記ノ通り増築致度候間願意速ニ御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲及設計豫算書並ニ圖面相添へ此段相願候也

(追書同上)

年月日

△連署人、設計書、圖面等前記ニ準スヘシ

但シ圖面中増築ノ個處ハ朱引ヲ要ス(備考) 増築修繕ノ場合ハ本願ニ修繕ノ理由及設計等前來ノ願書式ヲ參酌シテ製作スヘシ

◇堂宇名義變更許可願

府縣市郡區町村大字

新義真言宗智山派 何 寺 院

假堂宇 何造何葺 間口何間 建坪數

右ノ建物從來假堂宇トシテ使用候處今同新ニ堂宇新築致シ候間前記建物ヲ庫裡ニ使用仕度仍テ名義變更ノ義御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲相添へ此段相願候也

年月日

△連署人前記ノ通り圖面一葉添附ノ事

◇堂宇改築模樣替許可願

府縣市郡區町村大字

新義真言宗智山派 何 寺 院

堂宇 何造何葺 間口何間 建坪數

右ノ堂宇何年何月何日御許可ヲ得テ既ニ工事ニ着手致候處設計上不都合ノ廉有之仍テ乙圖而朱引ノ通り模樣替仕度候間願意速ニ御許可相成度關係者連署シ本派管長ノ副仲及設計書並ニ圖面二葉相添へ此段相願候也

(追テ書同上)

書式

年月日

△連署人、設計書、圖面(甲乙二葉)等前記ノ通り但シ設計豫算ニ變更ナキ範圍ニ於テ模樣替スルモノナレハ設計書ヲ要セス願面ニ記入スヘシ

◇堂宇修繕許可願

府縣市郡區町村大字

新義真言宗智山派 何 寺 院

堂宇 何造何葺 間口何間 建坪數

右堂宇近頃大破致候ニ付有形ノ儘修繕致度候間願意御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲並ニ設計豫算書圖面相添へ此段相願候也

(追テ書同上)

年月日

△連署人、設計書、圖面等前ニ同シ

◇寺院合併願

府縣市郡區町村

新義真言宗智山派 何 寺

當寺ハ別紙事由書ノ通到底維持ノ見込無之ニ付何府縣何市郡何町村同派何寺へ合併致度候間御許可

被成下度財產ハ別紙ノ通處理致度候條併テ御許可相成度此段管長副申ヲ以テ奉願候

(住職、本寺法類、檀徒總代、組寺總代) 府縣知事宛

◇寺院廢止願

何府縣何市郡何町村

新義真言宗智山派 何々々 寺

當寺ハ到底維持ノ見込無之候ニ付廢止致度候間御許可被成下度財產ハ別紙ノ通處理致度候條併テ御許可相成度此段奉願候也

(住職、法類總代、本寺檀徒總代、組寺總代) 府縣知事宛

何縣知事何誰殿

此書面ニ左ノ書面ヲ添フベシ但シ文明十八年以前ノ建物ヲ有スル寺院、特別保護建築物又ハ國寶ヲ有スル寺院ハ内務省ニ照合ノ上ニアラザレバ許可セラレザルモノト知ルベシ
一、財產處分法ヲ記載シタル書面
(寺有財產ハ隣寺若クハ本寺ニ寄附スルトカ又ハ所屬宗派ノ基本財產ニ寄附スルトカノ處分法ヲ記スヘシ)

◇寺號改稱願

何府縣市郡町村大字何

何々々 寺

何々寺(朱書ナルヲ要ス)

當寺ハ元神佛混淆ノ際神社タリシモ維新ノ際神佛分離シテ寺院ニ編入相成候へ共其寺號ハ依然神社類似ノ寺名ヲ使用シ寺院號トシテ穩ナラサルニ付今般檀家等ト協議ノ上前記朱書ノ通り改稱致シ度候間御許可被成下度此段相願候也

年月日

右宗派何寺住職 級 氏 名印
右檀徒總代 三 名印
府縣知事宛

◇本尊變更願

何府縣何市郡何町村大字何

新義真言宗智山派 何々々 寺

一本尊大日如來(朱書)

當寺ノ本尊ハ從來地藏菩薩ニ有之候得共何書籍ニハ明ニ當寺本尊ハ大日如來ト有之又當寺ニ存在スル古文書ニモ同様記載有之候ニ付前記朱書ノ如ク本尊變更致度候間御許可被成下度別紙證據書類相

添此段管長副申ヲ以テ奉願候也
年月日

右何寺住職及關係人

何縣知事何之誰殿

此書面ニ左ノ書類ヲ添フヘシ

- 一、何書籍ノ寫
- 一、古文書ノ寫

◇本尊增加願

何縣何市郡何町村大字何々

新義真言宗智山派 何々々 寺

一本尊大日如來

脇立弘法大師(朱書)

當寺ハ由緒ニモ記載セル如ク從前ヨリ高祖弘法大師ノ木像脇立トシテ安置致居候處明治十二年明細帳書上ノ際本尊ハ必ス一體ナルヘキモノニシテ脇立ハ本尊ニ非ルモノト誤解シ登載セサルコトヲ發見仕候而シテ弘法大師ハ本宗ノ高祖ニシテ本宗寺院ニ於テハ何レモ奉安仕候次第ニ有之候間前記朱書ノ分増加ノ上明細帳へ御記入相成度此段管長副申ヲ以テ奉願候也
年月日

右何宗派何寺住職及關係人連署

書式

府縣知事宛

◇佛堂明細帳訂正願

何縣何町村大字何

一何々堂 堂宇間口七尺 奥行八尺 假堂

右佛堂ハ明治十二年書上ノ明細帳ニハ堂宇無之旨記載セシモ右ハ當時假堂ニ付假堂ハ明細帳ニ記載スヘキモノニ無之ト誤解致シ記載セサリシ儀ニテ今更不都合ノ次第ニ候へ共前記ノ通り明細帳訂正被成下度此段奉願候也
年月日

右何々堂受持

何寺住職 級 氏 名印
右信徒總代 三 名印
府縣知事宛

◇明細帳訂正願

何縣何市郡何町村大字何

新義真言宗智山派 何々々 寺

一境内官有地第三種八百坪
當寺境内地ハ明細帳ニハ六百坪ト有之候得共右ハ誤謬ニテ全ク八百坪ナルコトハ官有土地臺帳並ニ

今般實測致シ候處前記ノ通りニ相違無之ニ付明細帳訂正ノ儀御許可相成度此段管長副仲ヲ以テ奉願候也
月 日

府縣知事宛

右寺住職及關係人連署

◇明細帳脫漏記入願

府縣市郡區町村大字
新義真言宗智山派 何 寺 院
(記入物件地所ト假定)

右ノ地所當寺所有ニ有之候處曩ニ明細帳書上ノ際脫漏シタルコト今回發見致シ候間當寺明細帳へ御記入被下度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲相添へ此段相願候也
年 月 日

連署人前願通り

◇明細帳誤謬訂正願

府縣市郡區町村大字
新義真言宗智山派 何 寺 院
(訂正物件地所ト假定)

(備考) 誤謬訂正ノトキハ對照ノ爲メ孰レカ一方朱書スヘシ
右ノ地所從來墨書ノ通り書上置キ候處今回誤謬ナルコト發見致候間前記朱書ノ通り御訂正被下度關係者一同連署シ本宗管長ノ副仲相添へ此段相願候也
年 月 日

連署人前願ノ通り

◇脫漏寺院明細帳編入願

何郡何村大字何々
新義真言宗智山派 何 々 寺

右何々寺ハ當村ニ從前ヨリ存在シ當村何百戸ハ凡テ該寺ノ信徒ニ有之候處今回初テ寺院明細帳へ脱漏ノコト發見致シ候次第ニテ全ク明治十二年明細帳書上ヲ漏シタルモノト存セラレ候然ルニ當寺ノ從前ヨリ存在セシ事實ハ本堂庫裡ノ建物ノ古色ヲ帶ヒタルニ徴スルモ明ナルノミナラス縣廳ノ官有地臺帳(若クハ土地臺帳)ニモ記載セラレ其他別紙證據書類寫ノ通ニ有之候間寺院明細帳へ編入相成度此段奉願候也

右寺本寺若クハ法類寺
何郡何村何々寺住職 級 氏 名印

右寺檀(信)徒總代 何 之 誰印 (三名以上)

府縣知事宛

此書面ニ左ノ書面ヲ添フヘシ

- 一、官有地臺帳ノ寫
- 一、寺院ノ存在ヲ認ムヘキ證據書類(過去帳ノ如キモノ)
- 一、本堂庫裡等ヲ示シタル現境内見取圖
- 一、明細帳

◇寺院本堂庫裏改築願ノ書式

本堂庫裏改築願

當寺本堂庫裏何年何月何日類燒致シ候ニ付今般檀徒總代協議ノ上建築費ヲ支出シ別紙設計仕様書ノ通り改築仕度候間御許可相成度此段奉願候也
年 月 日

何府縣何市郡町村大字何々
何宗派何寺住職 級 氏 名
右檀徒總代 三 名

(注意) 府縣知事宛ナルモ郡長分任事項ナルニ付郡長ニ提出ス改築費用ヲ一般公衆ノ寄附金ニ依ル場合ハ本願ノ追書ニ「追テ本願書改築ニ關スル書式」

◇寺院本堂庫裏修繕願ノ書式

寺院本堂庫裏修繕願

ル寄附金募集願ハ別願書トシテ差出候間同時ニ御許可相成度爲念此段申添候也」ト記載ヲ要ス
寺院本堂庫裏ハ大破致シ到底小修繕ノ能クスル處ニアラサルヲ以テ今般檀徒總代協議ノ上建築費ヲ支出シ別紙設計仕様書ノ通り修繕仕度候間御許可相成度此段奉願候也
年 月 日

何縣郡町村大字何
何宗派何寺住職 級 氏 名
右檀徒總代 三 名

(注意) 府縣知事宛
但小修繕ノ如キハ許可ヲ要セサルモ寄附金ヲ募集スルカ如キ場合ハ凡テ許可ヲ經サル可カラス

◇寺院創立願ノ書式

寺院創立願

何郡何村ハ明治何年ノ開墾地ニシテ最初ハ人家僅

五六戸ナリシモ漸次増加シテ現今三百餘戸ト相成リ遂ニ一村ヲ成スニ至リタルモ新開墾地ニ付近傍ニ一ヶ寺モ無之其ノ最近ノモノト雖トモ尙二十餘里ヲ隔リタル何々寺アルノミ然ルニ當村全體何宗派ノ信徒ニ有之候間別紙ノ通り一寺創立致度候間御許可相成度此段奉願候也

何縣何郡村大字何
創立者何某外何百人總代
三 名

府縣知事宛

- 別紙ハ左ノ如シ
- 一、豫定明細帳 境内坪數
- 二、本堂庫裏ノ位置ヲ示シタル見取圖面
- 三、維持ノ方法ヲ記載シタル書類

◇寄附金募集願

何府縣何市郡何町村大字何
新義真言宗智山派 何々々 寺
右舊藩時代南部利直公ヨリ該寺接續地高何百石ヲ寺領トシテ附與相成該寺ヲ維持致シ來リ候處維新後御改革相成候以來右様ノ事無之僅ニ七十餘戸ノ檀家ニテ目下大破セルモ修繕及維持ノ方法相立タ

サルニ付今般廣ク信仰諸人ヨリ寄附募集ノ上修繕費及永久維持資本ニ致度候間御許可被成下度別紙設計書及募集調書相添此段奉願候也

何縣郡村大字何
何宗派何寺住職 級 氏 名
右檀徒總代 三 名
府縣知事宛
募集調書

一募集ノ目的

該寺ハ資本財産ヲ有セス僅ニ七十餘戸ノ檀家ニテハ維持及ヒ難ク遺憾ニモ維新後完全ナル修繕ヲ爲ササル爲メ大破ノ個所多ク現ニ修理セサルヘカラサルニ相迫リタルニ依リ弘ク信仰諸人ノ寄附ヲ得是非修繕及維持資本ノ設備致度目的ニ有之候

修繕費金何百何拾圓
維持資本金何百何拾圓
一募集方法

該寺ノ住職及ヒ檀徒總代各地ニ出張シテ募集シ住職ヨリ右募集ニ關スル書類ヲ添付シテ寄附ヲ申入ル、方法ニ候
受納手簿ハ募集臺帳及一定ノ受領證ヲ備ヘ置キ金員ヲ領收シタル時ハ直ニ記帳ノ上受領證ヲ交

◇寺院寄附金募集延期願ノ書式

寄附金募集延期願
何郡何村大字何々寺本堂庫裏修繕寄附募集ノ儀何年何月何日指命第何號ヲ以テ御許可相成爾來募集ニ從事罷在候處本年凶作ノ結果一般困難ノ場合寄附金蒐集ノ見込相立タス候ニ付何年何月何日迄募集期限延期ノ儀御許可被成下度檀徒總代連署ヲ以テ此段奉願候也

何縣何郡村何字何々
何宗派何寺住職 級 氏 名
右檀徒總代 三 名
府縣知事宛

◇寄附金募集従事者

住所番地
職 業 氏 名
同 上 氏 名
同 上 氏 名
生年月日 名

右之者ヲ以テ寄附募集ニ従事セシメ決シテ前記已

付シ右ノ記帳交付ハ住職掌理ス

- 一募集金額 何百何拾圓
- 一募集區域 何々縣管内
- 一募集金管理方法

住職ニ於テ募集シタル金額何圓ニ達シタル時ハ直ニ郵便貯金又ハ確實ナル銀行ニ預ケ入レ利殖シ置キ修繕費ノ外該方法ニヨリ永遠維持スルモノトス

(別紙) 修繕設計書

一金何百何拾圓
内 譯
金何拾圓 杉何百本 但一本何拾錢ノ見込
金何拾圓 栗何百本 但一本何拾錢ノ見込
金何拾圓 松何百本 但一本何拾錢ノ見込
金何百圓 何々々 但何々々
金何百圓 工作料費 但大工木挽其他凡何百人
右ノ通り設計仕候也
年 月 日

(別紙) 三ヶ年間ノ間該寺院收支計算調(書式略ス)

(注意) 募集ノ區域二以上ノ府縣ニ跨ルトキハ内務大臣ノ許可ヲ要ス
管長ノ添書ヲ要ス

外ノ者ヲシテ募集セシメ間敷候也

年月日

連署人前記ノ通り

(備考) 寄附募集従事者ハ身分確實ナルモノヲ選ミ認可ヲ得タル者ノ外他人ヲ用ユルコト能ハス若シ已外ノ者ヲシテ募集セシムルトキハ規定ノ處罰ヲ受クルニ依リ従事者ヲ變更シタルトキハ直ニ手續ヲナスヘシ又募集ノ目的ガ本堂再建ナルトキハ建築設計書及圖面ヲ添付スヘシ

◇寶物觀覽料徵收許可願

(殿堂及庭園モ之ニ準知スヘシ)

府縣市郡區町村大字

新義眞言宗智山派 何 寺 院

寶物種類詳細列記(庭園及建物ハ坪數記載) 右ハ當寺什寶物ニ有之從來閉鎖罷在候處今般結縁ノ爲メ殿堂内ニ陳列シ一般衆庶ニ觀覽セシメ取締法トシテ別紙ノ通り觀覽料ヲ徵收仕度候間御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲相添ヘ此段出願候也

年月日

連署人ハ任職及檀徒總代

地方長官宛

◇觀覽料徵收方法

- 一位 置 寶物ハ本堂ノ外陣ヨリ書院ニ陳列ス
- 一來 觀 寶物ノ由緒
- 一觀 覽 料 一人何錢
- 一徵收ノ理由 觀覽人ノ混雜ヲ避クル爲メ
- 一徵收期間 何月間
- 一料金處分 確實ナル銀行ニ預入シ堂宇修繕費ニ充ツ

右之通り相違無之候也

年月日

連署人前記ノ通り

◇什寶物寄托願

府縣市郡區町村大字

新義眞言宗智山派 何 寺 院

什寶物何々 筆者、彫者、着色、堅何尺、横何尺 右ハ當寺什寶物ニ有之候處今般一般世人ニ知ラシメンガ爲メ何博物館ニ寄托致度雙方異議無之候間

御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲相添ヘ此段出願候也

年月日

連署人任職、總代、法類、本寺

地方長官宛

(備考) 若シ國寶ナルトキハ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

◇寶物保管承認願

(美術品トシテ指定セラレタル場合ノ如キ)

府縣市郡區町村大字

新義眞言宗智山派 何 寺 院

寶物何々 同上ノ通り記載 右ハ當寺所藏ノ寶物ニ有之候處今般美術上ノ參考ト相成寶庫ニ格護致スヘキ筈ノ處當寺ニハ寶庫又ハ倉庫ノ設無之ニ付鎖鑰ヲ有スル鞏固ナル函ニ入レ本堂内ニ保管仕度候間特ニ御承認相成度關係者連署シ本派管長ノ副仲相添ヘ此段出願候也

年月日

連署人前記ノ通り

地方長官宛

書式

◇國寶物修理費補助願

府縣市郡區町村大字

新義眞言宗智山派 何 寺 院

寶物何々 同上ノ通り記載 修理費金何百圓也

内

金何百圓也 補助出願額

當寺負擔額

右ハ曩ニ國寶ニ指定セラレタル寶物ニ有之今同日本美術院ニ托シ修理仕度候處前記ノ修理費ヲ要シ候得共到底全部ノ負擔ニ難堪候ニ付該修理費幾分ニ相當スル金額右社寺保存施行法細則第二條ニ依リ御補助被成下度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲及修理請負契約書相添ヘ此段出願仕候也

年月日

連署人前記ノ通り

内務大臣宛

(備考) 修理請負契約書ハ定メラレタル書式アリ仍テ該書式ニ依準シ雙方調印契約スヘシ

◇佛像開扉許可願

府縣市郡區町村大字
新義眞言宗智山派 何 寺院

開扉佛像何々

右ハ當寺秘藏ノ佛像ニ有之候處今回諸人結縁ノ爲メ開扉スヘキ様信徒ノ懇請ニ依リ何年何月何日ヨリ何月何日迄開扉仕度勿論勸財強制的行爲ハ決シテ致間敷候間御許可相成度關係者連署シ本派管長ノ副仲相添へ此段出願候也
年 月 日

連署人住職、檀徒總代、法類、本寺
地方長官宛
(備考) 更ニ開扉執行方法書一通添附ノコト

◇佛像出開張許可願

府縣市郡區町村大字
新義眞言宗智山派 何 寺院

開張佛像 何々

右ハ當寺靈像ニ有之候處從來ノ例ニ依リ今回何縣管内へ出開張仕候明治十七年三月内務省乙第十六號達ニ基キ出願仕候間御許可被成下度尤モ御許可ノ上ハ更ニ某縣官廳ノ許可ヲ受クヘク關係者一同連署シ本派管長ノ副仲及規約書相添へ此段出願候也

リ其都度届出ヲ爲スヘシ

◇境内へ佛像安置許可願

府縣市郡區町村大字
新義眞言宗智山派 何 寺院

安置スヘキ佛像記載

右ハ今般當寺檀徒ノ寄附鑄造ニ係ルモノニ有之當寺境内へ永久保存安置仕度候間御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲及方法書並ニ圖面相添へ此段出願候也
年 月 日

連署人住職、檀徒總代、法類、本寺
内務大臣宛

◇方法書

- 一 佛像安置ノ位置 別紙圖面ノ通り
 - 二 佛像ヲ安置スヘキ土地ノ種目
 - 三 佛像ノ物質 官、民、有地第何種
 - 四 製作法 金、石、木、土等
 - 五 費用募集及支出方法 彫刻、鑄物等、高何尺
- 費用ハ募集セス(若シ募集スルナラハ其書式

追テ開張ノ時日並ニ場所ノ確定次第當寺住職ヨリ御届申ヘク候也
年 月 日

連署人前記ノ通り

◇開張執行規約書

- 一 何佛像開張法式執行スルハ素ヨリ教法ヲ擴張シ庶民化導ヲ主トシ王法ヲ翼賛スルヲ專トスルコト
 - 一 開張中ハ連日午前何時ヨリ始メ午後何時限リ開閉嚴重ニ致スヘキコト
 - 一 信徒取締又ハ執行者共ニ毎日出席シ百事ヲ監シ參詣者等混雜ナキ様致スヘキコト
 - 一 偽物ヲ飾リ衆人ヲ眩惑シ或ハ金錢強制等ノ義決シテ致間敷コト
 - 其他必要ノ條項ヲ記載ス
- 右之條々確實ニ相守リ不都合無之様可仕此段規約致候也
年 月 日

開張從事者連署

(備考) 出開張ハ内務省令第十六號ニ基キ他管内ニ出ツルトキハ甲乙兩官廳ノ許可ヲ得タル上開張スヘシ又開張場所ハ豫メ決定シ當事者主任ヨ

六 佛像ノ管理及維持法
方法記載) 支出ハ當事者何某擔任ス
管理ハ當寺住職ノ責任トシ檀徒(又ハ信徒)ノ喜捨金ヲ以テ維持ス

右ノ通相違無之候也
年 月 日

連署人前記ノ通り

◇寺有基本金一時使用許可願

府縣市郡區町村大字
新義眞言宗智山派 何 寺院

一金何百圓也

内 金何圓也

一時使用額

右ハ當寺明細帳ニ書上置候什金ニ有之候處今般地所買入ノ爲メ一時至急ヲ要シ檀信徒ニ於テモ出金ノ途無之一同協議ノ上前記什金ノ内何圓也使用仕度尤モ該金ハ別紙書面ノ方法ニ依リ填補仕候間御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲及填補方法書相添へ此段出願候也
年 月 日

連署人住職、檀徒總代、法類、本寺
地方長官宛

◆什金補填方法

一金何圓也
右金額ヲ填補スル爲メ住職及檀徒何十戸ヨリ毎月金何錢宛積立何ケ年ニテ填補可致(又ハ寺院ノ財產所得ヨリ一ケ年何圓宛積立何ケ年ニテ全額填補スルコト)候也
年 月 日

住職、檀徒總代連署ノコト
(備考) 保存金祠堂金ノ使用モ之ニ準知スヘシ

◆國寶指定願

何縣何郡何村
新義真言宗智山派 何 々 寺
右寺ハ弘仁年間弘法大師ノ開創ニシテ中古ノ沿革未詳ナレトモ當寺本堂ニ安置スル正觀世音菩薩ノ像ハ運慶法師白檀木ヲ以テ彫刻シタル像ナルコトハ何々舊記ニ依ルモ明瞭ノ事實ニ候ヘハ御調査ノ上國寶へ御指定被成下度別紙目錄相添へ此段請願仕候也

右何寺住職及關係人連署
內務大臣宛
此願書ニ出願セントスル佛像ノ寸法臺座厨子ノ形

狀等ヲ詳細ニ記シタルモノヲ添フヘシ

◆墓地拂下地目變換願

(備考) 本願ハ東京市内寺院ニシテ市所有ノ墓地ヲ拂下宅地ニ變換スル場合ニ必要ナルモノナリ(若シ寺院所有墓地ナルトキハ改葬ノ上墓地ニ變換スヘシ)

東京市區町番地 何 寺 院
新義真言宗智山派 何 寺 院

地番、、、、
一墓地全坪數記載

內 (分割拂下ノ場合)

何坪、、、、
但シ改葬濟

右ノ墓地從來當寺ニ於テ管理罷在候處今般市役所ノ諭告ニ基キ宅地ニ變換シ當寺ノ固定財產ノ一部ニ致度尤モ何年何月何日所轄警察署ノ許可ヲ得テ改葬濟ニ有之且墓石所有者ニ於テモ異議無之候間相當代價ヲ以テ御拂下相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲及圖面相添へ此段相願候也
追テ改葬費及拂下代金ハ關係者ニ於テ支辨可致候也

年 月 日

連署人ハ住職、檀徒總代、及法類本寺
東京市參事會東京市長某殿

(備考) 宅地拂下ヲナスニハ其趣旨ヲ市内發行ノ新聞紙三四ニ一週間已上ノ廣告ヲ爲シ墓石ノ有緣無緣ヲ明ニシ其廣告切抜ト有緣墓石ノ所有人承諾書ヲ添へ所轄警察署長ノ許可ヲ得テ改葬ヲ遂行スヘシ
又改葬費及拂下代金ハ凡テ其豫算ヲ立テ該金ノ收支並ニ金員出途方法書ヲ宗務所宛ニ認メ添書願ニ添附シ出願スヘシ

◆境内枯損木伐採願

府縣市區町村大字 何 寺 院
新義真言宗智山派 何 寺 院
枯損木何 目通何尺何寸 何本
右ハ當寺境内樹木ニ有之候處數年來枯損ノ爲メ腐蝕ヲ生シ候間伐採御許可相成度關係者一同連署シ本宗管長ノ副仲相添へ此段相願候也
年 月 日

連署人ハ住職、檀徒總代
地方長官又ハ郡長宛

(備考) 病木、風損木、障木、伐採ハ凡テ此ノ書式ニ準シ認ムヘシ

書式

◆境内地貸渡許可願

府縣市區町村大字 何 寺 院
新義真言宗智山派 何 寺 院
地番、、、、
境内地反別何畝步 官(民)有地
地價金(民有地ノトキ) 貸 渡 地
內 何畝步

右當寺境内ニ有之候處何月何日ヨリ向フ三ヶ月間何郡區何町村大字何番地何某へ參詣人休息所建設ノ爲メ前記ノ畝步貸渡シ度尤モ該地域ハ圖面未引ノ通り寺院ノ風致其他法要等ニ毫モ支障無之又貸渡料ハ當寺修繕費ノ内へ差加候間願意速ニ御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲並ニ圖面相添へ此段相願候也
年 月 日

連署人ハ前記ノ通り
地方長官宛

(備考) 境内地ノ貸與期限ハ三ヶ月ヲ越ユル能ハス又目的ハ永住家屋等建設ヲ許サ、レハ若シ期限延長スルトキハ繼續貸與ノ手續ヲナスヘシ又一時限リノモノハ(例へハ大法要ノ期間中)ハ

地所寄附者 氏 名印
 同 上 氏 名印
 建物 同上 氏 名印
 (其他寄附者連署ノ事)
 同上 氏 名印
 同上 親戚 氏 名印
 同上 保護人 氏 名印
 同上 豫約檀徒總代 氏 名印
 同上 同上 氏 名印
 同上 同上 氏 名印
 組寺總代 某寺住職 名印
 氏 名印

◇新寺創立寺號公稱許可願

(備考) 新寺創立寺號公稱ハ目下北海道廳内ニ於テ許可セラル内地ニ在テハ或ル特別ノ

事情アルニアラサレハ許可ヲ得ル能ハス故ニ多クハ寺號移轉ノ手續ニ依テ其ノ目的ヲ達ス本願書ハ北海道廳内ニ於テ許可セラレタルモノニ付其例ヲ示ス
 北海道廳國郡村大字
 何宗派 何山何院何寺
 本道廳内何國何郡何村附近ハ拓地殖民ノ土地ナルヲ以テ陸續移住民アリ當村ノ如キモ近年移住民増加シ既ニ郡中屈指ノ繁盛ヲ來シ隨テ宗教信仰ノ輩モ數多有之候然ルニ未タ當村及本郡内ニハ更ニ寺院無之爲メニ住民ハ禮佛開法スルコト能ハス且ツ弔祭葬儀ニ際シテ頗ル不便ヲ感シ常ニ慨歎致シ居候處幸ニ何宗派ノ僧何某當地ニ來リ布教スル機會ニ接シ明治何年何月當村何某等發起卒先本宗信徒ニ同協議ノ上本堂庫裡建設並ニ維持ノ方法ヲ講シテ蓄積セシ金圓既ニ何千百圓ヲ得テ明治何年何月何村何某ノ所有ニ係ル宅地何畝歩寄附契約ニ依リテ寺院敷地ニ充テ何年何月工事ニ着手シ何年何月別紙繪圖面ノ通間口何間奥行何間ノ本堂竣工シ尙間口何間奥行何間ノ庫裡建設シ隨テ永續維持ノ方法モ確立シ又佛像佛具一切器具等ニ至ル迄悉ク完備セルヲ以テ何府縣市郡區何町村大字何某寺末寺トシ寺號ヲ何山何院何寺ト公稱仕候度候間願意速ニ御許可被下度仍テ明細書維持方法書境内圖面及

建設仕様書檀徒信徒數人名表並ニ寄附契約書本派管長ノ副仲相添へ此段奉願候也
 追テ本願御許可ノ上ハ何某ヲ以テ住職ト相定メ度又地所建物ハ寺號名義ニ登記手續可致候也
 年 月 日

住所番地 寺號公稱發地並ニ豫約檀徒總代 氏 名印
 同 上 氏 名印
 同 上 氏 名印
 同 上 氏 名印
 豫約住職 某寺住職 名印
 法 類 某寺住職 名印
 同 上 某寺住職 名印
 組 寺 某寺住職 名印
 同 上 某寺住職 名印
 豫約本寺 某寺住職 名印
 北海道廳長官宛

◇明細書

北海道、、、、
 書式

新義真言宗智山派 何 寺 院
 一本尊御、御丈何尺何寸 立坐像壹軀
 一兩脇士 同 二軀
 一兩大師 同上 二軀
 一由緒 同上
 一境内敷地 何畝歩 民有地第何種
 一本堂 何造何葺 間口何間 奥行何間 建坪數
 一庫裡 同 同
 (其他ニ有ラハ記載ノコト)
 一住職(豫約) 氏名 人員 何人
 一檀徒(同) 何戸
 一信徒(同) 何戸
 一本廳距離 何里
 右之通り相違無之候也
 年 月 日 連署人ハ發起者總代豫約住職

◇通常經費一ケ年收支豫算調

一金何十圓也 收入總額
 内 金何圓也 永續資金利子
 金何圓也 檀信徒施入高
 一金何十圓也 支出總額
 内 金何圓也 木尊供養料
 金何圓也 堂宇修繕費

金何圓也

住職生活費

收支差引 金何圓

剩餘

右之通り相違無之候也

年月日

連署人前記ノ通り

寄附釀金使用仕譯書

一金何千圓也

明治何年何月ヨリ何年何月迄續徒及信徒有志寄附金高

内譯

金何圓也

支出費目記載

同

右ノ通り相違無之候也

年月日

連署人前記ノ通り

未設建物建築監督契約書

御管下何國何郡何村大字何何宗派何山何院何寺々號公稱御許可ヲ蒙リタル上ハ拙者共同寺何(本堂又ハ庫裡)建築ニ付テハ監督ノ責任ヲ負ヒ滿何月間ニ建築落成可仕様取計可申依テ此段連署ヲ以テ誓約致置キ候也

年月日

連署人前記ノ通り

北海道廳長官宛

(備考)右ノ契約證ハ未設建物アル場合ニ添附ス

寄附證書

地番、、、、

一郡村宅地何反何畝歩

持主 某

地價金何圓也

右ハ今回何寺公稱出願ニ付該寺敷地トシテ永遠寄附可仕向寺號公稱御許可ノ上ハ何寺名義ニ改メ登記手續可致爲後日寄附證書一札如件

年月日

右寄附人

氏名

名印

何寺創立氏名殿

(備考一) 此ノ例ニ倣ヒ檀信徒及有志者ヨリノ寄附ニ係ル地所、建物、什具、器具、金額ニ至ル迄悉ク寄附證書ヲ認メ添附スヘシ

尙此ノ外ニ基本財産トシテ地所及建物アラハ其價格見積證明書ヲ要ス

(備考二) 前記ノ外要スヘキ書類ハ左ノ如シ

一 未設建物アルトキハ其設計仕様書

一 境内平面圖、建物圖面

一 檀徒(又ハ信徒)員數及人名表

(備考三) 新寺創立寺號公稱ハ北海道廳令ニ於テ規定セラレタル條項ニ依準シ境内地坪數建物坪數基本財産等ニ牴觸セサル様注意スヘシ

四、寺院ニ關スル日用法規

○宗教事務所管左ノ如ク移管セララル (明治維新以前ハ省略ス)

民政部

大藏省

教部省

内務省

内務省

明治三年七月社寺掛ヲ置キ同十月社寺寮ト改ム(明治二年七月民政部ヲ置キ八月民政部大藏省ニ併合明治三年七月更ニ分省セラレ)

明治四年七月民政部ヲ廢シ大藏省ニ戶籍寮社寺課ヲ置ク(神祇省所管外ノ社寺ノコトヲ掌

祇官ト改メ明治五年三月廢官セラレ)

明治五年三月大藏省社寺課ヲ廢シ教部省ヲ置キ四月教導職ヲ設ケ三條ノ教憲ヲ定ム

六月佛道各宗ニ教導職管長ヲ置キ(八月總テ教導職ニ補シ)

十一月大教院ヲ設ケ六年二月神官僧侶ニ限ラス有志者一般教導職ニ補ス

三月大教院事務章程並教導職々制ヲ定ム

明治七年三月佛道各派ニ管長ヲ置ク

トコトヲ許サル(明治八年三月神佛合併大教院差止メラル(局ヲ設ケ)

(内務省ハ明治六年十一月設置)

明治十年一月教部省ヲ廢シ内務省ニ社寺局ヲ置ク

明治十七年八月教導職ヲ廢シ教宗派ノコトハ神佛各管長ニ委任セララル

明治三十三年四月社寺局ヲ廢シ神社局宗教局ヲ置ク

寺院ニ關スル日用法規

文部省

大正二年六月内務省ヨリ宗教局ヲ文部省ニ移管セララル

(文部大臣ハ教育學務及宗教ニ關スル掌ル、神佛各派、寺院、宗教ノ用ニ供スレタル事項ニ關スル事項) 二、古社寺保存ニ關スル事項 三、僧侶及) 以上

○(信教自由)憲法 明治二十二年二月十一日發布

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨グス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

○教導職ヲ廢シ教宗派ノ取締ヲ神佛各管長ニ委任スル件 明治十七年八月十一日 太政官布達第十九號

自今神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトハ總テ各管長ニ委任シ更ニ左ノ條件ヲ定ム

第一條 各宗派妄リニ分合ヲ唱ヘ或ハ宗派ノ間ニ爭論ヲ爲ス可ラス

第二條 管長ハ神道各派ニ一人佛道各宗ニ一人ヲ定ムヘシ

但事宜ニ因リ神道ニ於テ數派聯合シテ管長一人ヲ定メ佛道ニ於テ各派管長一人ヲ置クモ妨ケナシ

第三條 管長ヲ定ムヘキ規則ハ神佛各其教規宗制

第四條

ニ由テ之ヲ一定シ内務卿ノ認可ヲ得ヘシ
管長ハ各其立教開宗ノ主義ニ由テ左項ノ
條規ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ得ヘシ

一 教規

一 教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事
一 教師ノ等級進退ノ事
以上神道管長ノ定ムヘキ者トス

一 宗制

一 僧侶並教師タルノ分限及其稱號ヲ
定ムル事
一 寺院ノ住職任免及教師ノ等級進退
ノ事
一 寺院ニ屬スル古文書寶物什器ノ類
ヲ保存スルコト

第五條

佛道管長ハ各宗制ニ依テ古來宗派ニ長タ
ル者ノ名稱ヲ取調ヘ内務卿ノ認可ヲ得テ之ヲ稱
スルコトヲ得

○重要ナル事項ハ教規宗制中ニ編入スヘキ
件(明治十八年三月十八日)神佛各管長
(内務省丁第一號達)

教規宗制認可ヲ與ヘタル後ハ從前認可シタル教規

宗制ノ部類ハ總テ認可ノ動ヲ失ヒ候儀ニ付重要ノ
事項ニシテ認可ヲ乞フヘキモノハ更ニ教規宗制中
ニ編入可差出儀ト可相心得此旨相達候事

○教規宗制ヲ制定變更スルトキ説明書ヲ付
スヘキ件(明治廿七年七月二十日社)神佛各管長
(寺局通牒社甲第五十一號)
自今教規ヲ制定變更シ之カ認可ヲ請フトキハ其認
可申請書ニ其制定變更ニ係ル條章ノ説明書ヲ添付
ノ上御差出相成度命ニ依リ此段及通牒候也

○宗制等ノ不備ヲ補充スル規則ノ認可ヲ受
ケシム(明治二十八年四月十九日)佛道各管長
(内務省訓令第二百八十五號)

佛道各宗派宗制寺法并僧侶教師ノ分限稱號住職ノ
任免教師ノ等級進退及寺院ニ屬スル古文書寶物什
物類ノ保管ニ關スル條規ハ總テ明治十七年太政官
第十九號布達ニ依リ之ヲ定メ本大臣ノ認可ヲ受ク
ヘキノ處近頃宗派中其條規ノ不備ヲ補充スルカ爲
ニ本大臣ノ認可ヲ受ケスシテ別ニ規則ヲ制定實施
スルモノアルヤニ相聞ヘ甚タ不都合ノ次第ニ付其
既ニ實施スルト否トニ拘ラス至急該規則ヲ具シ該
布達ニ依リ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ

○教規宗制中ニ教師檢定試驗條規ヲ定ムル
件(明治二十八年五月三十日)神佛各管長
(内務省訓令第九號)

神道佛道各教宗派教師ハ布教傳道ノ任ニアルヲ以
テ學識德行兼備シ世上ノ崇敬欽仰ヲ受クヘキ者タ
リ故ニ其分限及等級ヲ定ムルニ當リ特ニ其手續ヲ
精確詳悉ニシ濫補ノ弊ナカラシムルコトヲ期スヘシ然
ルニ現今教師中無學悖德ニシテ其任ニ適セサルモ
ノ尠カラスト聞ク此ノ如キハ管ニ教師ノ本分ヲ盡
クス能ハサルノミナラス其弊延テ教義宗旨ノ不振
及德義ノ廢頹ヲ來シ遂ニハ教宗派ノ衰微ヲ招キ茶
毒ヲ社會ニ流布スルコトナキヲ保シ難シ其弊源一
ニシテ足ラスト雖モ主トシテ教規又ハ宗制寺法中
教師檢定ニ關スル不備ニ基クモノトス是實ニ各教
宗派ニ於テ寸刻モ其條規ヲ改定スルニ躊躇スヘカ
ラサル所ナリ殊ニ明治二十三年小學校令ノ發布以
來滿六歳以上十四歳以下ノ兒童ハ該勅令第二十一
條ニ該當スル者ヲ除ク外ハ小學校其他ニ於テ普通
教育ヲ受クルニ至レリ故ニ斯ノ如キ人民ニ布教傳
道スル教師ハ教義宗旨ニ精通スルノ外尙尋常中學
科相當以上ノ學識ヲ具備スルニ非レハ到底其任ニ
適セス各管長ハ其趣旨ヲ體シ左記ノ標準ニヨリ教
規又ハ宗制寺法ヲ改正増補シ若クハ其細則ヲ定メ
本年九月三十日マテニ明治十七年太政官第十九號
布達ニヨリ本大臣ノ認可ヲ請フヘシ

一 檢定ノ方法

教師檢定條規標準

教師ノ分限及等級ヲ定ムルニ試驗ニヨル者ト試
驗ニヨラサル者トアルトキハ試驗ニヨル者ニハ
志願者ノ資格各等級ノ試驗學科目並ニ試驗ノ方
法ヲ記載シ又試驗ニヨラサル者ハ志願者ノ資格
及無試驗檢定ニ必要ナル條件ヲ記載スヘシ

二 檢定ノ時期及場所

其時期ハ定時ナルヤ臨時ナルヤ又其場所ハ何處
ナルヤ

三 檢定委員

檢定委員ノ員數、資格、權限、任期並ニ選任ノ
方法ヲ記載スヘシ

四 立會人

試驗ニ立會人ヲ要スルトキハ其員數權限及選任
ノ方法ヲ記載スヘシ

(參照)

小學校令(抄)明治廿三年十月七日勅令第二百十五號

第二十一條 貧窮ノ爲又ハ兒童ノ疾病ノ爲其
他已ムヲ得サル事故ノ爲學齡兒童ヲ就學セ
シムルコト能ハサルトキハ學齡兒童ヲ保護
スヘキ者ハ就學ノ猶豫又ハ免除ヲ市町村長
ニ申立ツヘシ

市町村長ハ前項ノ申立ニ依リ必要ナリト認
ムルトキ又ハ前項ノ申立ナキモ猶必要ナリ
ト認ムルトキハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ニ

就テ検査ヲ行フコトヲ得
市町村長ハ本條第一項ノ申立又ハ第二項ノ
検査ニ依リ就學ヲ猶豫シ又ハ免除スルトキ
ハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

○他宗派ニ關係ヲ有スル寺院ニ關スル件
(明治三十二年八月二十一日)佛道各管長
(社寺局通牒社甲第二十號)

其宗派寺院ニシテ他宗派本山ノ末寺タル者等總テ
他宗派ニ關係ヲ有スルモノ有之候ハハ其寺院住職
ノ任免其他宗制寺法上ニ規定ヲ要スル事項ハ關係
宗派管長協議ノ上相當規定ヲ設ケ速カニ認可申請
ノ手續ニ及ハルヘク命ニ依リ此段及通牒候也

○管長身分ノ件

(明治十七年八月十一日)神佛各宗派
(太政官公達第六十八號)

○管長代理人ニ關スル件

(明治二十七年二月五日)神佛各管長
(內務省訓令第七十六號)

○教宗派事務ニ關スル出願ハ管長ヲ經由ス
ヘキ件(明治二十二年五月二十七日)神佛各管長
(內務省訓令第二十二號)

○神社寺院規則(大正四年八月十六日)

第一條 神社ヲ創立セムトスルトキハ左ノ事項ヲ
具シ創立地ニ於テ崇敬者ト爲ルヘキ者三十人以
上連署シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 創立ノ事由
 - 二 神社ノ稱號
 - 三 創立地名
 - 四 祭神
 - 五 建物并境内地ノ坪數、圖面及境内地周圍ノ狀況
 - 六 創立費及其支辨方法
 - 七 維持ノ方法
 - 八 崇敬者ノ數
- 第二條 寺院ヲ創立セムトスルトキハ左ノ事項ヲ

具シ創立地ニ於テ檀信徒ト爲ルヘキ者三十人以
上連署シ所屬宗派管長ノ承認書ヲ添ヘ朝鮮總督
ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 創立ノ事由
 - 二 寺院ノ稱號
 - 三 創立地名
 - 四 本尊并所屬宗派ノ名稱
 - 五 建物並境内地ノ坪數、圖面及境内地周圍ノ狀況
 - 六 創立費及其支辨方法
 - 七 維持ノ方法
 - 八 檀信徒ノ數
- 第三條 神社ニハ神殿及拜殿ヲ備フヘシ
- 第四條 寺院ニハ本堂及庫裡ヲ備フヘシ
- 第五條 神社又ハ寺院創立ノ許可ヲ受ケタル者許
可ノ日ヨリ二年内ニ神殿、拜殿又ハ本堂、庫裡
ヲ建設セサルトキハ許可ハ其効力ヲ失フ但シ特
別ノ事由アルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ其期
間ヲ延長スルコトヲ得
- 第六條 變災ニ依リ神殿、拜殿又ハ本堂庫裡ヲ亡
失シタルトキ又ハ亡失シタル神殿拜殿又ハ本堂
庫裡ヲ亡失ノ日ヨリ六年内ニ再建セサルトキハ
創立許可ハ其効ヲ失フ

第七條 神社又ハ寺院ヲ移轉セムトスルトキハ左
ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 移轉ノ事由
 - 二 移轉先地名
 - 三 建物並境内地ノ坪數、圖面及境内地周圍ノ狀況
 - 四 移轉地及其支辨方法
 - 五 第五條ノ規定ハ神社又ハ寺院移轉ノ場合
ニ之ヲ準用ス
 - 六 第九條 神社又ハ寺院ヲ廢止又ハ合併セムトスル
トキハ其事由及財産ノ處分方法ヲ具シ朝鮮總督
ノ許可ヲ受クヘシ
 - 七 第十條 左ニ掲タル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ許可
ヲ受クヘシ
 - 一 神社ノ稱號ヲ變更シ又ハ祭神ヲ増減變更
セムトスルトキ
 - 二 寺院ノ稱號ヲ變更シ又ハ本尊ヲ増減變更
セムトスルトキ
 - 三 寺院ノ所屬宗派ヲ變更セムトスルトキ
 - 四 神社又ハ寺院ノ維持ノ方法ヲ變更セント
スルトキ
 - 五 建物又ハ境内地ノ坪數ヲ増減セントスル
トキ
- 前項第五號ノ場合ニ於テハ其圖面ヲ申請書ニ添

附スヘシ

第十一條 寺院ニハ住職ヲ置キ寺院ニ關スル事務ヲ管理セシムヘシ

住職ヲ命セラレタルトキハ本人、死亡其他ノ爲住職ニ異動アリタルトキハ檀信徒總代ヨリ之ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第十二條 神社ニハ崇敬者總代、寺院ニハ檀信徒總代各三人以上ヲ置キ其住所氏名ヲ其神社寺院所在地ヲ管轄スル道長官ニ届出ツヘシ其異動アリタルトキ亦同シ

道長官ハ前項ノ總代ヲ不適任ト認ムルトキハ變更セシムルコトヲ得

總代ハ神社又ハ寺院ノ維持保存ニ關シ神職又ハ住職ヲ補助シ神社又ハ寺院ニ關スル願届ニ連署スヘシ

第十三條 神社又ハ寺院ハ其所有ニ屬スル不動産及寶物ニ關シ左ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ニ届出ツヘシ其異動アリタルトキ亦同シ

一 土地ニ在リテハ所在地、地番號、地目、面積及境内地、境外地ノ區別

二 建物ニ在リテハ所在地、建坪、名稱、構造ノ種類及境内地ニ在ルモノト境外地ニ在ルモノトノ區別

三 寶物ニ在リテハ其ノ名稱、員數、品質、

形狀、寸尺、作者及傳來

第十四條 神社又ハ寺院ハ財產臺帳ヲ備ヘ其所有ニ屬スル不動産及寶物ニ關シ前條各號ノ事項ヲ登載スヘシ

第十五條 左ニ掲クル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

一 不動産又ハ寶物ヲ賣却、讓與、交換、質入若ハ抵當トナサムトスルトキ

二 境内地ノ立竹木ヲ伐採セムトスルトキ

三 負債ヲナサムトスルトキ

第十六條 境内地及其建物ハ道長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ神社ニアリテハ祭典儀式ノ執行、寺院ニアリテハ傳法、布教、法要執行及僧尼止住ノ目的以外ニ濫ニ之ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ得ス

第十七條 第五條第一項但書、第七條、第九條、第十條又ハ第十五條ニ依リ寺院ヨリ提出スル願書ニハ其所屬宗派管長ノ意見書ヲ添附スヘシ

第十八條 本條ニ依ル届出ハ其事故ノ生レタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲スヘシ

第十九條 本條中寺院ニ關スル規定ハ内地ニ於ケル佛道各宗派ニ屬スルモノニ限リ之ヲ適用ス

第二十條 許可ヲ受ケスシテ神社寺院又ハ之ニ類似ノ建造物ヲ設ケタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ

二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本令ハ大正四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ存在スル神社又ハ寺院ハ本令施行ノ日ヨリ五月内ニ第一條又ハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ

○布教規則(大正四年八月十六日 朝鮮總督府令第八十二號)

第一條 本條ニ於テ宗教ト稱スルハ神道、佛道及基督教ヲ謂フ

第二條 宗教ノ宣布ニ從事セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ布教者タル資格ヲ證明スヘキ文書及履歷書ヲ添ヘ朝鮮總督ニ届出ツヘシ但シ布教管理若置キタル教派、宗派又ハ朝鮮ノ寺刹ニ屬スル者ニアリテハ第二號ノ事項ヲ省略スルコトヲ得

一 宗教及其教派、宗派ノ名稱

二 教義ノ要領

三 布教ノ方法

前項各號ニ掲クル事項ヲ變更シタルトキハ十日
第三條 朝鮮總督ニ届出ツヘシ
第三條 神道各教派又ハ内地ノ佛道各宗派ニ於テ布教ヲ爲サムトスルトキハ其ノ教派又ハ宗派ノ

寺院ニ關スル日用法規

管長ハ布教管理者ヲ定メ左ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

一 宗教及其教派、宗派ノ名稱

二 教規又ハ宗制

三 布教ノ方法

四 布教管理者ノ權限

五 布教者監督ノ方法

六 布教管理事務所ノ位置

七 布教管理者ノ氏名及其履歷書

前項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 朝鮮總督ハ布教ノ方法、布教管理者ノ權限及布教者監督ノ方法又ハ布教管理者ヲ不適當ト認ムルトキハ其變更ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 布教管理者ハ朝鮮ニ居住スル者タルコトヲ要ス布教管理者ハ毎年十二月三十一日ノ現在ニヨリ所屬布教者名簿ヲ作り翌年一月三十一日迄ニ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第六條 朝鮮總督ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ニヨリ布教管理者ヲ置キタルトキハ十日

ニ第三條第一項各號ノ事項ヲ朝鮮總督ニ届出ツ
ヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
第七條 前條ノ布教管理者ニ付テハ第四條及第五
條ノ規定ヲ準用ス
第三條以外ノ教派又ハ宗派ニ於テ其規約等ニヨ
リ布教管理者ヲ置キタルトキハ第四條、第五條
及前條第二項ノ規定ヲ準用ス
第八條 宗教ノ宣布ニ從事スル者氏名ヲ變更シ居
住地ヲ移轉シ又ハ布教ヲ廢止シタルトキハ十日
以内ニ朝鮮總督ニ届出ツヘシ
第九條 宗教ノ用ニ供スル爲教會堂、說教所又ハ
講義所ノ類ヲ設立セムトスルモノハ左ノ事項ヲ
具シ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ
一 設立ヲ要スル事由
二 名稱及所在地
三 敷地ノ面積及建物ノ坪數、其ノ所有者ノ
氏名並圖面
四 宗教及其教派宗派ノ名稱
五 布教擔任者ノ資格及其選定方法
六 設立費及其ノ支辨方法
七 管理及維持ノ方法
前項第五號ニ依リ布教擔任者ヲ選定シタルトキ
ハ設立者又ハ布教管理者ハ其氏名及居住地ヲ具
シ履歷書ヲ添ヘ十日以内ニ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

之ヲ變更シタルトキ亦同シ
第十條 前條第一項第二號乃至第七號ノ事項ヲ變
更セムトスルトキハ其事由ヲ具シ朝鮮總督ノ許
可ヲ受クヘシ
第十一條 宗教ノ用ニ供スル教會堂、說教所又ハ
講義所ノ類ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ朝鮮總
督ニ届出ツヘシ
第十二條 布教管理者及朝鮮寺刹ノ本寺住持ハ各
其所屬寺院、教會堂、說教所又ハ講義所別ニ每
年十二月三十一日ノ現在ニ依リ其ノ信徒數及其
年ニ於ケル信徒ノ増減數ヲ翌年一月三十一日迄
ニ朝鮮總督ニ届出ツヘシ
前項ノ届出ハ布教管理者ヲ置カサル教派、宗派
及朝鮮ノ寺刹ニ屬セサル教會堂、說教所又ハ講
義所ニ在リテハ各其ノ布教擔任者ヨリ届出ツヘ
シ
第十三條 布教管理者ヲ置キタル教派、宗派ニ屬
スル者又ハ朝鮮ノ寺刹ニ屬スル者本令ニ依リ許
可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲サムトスルトキハ布教管
理者又ハ本寺住持ノ副書ヲ添附スヘシ
第十四條 第九條第一項又ハ第十條ニ違反シタル
者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第十五條 朝鮮總督ハ必要アル場合ニ於テハ宗教
類似ノ團體ト認ムルモノニ本令ヲ準用スルコト
シ

アルヘシ
前項ニ依リ本令ヲ準用スヘキ團體ハ之ヲ告示ス
附 則

ニヨリ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第十六條 本令ハ大正四年十月一日ヨリ之ヲ施行
ス

○教師住職懲戒ハ其都度報告ノ件
(明治廿七年二月五日) 神佛各宗管長
(内務省訓令第四號)

第十七條 明治三十九年統監府令第四十五號ハ之
ヲ廢止ス

自今教師僧侶ニ對シ教規宗制等ニ規定セル懲戒法
ニヨリ教師住職ヲ罷免シ又ハ宗内擯斥ノ處分ヲ爲
シタルトキ若クハ右處分ノ後ニ更ニ減免等前懲戒
ニ關スル處分ヲ爲シタル時ハ其人名處分及事由ヲ
略記シ其都度届出ツヘシ

第十八條 明治三十九年統監府令第四十五號第一
條、第二條及第三條ニ依リ認可ヲ受ケタル者ハ
本令第二條ノ届出ヲ爲シ又ハ第三條ノ認可若ハ
第九條ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス但シ本令第
二條ニ該當スル者ニ在リテハ同條第一項第二號
ノ事項、本令第三條ニ該當スル者ニ在リテハ同
條第一項第二號第四號ノ事項、本令第九條ニ該
當スル者ニ在リテハ同條第一項第三號第五號ノ
事項並布教擔任者ノ氏名及履歷ヲ具シ本令施行
ノ日ヨリ三月内ニ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

○同上報告記載事項ノ件
(明治二十八年一月十一日) 神佛各管長
(日神社局通牒第二三號)

第十九條 本令施行ノ際現ニ宗教ノ宣布ニ從事シ
布教管理者ヲ置キ又ハ宗教ノ用ニ供スル教會
堂、說教所講義所ノ類ヲ管理スル者ニシテ前條
ニ該當セサル者ハ本令施行ノ日ヨリ三月内ニ第
二條第三條又ハ第九條ノ事項ヲ具シ朝鮮總督ニ
届出ツヘシ

其宗教所屬僧侶懲戒處分届出ノ儀ハ自今總テ懲戒申
渡書ノ謄本ヲ添ヘテ左記ノ事項詳細御報告相成度
此段及通牒候也
一 懲戒スヘキ所爲
一 懲戒ノ理由

但裁判所又ハ警察署ニ於テ法律命令ニヨリ處
分ヲ受ケタルカ爲メニ懲戒ヲ懲戒ニ處シタル
トキハ其宣告書又ハ言渡書ノ謄本ヲ添付スヘ
シ若シ之ナキ時ハ其宣告又ハ言渡ヲ受ケタル
裁判所又ハ警察署及年月日處分ニ適用シタル

前項ニ依リ第九條ノ事項ヲ届出テタル者ハ本令
寺院ニ關スル日用法規

法律命令ノ條項並罪名刑罰ヲ詳記スヘシ
懲戒ニ適用シタル教規宗ノ條項
以 上

○教師住職ノ犯罪者又ハ行政上妨害者ハ管
長ヘ照會スヘキ件

(明治廿年一月六日)道廳府縣宛
(內務省訓令第一號)

神佛教師及寺院住職タル者犯罪ノ處分ヲ受ケ若ク
ハ行政上妨害ノ行爲アリト認ムルモノハ相當處分
方直ニ該管長ヘ照會スヘシ

○同上管長ニ於テ取調相當處分スヘキ件

(明治二十年一月六日)神佛各管長
(內務省訓令第二號)

教師及寺院住職タル者犯罪ノ處分ヲ受ケ若クハ行
政上妨害ノ行爲アリト認メ地方廳ヨリ照會ニ及
フモノハ取調相當處分ノ上其都度當省ヘ届出ツヘ
シ

○懲戒ノ赦免ハ教規宗制ノ明文ニ依ルヘキ
件(明治三十年十月十八日)神佛各管長
(內務省訓令第九十三號)

教規宗制ニ依リ懲戒シタル者ニ對スル赦免ハ教規
宗制等本大臣ノ認可ヲ經タル規則ノ明文ニ依ルニ
非レハ之ヲ行フコトヲ得サル儀ト心得ラルヘシ

○住職教師等處刑通報ノ件

(明治三十五年十月二十七日宗教)
(局社寺局通牒社甲第二十九號)府縣

神職又ハ住職若ハ神佛教師ニシテ左記各號ノ一ニ
該當スルモノアルトキハ其處分ヲナシタル裁判所
ヨリ其都度貴官ヘ報告スヘキ旨今般司法省ヨリ裁
判所ヘ訓令相成候

- 一 家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其裁判確定
シタルトキ及復權ノ裁判確定シタルトキ
- 二 剝奪公權若ハ停止公權ヲ附加スヘキ重罪輕
罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケ其裁判確定シタルトキ
右爲御心得依命及通牒候也

○禁厭祈禱ヲ以テ醫藥ヲ妨クル者取締ノ件
(明治七年六月七日)府縣
(教部省達第二十二號)

別紙乙第三十三號ノ通神道諸宗管長ヘ相違候條向
後禁厭祈禱ヲ以テ醫藥等差止メ政治ノ妨害ト相成
候様ノ所業致候者有之候ハ、於地方官取締可致此

旨相違候事

(別紙)

同日教部省乙第三十三號達 神道諸宗管長
禁厭祈禱ノ儀ハ神道諸宗共人民ノ請求ニ應シ從來
ノ傳法執行候ハ元ヨリ不苦筋候處間ニハ之レカ爲
メ醫藥ヲ妨ケ湯藥ヲ止メ候向モ有之哉ニ相聞以ノ
外ノ事ニ候抑教導職タルモノ右等貴重ノ人命ニ關
シ衆庶ノ方向ヲモ誤ラセ候様ノ所業有之候テハ朝
旨ニ乖戻シ政治ノ障碍ト相成甚以テ不都合ノ次第
ニ候條向後心得違ノ者無之様屹度取締可致此旨相
違候事

○禁厭祈禱ハ醫師診斷施療中ノ者ニ限ル件
(明治十五年七月十日)府縣
(內務省達乙第四十二號)

別紙戊三號ノ通神道副總裁
有之候ハ、直ニ差止置委詳當省ヘ具狀可致此旨相
違候事
(別紙)

同日內務省達戊第三號 神道副總裁神佛各
管長

禁厭祈禱ノ儀ニ付七年月教部省乙第三十三號達ノ

寺院ニ關スル日用法規

趣有之候處病者治療ノ際之カ爲メ投藥ノ時機ヲ誤
リ候儀モ有之哉ニ相聞不都合候條今後信者ヨリ請
求候節ハ先服藥ノ有無ヲ證明セシメ果シテ醫師診
斷施療中ノ者ニ限リ其望ニ應シ不苦候條其旨屹度
可相心得此段相違候事

○僧侶肉食妻帶ニ關スル件

(明治五年四月二十五日)
(太政官第三百三十三號布告)

自今僧侶肉食妻帶蓄髮等可爲勝手事、但法用ノ外
ハ人民一般ノ服ヲ着用不苦候事

○僧侶禮服ノ件(明治七年三月二十四日)

(太政官布告第三八號)

神官、教導職及僧侶禮服ノ儀左ノ通相定候條此旨
夫々ヘ可布告事

(節略)

一 僧侶ハ法用ノ外禮服着用ノ節通常禮服又ハ法
衣可相用事

○住職ノ職分ニ關スル件(明治七年七月十日)

(太政官布告第七四號)

今般華士族分家候者ハ總テ平民籍ニ編入相成候ニ

付本年一月第八號僧尼族籍編入ノ布告自今左ノ通更定候條此旨僧侶へ布告スヘキ事

- (節略)
- 一 僧尼ノ輩族籍被相定候條各自其原籍ニ復スヘキ事
- 一 本末寺共住職タル者宗教事務管理ノ儀一般職分同様タルヘキ事
- 一 但一寺住職ノ者ハ平民タリ共總テ身分取扱士族ニ準シ候儀ハ從前ノ通タルヘキ事
- 一 戶籍法中右等ニ抵觸ノ廉ハ總テ廢止候事

○僧侶ハ政黨ニ關スヘカラストノ達

(明治二十三年六月十四日第四號達)

軌近各黨競争ノ餘リ往々宗教ノ勢力ヲ假用シ爲ニ同一佛教内ニ於テ不和等ヲ生スル哉ノ虞ナキニアラス甚キニ至テハ宗教家ノ本分ヲ忘却シ政黨ニ加入シ又ハ政黨間ノ事務ニ奔走スル等心得違ノ向往々有之哉ニ付宗僧侶ニ於テハ右様ノ事有間敷ハ勿論各寺檀徒又ハ信徒中政治上競争ヲ社交上ニ及ホシ兄弟相爭ヒ朋友相敵視シ姦計ヲ運シ人ノ名譽ヲ毀損スル等實ニ德義ノ何タルヲ顧ミサルモノ有之ニ於テハ社會道德ノ維持者タル宗教者ハ決シテ之ヲ等閑ニ看過スヘキニ非レハ固ヨリ僧侶ハ政黨間

ノ競争ニ關與スヘキ所ニ非スト雖モ社交上不德義ノ行爲アリト認ムル上ハ其間ニ立チ充分ノ調和ヲ試ミ道德ヲ壞亂セシメサル様盡力可致事
但シ右場合ニ付何等ノ事情ト雖本堂ハ勿論其他ノ建物トモ政談若クハ政黨ニ關スル會合等ニ貸渡シ申間敷事
右各管長會議ノ決議ニ據リ諭達ス

○僧侶ハ政争ニ干與スヘカラサル件

(明治三十一年二月一日 內務省社寺局秘甲第七號)

僧侶教師ハ専ラ布教傳道ニ從事スルモノナルヲ以テ大政ニ容喙シ政社ニ加入シ政治ノ競争ニ關與スヘカラサルコトハ從前屢々訓戒スル所ナルニ依リ平素職掌ヲ嚴守シ苟モ心得違ノ舉動ナカルヘキハ勿論ナリト雖モ今回衆議院議員選舉ニ際シ自己ノ選舉權ヲ行フノ外直接ト間接ト問ハス之ニ干預スルコトアリテハ本人失職ノ責ヲ免カレサルノミナラス爲之選舉ノ公正ヲ失シ徒ニ紛擾ヲ増加シ不都合ノ義ニ付此際教師僧侶ヲシテ各自警省シ不都合ノ行爲無之様訓示シ特ニ其舉動ニ對シ十分御監督有之度命ニ依リ此段申進候也

(參照) 明治二十六年十二月社寺局示達

神佛兩道各派ノ教師僧侶タル者ハ善ク其教義宗旨

ヲ講明シ公衆ヲ教導スルニ當リ苟モ偏黨ノ行爲アルヘカラスト大政ニ容喙シ時事ニ狂奔スルカ如キハ其職分ト相容レス然ルニ方今動モスレハ世上ノ風潮ニ伴ヒテ政社ニ加入シ政談ヲ爲シ甚シキニ至リテハ力ヲ宗教ニ藉リテ政治ヲ論議シ若クハ力ヲ政治ニ藉リテ宗教ニ從事スルノ輩往々ナキニシモアラスト聞ク斯ノ如キハ苟クモ身ヲ宗教ニ委ネタル教師僧侶ノ爲ス可ラサル行爲ナルヲ以テ適宜ノ取締法ヲ設ケ其宗派内ニ懇篤諭示シ以テ布教傳道ノ職分ヲ格守セシムヘシ命ニ依リ示達ス

(參照) 明治二十七年二月十四日內務省訓令第六號

神佛各宗派管長

布教傳道ニ從事スルモノハ超然政黨以外ニ特立スルニ非レハ政黨ノ競争ヨリシテ終ニ檀信徒ノ圓滿寺院ノ鞏固宗派ノ安寧秩序ヲ傷クルニ至ルノ恐ナシトセス殊ニ信教ヲ利用シテ政黨競争ノ器具トナスカ如キハ不穩當ノ至ニシテ衆議院議員選舉法第十二條ノ精神ニモ違背スルノ嫌アルノミナラス萬一信徒ヲ誤ラシムルカ如キ事アラハ終ニ或ハ國家ノ安寧ヲ傷クルニ至ルノ虞ナシトセス依テ今回ノ衆議院議員改選ニ際シテモ教師僧侶タルモノニ於テ心得違ナキ様嚴重ニ訓諭シ置クヘシ

(參照) 法律第三號衆議院議員選舉法

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

(參照) 明治二十八年五月十五日社寺局甲第一一五號通牒

神道佛道各教宗派教師僧侶タルモノハ其教義宗旨ヲ講說シ布教傳道ニ從事シ苟クモ偏黨ノ行爲アルヘカラスト國政ニ容喙シ政事ヲ論議スルカ如キハ其本分ト相容レサルニ付嚴重ニ取締有之度旨明治二十六年十二月內務大臣ノ命ニ依リ本官ヨリ示達致置候處近頃僧侶教師中ニ本分ヲ忘レ政治ニ奔走シ時事ニ關與スルモノアリ殊ニ對清戰爭漸ク其局ヲ結ヒ五月十三日詔勅及勅令ノ公布セラレタルニ當リ私ニ其條款ニ不滿ヲ抱キ往々力ヲ宣教ニ藉リテ排外的感念ヲ挑發セシメ以テ講和事件ノ進行ヲ妨害セントスルモノアルヤニ相聞ユ右ハ布教傳道ヲ以テ自任スル教師僧侶ノ爲スヘカラサル行爲タルノミナラス敵愾教唆ノ餘凶徒ヲ出ス如キコトアラハ實ニ容易ナラサル儀ニシテ國家ノ體面ニ關シ治安ヲ妨害スルコト尠カラズ本年四月二十一日及五月十三日詔勅ノ御趣旨ニ反戾シ教師僧侶トシテ曠職ノ責等閑ニ附スヘカラサル次第ニ付此際一層取締方ヲ警戒注意シ派内教師僧侶ヲシテ不都合ノ行爲無之様嚴重示諭有之度大臣ノ命ニ依リ此段申進候也

○治安警察法(僧侶其他諸宗教師ハ政治上ノ結社ニ加入シ得サル規定) 明治三十三年三月九日法律第三十六號

第五條 左ニ掲クル者ハ政治上ノ結社ニ加入スルコトヲ得ス
三 神官神職僧侶其ノ他諸宗教師

○民事訴訟法(抄) 明治二十三年四月二十一日法律第二十九號

第二百九十八條 左ノ場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第二 醫師、藥商、穩婆、辯護士、公證人、神職及ヒ僧侶カ其身分又ハ職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因リテ知リタル事實ニシテ默秘スヘキモノニ關スルトキ

○刑事訴訟法(抄) 明治三十三年十月七日法律第九十六號

第二百二十五條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第二、醫師、藥商、穩婆、辯護士、辯護人、公證人、神職、僧侶カ其身分職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因リテ知リタル事實ニシテ默秘ス可

キモノニ關スルトキ
證言ヲ拒ム者ハ拒絕ノ原因タル事實ヲ開示シ且之ヲ疏明スヘシ

○秘密漏泄ニ關スル刑法ノ規定
(明治四十四年四月二十三日法律第四十五號)

第三百四條第二項 宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

○僧侶托鉢解禁(明治十四年八月內務省甲第八號布達)

明治五年(十一月)教部省第二十五號達僧侶托鉢禁止之儀相廢候條此旨相達候事
但托鉢者ハ管長ノ免許證ヲ携帯スヘシ

○僧侶托鉢免許方並托鉢者心得

(明治十四年八月內務省戊第二號)佛道各宗派管長僧侶托鉢解禁ノ儀今般別紙甲第八號布達候ニ付テハ自今左ノ條件遵守各派僧侶(教導職試補以上)ノ内托鉢ヲ爲サント欲スル者免許方法及取締規約取調可伺出此旨相達候事

托鉢免許方並托鉢者心得

一 托鉢ヲ免許セシトキハ左ノ雛形ニ照シ免許證ヲ交附シ其都度願者所在ノ地方廳ヘ通知シ東京ハ警視廳ヘモ通知スヘシ
一 托鉢ヲ行フハ午前第七時ヨリ同第十一時迄ヲ限リトス
但遠路往返ノタメ時間ヲ遷延スルハ此限ニ非ス

一 托鉢者ハ如法ノ行裝ニテ免許證ヲ携帯シ行乞スルヲ常トス施者ノ請フアルニアラサレハ人家ニ接近シ濫リニ歩ヲ駐ムヘカラス且施物ハ施者ノ意ニ任セ敢テ餘物ヲ乞フヲ許サス
一 托鉢者ハ一列三人以上十人以下タルヘシ且公眾來往ノ便ヲ妨クヘカラス
一 免許證ハ何時タリトモ警察官ノ檢閲ニ供スヘキモノトス

標碑雛形(木製)
縱六寸 横貳寸

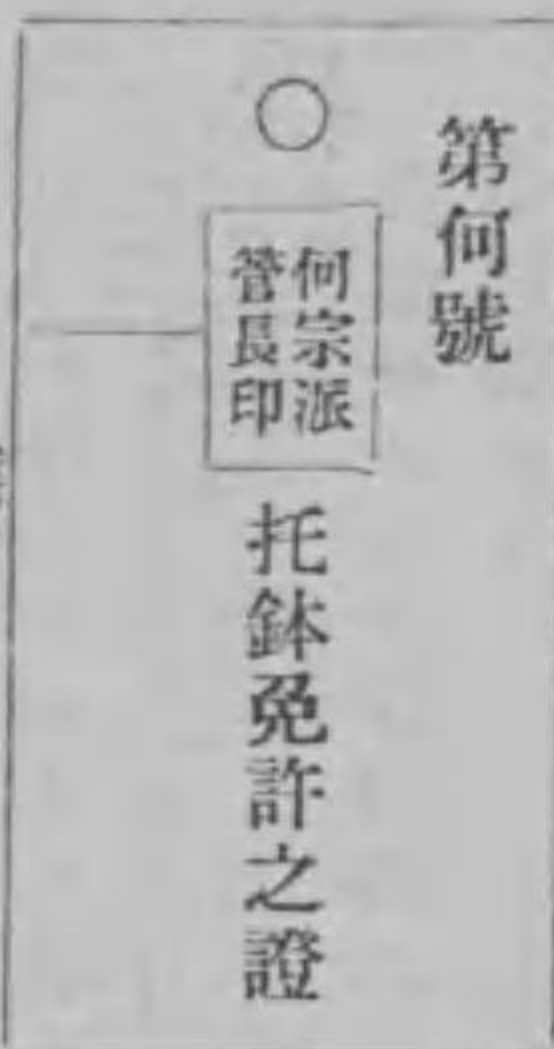
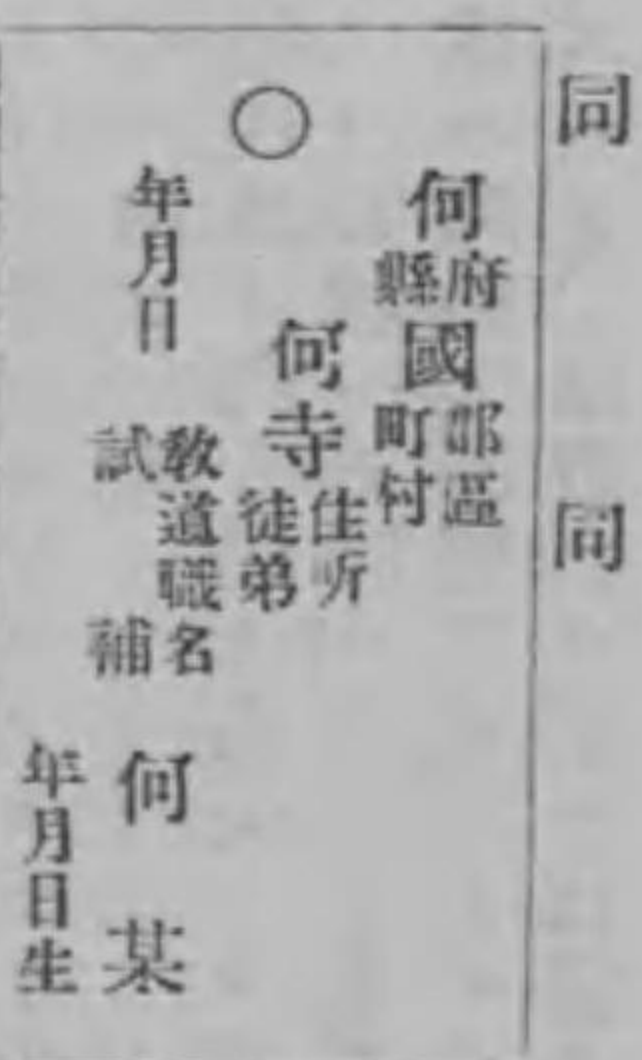


表 何宗派 管長印 托鉢免許之證

○社寺取扱概則(明治十一年九月九日)府縣宛
第一條 社寺之創建ハ(民有地ニ建)神官住職氏子檀徒若クハ信徒ト爲ルヘキモノ(寺院ハ本寺連署戶長與書ヲ以テ願出永續財產ノ目途且其地所建物社寺ノ體(社ハ本殿拜殿ヲ具フルモノニ限リ免許スルヲ得ヘシ、再興復舊等總テ之ニ準ス(十三年內務省達ヲ以テ社寺ノ體)ノ下ニ十二字増補)
第二條 同上移轉廢合並社寺號改稱ハ前條ノ手續ニ準シ其事由ヲ詳記シ願出ルモノニ限リ開屆毎月末取纏メ當省ヘ届出ヘシ尤廢合社寺址地並建物等處分方ノ儀ハ從前ノ通
但式内神社並文明十八年以前ノ創立ニ係ル社寺ノ向ハ前以當省社寺局ヘ照會ヲ經ヘシ
第三條 邸内社堂並掛所道場引直及寺號公稱等ハ

裏



總テ第一條ノ手續ニ從ヒ願出永續ノ用途並建物ノ體堂宇ハ方ヲ具フルモノニ限リ開屆別紙書式ニ做ヒ「毎月未取經當省へ可届出事」(第十三条内務省乙以テ願出ノ下)ハ二十字増補)

第四條 前條々ノ外社寺例格ノ改定並社寺ニ關スル條件中例規ナキモノハ其都度當省へ伺出ヘシ(別紙書式)略ス (註)寺院ニ伐木捕魚鳥禁止ノ制札ハ縣名ヲ以テ建設スルモ差支ナシ

○廢合寺院跡地並建物處分規則

(明治八年九月七日
内務省乙第一一三號達)

廢寺院處分之儀ニ付壬申第三百三十四號御達之趣モ有之候處自今廢合寺院跡地並建物處分規則別紙之通相定候條右規則ニ照準取調可申出此旨相達候事

(別紙)

廢合寺院並建物處分規則

- 第一節 廢寺、無檀、無住
- 一 堂宇建物ハ最初官營私造及寺院先住僧侶ノ資金ヲ以テ建設セシモノ、別ヲ論セス官沒ス
- 一 境内地ノ内從前人民ノ名受ニテ貢租ヲ納メ來リシモノハ其者へ下渡シ寺院ノ名受カ先住僧侶ノ買得カ其他民有ノ確證ナキモノハ却テ官沒ス

ヘシ

一 朱黒印地除地田畑山林等ノ内寺院ノ名受地ハ勿論村方百姓持ノ田畑等アリテ寺院ノ名受トナリタルカ又ハ先住僧侶ノ買得セシモノハ官沒スヘシ

但寺院並先住僧侶ノ資金ヲ以テ開墾セシ證跡アルモノト雖モ官沒スヘシ

一 人民ヨリ寄附ノ田畑アリテ貢租作德共該寺ニ於テ處務致シ來レルモノハ即チ寺附ノ地面ユヘ官沒スヘシ、然シ寄附人ノ子孫再ヒソノ所有ヲ欲セハ相當代價ヲ以テ拂下ヘシ

但寄附セシ次第ニヨリ別段ノ契約アルハ此限ニアラス

第二節 廢寺、有住、無檀

一 現任職自己ノ財產ニ係ルモノ、外ハ第一節及第四節ニ照準シテ處分スヘシ

第三節 合寺、無檀、無住

一 堂宇建物ハ最初官營私造及寺院先住僧侶ノ資金ヲ以テ建設セシモノ、別ヲ論セス合スル所ノ寺院ニ附スヘシ

一 境内地ノ内人民ノ名受ニテ貢租ヲ納メ來リシモノハ其者へ下渡シ寺院ノ名受カ先住僧侶ノ買得或ハ開墾ノ確證アルモノハ合スル所ノ寺院ニ附スヘシ、確證ナクハ官沒スヘシ

但萬一除稅地ノ山林ニ於テ先住僧侶自費ヲ以テ苗木植付等ノ確證アレハ立木ノミ合スル所ノ寺院へ下渡スヘシ

一 人民ヨリ寄附ノ地アレハ合スル所ノ寺院ニ附スヘシ

第四節 合寺、有住、無檀

一 第三節ニ同シ但建物境内地田畑山林等ノ内萬一現任職ノ資金ヲ以テ建造シ或ハ買得開墾等ノ確證アレハ其者ノ意ニ任カスヘシ

第五節 合寺、有檀、無住

一 第三節ニ同シ但建物ハ檀中等ノ私費ヲ以テ造營セシモノ及境内地田畑山林等檀中ノ私費ヲ以テ買得シテ地租ヲ納メ來リシモノ或ハ開墾セシモノハ其合スヘキ寺院並ニ法類等トノ協議ニ任カスヘシ

○寺院廢合ハ本寺法類等ヨリ出願ノモノニ限リ開屆ノ件(明治十二年一月十一日)府縣(内務省達乙第一號)

無檀無住ノ寺院廢止處分ノ儀ハ明治十一年當省乙第五十七號達第二條ノ手續ニ準シ其本寺法類等ヨリ廢合出願ノ上處分可致此旨更ニ相達候事

(參照) 太政官布達第三三四號(明治五年十一月八日)

寺院ニ關スル日用法規

諸寺院中總本山山ヲ除クノ外無檀ニシテ無住ノ向ハ自今總テ被廢止候條各地方官ニ於テ夫々廢合處分ノ上宗名寺號共詳悉取調教部省へ可届出事

但佛像什器等ハ本寺法類ノ内最寄寺院へ合附爲致堂宇建物ノ儀ハ最初營造ノ次第ヲ追ヒ官營ハ公沒シ私造ハ其人民處分ニ可相任官私ノ別不分明ノ向ハ適宜ニ取計ヒ跡地所置ノ儀ハ總テ大藏省へ可伺出事

○寺院移轉ノ節本堂庫裡及地所ニ關スル件(明治十四年六月二十二日)府縣宛(内務省達乙第一六八號訓示)

社寺移轉許可ノ儀ハ十一年九月當省乙第五十七號達第二條ノ通縣限リ處分シ得ルハ勿論ニ候得共自今社寺境内へ移轉ノ外渾テ移轉ノ節ハ十三年乙第二十八號達ノ通リ社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裡ヲ具備シ且地所ハ社寺有若クハ二人以上共有ノ向ニ限リ開屆候儀ト可相心得此旨訓示候也 但文明十八年以前創立ノ向社寺局へ照會ノ儀ハ從前ノ通

○社寺創立再興復舊許可及建設期限ニ關スル件(明治十五年十一月七日)府縣宛(内務省達乙第五九號)

各府縣管内神社寺院等創立再興復舊許可ノ分ハ今

後滿二年以内ニ建設セシムヘシ其建物巨大ニシテ
工事數年ニ渉ルモノハ更ニ狀ヲ具シ伺出許可ヲ受
クルモノトス其他在來ノ社寺ニシテ變災ニ遭ヒ建
物悉皆烏有ニ歸スルモノハ滿五年ニ再建セシメ何
レモ毎月未取纏メ當省ヘ可届出、若シ右期限ヲ過
キ建設セサルモノハ一面許可ヲ停メ一面社寺明細
帳ヲ削除更ニ届出候儀ト可相心得此旨相達候事
但十二年當省乙第三十一號達社寺明細書式申且
境外遙拜所、招魂社、祖靈社ノ書式ヲ廢シ都テ
社寺書式ニ據リ取調フヘシ

○社寺再興等ノ出願注意ノ件

(明治十九年六月十日)府縣宛
(社寺局通牒第二〇〇號)

今般社寺創立等之儀ニ付當省訓第三九七號訓令ノ
趣候ニ付テハ萬一廢絶セル社寺名等ヲ用キ明細帳
脫漏ノ旨ヲ以テ再興等ヲ謀ル様ノ弊ヲ生シ候テハ
不相濟ニ付一層御注意右等出願ノモノ有之候ハ、
篤ト御取札相成度就テハ即今誤脱等申出居候分モ
有之候ハ、早々御取調御上申相成度此段申進候也

○社寺佛堂ノ創立再興復舊等伺出ノ件

(明治十九年六月八日)府縣宛
(內務省訓令第三九七號)

社寺佛堂等ノ創立タル舊幕政ノ際ハ勿論維新後ニ

アリテモ輕シク認可ヲ與ヘサリシニ近年ニ至リ著
シク其數ヲ増加セリ且社格ヲ請フモノ亦比々トシ
テ絶ヘス依テ左ノ箇條ヲ標準トシ一條二條五條ノ
但書ニ該ルモノ、外ハ自今經伺ヲ要セス處分スヘ
シ

右訓示ス

一 社寺及佛堂並建物アル遙拜所ヲ創立再興復舊
セサル事

且移民地及特別ノ緣故アルモノハ事由ヲ具シ
伺出ヘシ

二 凡神佛ニ信事スルハ各自ノ自由ニシテ官之ヲ
制スヘキ限リニ非スト雖モ新ニ社寺ノ數ヲ増
加シ一聚落ニ數社寺アルカ如キハ右社寺ニ衰
頹ヲ與フルノミナラス元來追遠報本ノ祭場タ
レハ復多數ヲ必要トセス

三 神社新規ノ社格及昇格ヲ許サル、事
但特別ノ緣故アルモノハ事由ヲ具シ伺出ヘシ
府縣社以下社格ノ義ハ壬申正月神祇省布達ヲ
以全國ノ神社ヲ調査シ各府縣ノ開申ニ據テ之
ヲ定メ爾後連々追許スルモノ其數少ナカラス
此餘民情一時ノ歸向ニ從ヒ其情願ヲ許ストキ
ハ際限アルヘカラス依テ自今認可セサルモノ
トス

三 祠宇ヲ創設セサル事

(明治二十六年八月一日)府縣
(內務省社甲第四號通牒)

明治二十四年當省訓第一〇一六號ヲ以テ社寺境内
地從來査定ノ區域ハ輒ク變更スヘカラサル旨訓令
相成候處右ハ移轉即チ甲地ヨリ乙地ヘ轉スルモノ
、如キモ該訓令ニ含蓄ノ譯ニ有之候命ニ依リ此段
申進候也

○社寺管外移轉ハ移轉先地方廳ニ打合スヘ

キ件 (明治二十六年九月十二日)府縣
(內務省社甲第六號通牒)

明治二十四年十一月當省訓第一〇一六號訓令ニヨ
ル社寺移轉ニ關スル稟議中他管下ヘ移轉ノモノハ
豫メ移轉先地方廳ヘ打合セ其稟議書ニハ右打合濟
書面ヲ添附スルカ又ハ移轉先地方長官ノ連署ヲ要
シ候條命ニ依リ此段及通報候也

○佛堂ニ對シ寺格ヲ付シ住職ヲ任命スルヲ
得サル件 (明治二十七年三月七日)各管長

近來管長ニ於テ佛堂ニ對シ私ニ寺格ヲ付シ住職ヲ
任命スルモノアル趣相聞ヘ不都合ニ付若從前佛堂
ニ對シ右之如キ處分ヲ爲シタルモノ有之ニ於テハ
速ニ之ヲ取消シ尙將來寺院ト佛堂トヲ混同シ右等

○社寺ノ移轉ハ輒ク許可セサル件
寺院ニ關スル日用法規

四 祖靈社ヲ創設セサル事
祖靈社ハ其祭主累代ノ靈祠ニシテ一般神社ノ性
質ヲ有セサルモノニヨリ譬ヘハ祭主共同シテ一
祠ヲ建ツルモ其共同者ノ參拜ニ止マルモノナレ
ハ神社境内外或ハ山野等ニ建設スルハ神社ニ紛
ハシキニヨリ自今許可セサルモノトス

五 官有社寺境内ニ紀念碑建設セサル事 (二十九年
內務省訓令第八六七號ヲ以テ官
有地ヲ官有社寺境内ト改メ)

但國家ニ功勞アルモノ及顯揚スヘキ事蹟アル
モノハ事由ヲ具シ伺出ツヘシ
紀念碑ハ其人在世ノ功蹟ヲ頌揚シ公衆ノ感格
ヲ生セシメ行爲ヲ勵マスト要スルモノナルニ
建碑出願ノモノ詩歌或ハ尋常ノ履歷ヲ刻シ一
家ノ追慕ニ止リ一般公衆ニ影響セサルモノ多
シ依テ本條ノ如シ

不都合ノ處置無之様御注意可有之命ニ依リ此段申進候也

○社寺ノ創立再興復舊及境内變更等道廳へ委任ノ件(明治三十年三月十二日)道廳宛
(拓殖務省訓令第七四號)

左ニ掲クル事項ノ處分ハ之ヲ委任ス 但處分後即報スヘシ

- 一 社寺創立、復舊、再興願許否ノ事
- 二 祠宇建設願許否ノ件
- 三 社寺並祠宇ノ移轉及社寺境内變更願許否ノ事
- 四 明細帳脫漏ノ社寺編入方及同帳中祭神本尊社格社號(宮號ニ訂正スル)外誤謬訂正願ニ關スル事
- 五 乃至八略ス

○國寶又ハ特別保護建造物ヲ有スル社寺佛堂ノ廢合改稱稟議ノ件
(明治三十四年五月二十日)道廳府縣宛
(內務省訓令第三九〇號)

國寶又ハ特別保護建造物ヲ有スル社寺佛堂ヲ廢合改稱セントスルトキハ豫メ事由及國寶又ハ特別保護建造物ノ處理方法ヲ具シ當省へ稟議スヘシ但明治八年九月當省乙第百十三號達ニ該當スル場合ハ

臣ニ於テ之ヲ合併シタル神社寺院佛堂ニ讓與スルコトヲ得

○社寺合併獎勵ニ關スル件

(明治三十九年八月十四日)
(內務省社甲第十六號通牒)

今般勅令第二百二十號ヲ以テ神社寺院佛堂合併跡地無代下附發布相成候處右ハ府縣社以下神社ノ總數十九萬三千有餘中由緒ナキ矮少ノ村社無格社夥キニ居リ其數十八萬九千餘ニ達ス此等ノ内ニハ神社ノ體裁備ラズ神職ノ常置ナク祭祀行ハレス崇敬ノ實舉ラサルモノ少ナカラス又寺院ノ數ハ七萬餘佛堂ハ三萬七千有餘ノ多數ニシテ此寺院佛堂中ニハ堂宇頽破シ境内荒廢シ法要行ハレス其名アリテ其實ナキモノ鮮シトセス故ニカ、ル神社寺院佛堂ハ成ルヘク合併セシメ神社寺院等ノ尊嚴ヲ計ラントスル旨趣ニ出テタルニ外ナラス候條此主旨ニ基キ右様ノ神社寺院佛堂ハ成ルヘク合併ヲ行ハシメ殊ニ佛堂ニ在テハ其管理ノ寺院若ハ最寄寺院へ合併セシムルカ又ハ寺院境内ニ移シ境内佛堂ト爲サシムル方法ヲ講セラレ度而シテ合併跡地ノ下附ヲ受ケタルトキハ管理上右下附ノ旨趣ニ悖ルコト無之様嚴密監督相成度依命此段及通牒候也

寺院ニ關スル日用法規

該達ニ依リ處理方法ヲ定メ稟議スル儀ト心得ヘシ

○社寺移轉許可取消後建物等建築猶豫ニ關スル件(明治三十八年十二月六日)府縣
(內務省社甲二二二號通牒)

社寺移轉後二ケ年以内ニ移轉セサルモノハ十五年本省乙第五十九號達前段ニ準シ移轉許可取消方ノ件三十四年十二月社甲第四十七號ヲ以テ通牒致置候處右移轉許可取扱ノ際既ニ從來ノ境内地及其建物其他ニ賣却シタル等ニテ在來ノ場所ニ存立スルコト能ハサル者ハ明治三十年十月本省訓令第四十五號ニ準シ移轉許可取消ノ日ヨリ百日以内ニ再建ノ方法ヲ立テ關係者連署寺院管長副書ヲ以テ届出其方法確實ト認ムルモノニ限り建築ノ爲ニ二ケ年間ノ猶豫ヲ與ヘ若シ百日ヲ經テ再建ノ方法ヲ不申出又ハ滿二ケ年間ニ建築セサルモノハ明細帳削除相成可然コトニ決定致候條爲御心得依命此段及通牒候也

○社寺佛堂合併跡地讓與ニ關スル件

(明治三十九年八月九日)
(勅令第二百二十號)

神社寺院佛堂ノ合併ニ因リ不用ニ歸シタル境内官有地ハ官有財産管理上必要ノモノヲ除ク外内務大

○社寺合併二府縣ニ跨ル場合ノ取扱方ニ關スル件(明治四十年十月九日)
(內務省社甲第三三號通牒)

社寺合併願出ニ付テハ十一年社寺取扱概則第二條ノ規定有之候處其合併社寺ニシテ他府縣ニ跨ルモノハ双方連署ノ上關係地方長官連名宛出願セシメラレ可然(下略)

○社寺合併跡地無償讓與ニ關スル件

(明治四十一年五月十三日)府縣
(內務省社甲第四號通牒)

明治三十九年八月勅令第二百二十號ニ據リ社寺佛堂ノ合併跡地ヲ合併シタル神社寺院佛堂ニ讓與シ得ヘキモノ該勅令發布後合併ニ因リ跡地ト爲リタルモノニ限ル

○境内佛堂ノ創立再興復舊並明細帳脫漏編入ハ稟議ヲ要セサル件

(大正元年十月十六日)府縣
(內務省社甲第四〇三號)

佛堂ノ創立再興復舊並脫漏編入ニ付テハ明治十九年六月訓令第三九七號訓令及同二十七年五月社甲第三十七號通牒ノ次第有之候處自今境内佛堂ニ限リ本省へ稟議ヲ要セサルコトニ決定候條貴廳限リ處分相成可然尤モ其本尊ハ普通寺院佛堂ノ本尊タル

へキ佛像名號若クハ曼荼羅タルへキ儀ト御承知相成度依命此段及通牒候也

○寺院佛堂合併ニ關シ照會ヲ要セサル件

(大正元年十一月十六日)府縣
(內務省宗第四〇三號通牒)

寺院佛堂合併ニ付テハ明治十二年內務省乙第五十七號達第二條但書ニ依リ其合併寺院佛堂カ文明十八年以前ノ創立ニ係ル場合ニ在リテモ尙許可前豫メ當局へ照會ヲ要スルコトニ相成居候處右ノ場合ハ自今照會ヲ要セサルコトニ決定相成候條依命此段及通牒候也

○教院講社設置出願方ノ件

(明治七年七月十二日)神道諸宗管長
(教部省達乙第三十八號)

教院設置並講社願出方區々ニ相成居候自今總テ當省へ相宛其管長添書ヲ以テ可爲差出尤モ講社及社寺外ニ設置候教院ノ分ハ前以テ地所等ノ儀其管轄廳へ申立開濟ノ書面取副候儀ト可爲相心得此旨相達候事

但願主ハ何レモ本職補任ノ者ニ限り可申尤甲管內へ許可ノ講社乙管內へ分社取結候節モ出願手續等本文ノ通りタルへク並其取締ハ同様本職ノ

- 一 祠宇并寺院ノ廢立及財産ニ關スル諸願ハ管長添書スヘシ
- 一 寺院住職進退ハ其都度地方廳へ届出ツヘシ

○各地管外へ移轉合併ハ更ニ願出ツヘキ件

(明治十八年十一月十一日)神佛各管長宛
(社寺局通牒第八五號)

教務所說教所取設移轉廢合等ノ儀ニ付十七年第二號達ノ趣有之候處該第二項ハ其管內限ノ義ニ付各地管外へ移轉合併ノ節ハ更ニ出願候儀ト可相心得此段申入候也

○教會所說教所ハ其祭神若クハ安置佛ノ爲メニスル場合ノ外祭典法用不相成件

(明治二十八年三月一日)神佛各管長宛
(社寺局通牒社甲第六號)

教院教會所又ハ說教所ニ於テ其祭神若クハ安置佛ノタメニスル場合ノ外ハ祭典法用ヲ執行スルコトヲ得ス且其祭典法用ノ時タルト平時タルトヲ問ハス社寺及祠宇ニ類似スル裝飾ヲナシ衆庶ヲ參拜セシムル等ハ不相成儀ニ有之又教師ハ教院教會所又ハ說教所ニ居住スル者ノ外ハ自宅ニ多衆ヲ集メ說教ヲナスヲ得サル次第ニ有之候條不都合ノ行爲等無之様派内へ通達ノ上嚴重取締有之度命ニ依リ此

外不相成儀ト可爲心得事

○教會所說教所ニ於テ葬儀執行衆庶參拜ヲ

許サルノ件 (明治十四年十月三日)神道副總裁
(內務省達乙第四八號)神佛各管長

教院教會所說教所ニ於テ葬祭ヲ執行シ或ハ平素衆庶ニ參拜セシムル等神社寺院ノ所爲ニ做フモノ有之候テハ不都合候條心得違無之様可爲致此旨相達候事

○教會所ノ設置ハ願出移轉廢合ハ届出ツヘ

キ件 (明治十七年十月三十日)神佛各管長
(內務省達乙第二號達)

- 一 教師僧侶ノ現數ハ華族士族平民ニ分チ半年毎ニ取調翌一月七月兩度ニ當省へ届出ヘシ
- 一 但東京ノ教務所ニハ全國教師僧侶ノ姓名及各地方教務所說教所ノ所在等ヲ詳記セル帳簿ヲ備置クヘシ

一 教務所ノ設置、法務所ノ設置、說教所ノ設置ハ從前ノ手續ヲ履ミ地方廳へ願出其移轉廢合及祠宇寺院内ニ設クルモノハ届出ツヘシ (二十年內務省訓令第四六四號ヲ以テ本項改正)

但教務所ニハ教師ノ姓名ヲ詳記セル帳簿ヲ備置クヘシ

段及通牒候也

○同上ニ付道廳府縣へ通牒同日道廳府縣宛

別紙ノ通り神道佛道各教宗派管長ニ通達相成候條右ニ依リ嚴重御取締有之度命ニ依リ此段及通牒候也 (別紙)前ニ出ツ

○教務所說教所異教宗派ニ所屬替不相成ノ

件 (明治三十九年四月五日)府縣
(內務省宗甲第六號通牒)

明治十七年十月本省乙第三十八號達ニヨリ教務所說教所ノ設置ヲ許可スルハ當該宗派ノ教師ガ布教傳道ニ必要ナル設備トシテ公認スルモノナレバ設立主願人ノ進退ニ因テ其所屬ヲ更ムヘキモノニアラス從テ甲教宗派ニ屬スル教務所說教所ヲ乙教宗派ニ所屬若クハ轉屬等ノ願届ヲ爲スモノアルモ一切受理セラレサル儀ト御承知相成度命ニ依リ此段及通牒候也

○教務所說教所ハ所屬替又ハ轉屬不相成件

(明治三十九年四月五日)各管長
(內務省宗甲第六號ノ内)

明治十七年十月本省乙第二號達ニ依リ地方廳ノ許可ヲ得テ設置スル教務所說教所ハ其教宗派ノ教師カ布教傳道ノ爲ニ必要ナル設備ナルヲ以テ其設立主

願人カ當該教宗派ヲ去就スルニ因テ教務所說教所ノ所屬上ニ影響ヲ生スヘキニアラス依テ今般教務所說教所ノ所屬若クハ轉屬等ノ願届ヲナスモノアルモ之ヲ受理スヘカラサル旨地方長官へ通牒相成候條爲御心得此段申入候也

○佛像他管出開帳ノ件

(明治十七年三月十九日)府縣宛
(內務省乙第一六號達)

明治九年教部省第四號布達廢止候條自今寺院佛像他管へ持出開帳ノ義ハ該寺住職檀家總代無檀家ノ寺ハ信徒惣代及本寺法類連署ノ上本山ノ添書ヲ以テ甲乙兩管廳へ出願セシムヘシ此旨相達候事 但寶物持出ハ不相成儀ト心得ヘシ

○本尊ノ増加變更訂正ハ稟議ヲ要セサル件

(明治二十二年七月十六日)府縣
(內務省宗第四〇〇號通牒)

寺院佛堂ノ本尊ノ増加變更若ハ誤謬訂正ニ付テハ明治二十二年七月社甲第八號及同二十七年八月社甲第四〇號通牒ニ依リ處分前本省へ稟議相成候處自今文明十八年以前ノ創立ニ係ルモノヲ除クノ外ハ稟議ヲ要セス貴廳限リ處分相成可然尤モ其ノ本尊タリ得ヘキモノハ普通寺院佛堂ノ本尊タルヘキ

佛像名號若クハ曼荼羅タルヘキ儀ト御承知有之度依而此段及通牒候也

○本尊等増加變更ハ經伺ヲ要スル件

(明治二十二年七月十六日)府縣宛
(內務省記官通牒社甲第八號)

神社寺院合併ノ儀ハ十一年當省乙第五十七號達第二條之通貴廳限リ御處分ノ方ニ候ヘ共新ニ祭神本尊等ヲ増加若クハ變更スルカ如キハ右達第四條ニ準據シ當省ニ經伺ノ上御處分ノ方ニ有之候條爲御注意此段申進候也

○明細帳調製規定(明治十二年內務)

達乙第三十一號)府縣

各管下神社寺院明細帳ノ儀最前進達ノ分脫誤候條別紙書式ニ照準更ニ精密取調且境外遙拜所招魂社祖靈社明細帳ヲモ調製本年六月三十日ノ現況ヲ以テ取調同十二月限り可差出此旨相達候事 但眞宗寺院明細帳ノ儀ハ十年當省乙第六十九號達ノ趣候處今般取調ニ付テハ各宗寺院同様取調差出スヘキ事

(別紙)

寺院明細帳書式

何府縣管下何國何郡何町(村)字何

總本山或ハ本寺又ハ某寺末

何宗何派

某

寺

本尊

由緒

堂宇間數

境內坪數并地種

境內佛堂幾字▲某堂。本尊、由緒、建物

境內庵室幾字▲某庵、本尊、由緒、建物

境外所有地

耕地段別 何町(村)字何 地價金額

山林段別 何町(村)字何 地價金額

宅地段別 何町(村)字何 地價金額

檀徒人數

管轄廳迄ノ距離里數

以上(境外遙拜所、招魂社、祖靈社明細帳書式略ス)

明細帳取調方心得

一 明細帳ハ神社、寺院、境外遙拜社、招魂社、祖靈社ノ五種ニ分チ神社寺院ハ每郡各冊ニ編製シ表紙ニ何國何郡神社寺院明細帳ト署記ス(郡ニシテ他縣ニ跨ル者ハ何郡ノ内ト記シ又一部ニシテ二冊以上ナル者ハ明細帳幾冊ノ内ト記スヘシ)一冊内ハ町村ヲ以テ次叙シ同町村内ノ神社ハ社格寺院ハ宗派ヲ以テ區別シ且冊毎首ニ町村名目錄ヲ附スヘシ境外遙拜所以下ハ每國各冊ニ編製シ表紙

寺院ニ關スル日用法規

ノ署記并目錄ハ前ニ準スヘシ

一 用紙ハ美濃十三界紙ヲ用ヒ一社寺毎ニ各紙ニ相認ムヘシ

一 遙拜所、招魂社、祖靈社并寺院ノ別院支坊末庵等ハ公許共有ニ係ル者ノミヲ取調ヘシ

但官祭招魂社并建物無之遙拜所ハ記載ニ及ハス

一 由緒ハ創立公稱廢合再興復舊移轉及ヒ社格等許可ノ年月并該社寺ニ關スル緣由沿革ヲ詳記スヘシ

一 社寺境内地ノ社寺名受ニ非ル者ハ名受人ノ姓名私有共有ノ別ヲ地種ノ下ニ登記スヘシ

一 社寺境内ニ社堂外ノ建物教院ノ類アラハ社堂間數ノ次ニ並ヘ舉クヘシ

一 社寺ニ氏子檀徒無之向ハ信徒講中ノ類ノ人員ヲ記スヘシ

一 明細帳取調濟ノ後府縣限リ處分セシ事件ニシテ明細帳ヲ改正シ又ハ記入スヘキ者ハ毎月末取

纏メ本省へ届出ツヘシ 但前届出方ノ成規アル

モノハ格別ナリトス尤向後新ニ明細帳書ヲ出ス

モノハ總テ此書式ニ準スヘシ

○堂宇等公賣處分ヲ受ケ百日以内再建ノ方

法ヲ立テサルモノ明細帳削除ノ件

(明治二十年十月二十一日)府縣宛

社寺ニシテ若シ其社殿堂宇等祭祀法用ニ必要ナメ部分公賣處分ヲ請タル場合ニ於テハ該處分ノ日ヨリ百日以内ニ再建ノ方法ヲ立テ關係者連署寺院ハ管長副書ヲ以テ届出ルモノニ限リ建築ノ爲メ滿二ケ年間ノ猶豫ヲ與フヘシ百日ヲ經テ再建ノ方法ヲ不申出又ハ滿二ケ年間ニ建築セサルモノハ明細帳ヲ削除スヘシ

○明細帳脱漏ノ社寺編入方向出ニ關スル件
(明治二十七年五月二日)道廳府縣
(社寺局通牒社甲第三七號)

自今社寺明細帳ニ脱漏ノ社寺編入方向出之節ハ其脱漏ノ事實ヲ確認スルニ足ルヘキ證據ヲ添ユルカ又ハ右證據ナキモノニアリテハ明細帳脱漏ノ社寺ト認定セラレタル事由ヲ詳具シ御伺出相成度命ニ依リ此段申進候也

○明細帳中本尊ノ誤謬訂正ハ稟議ノ件
(明治二十七年八月十九日)道廳府縣
(社寺局通牒社甲第四〇號)

社寺及佛堂明細帳中祭神、本尊、社格、社號、宮號正スルモノ廉ニ於テ誤謬訂正ヲ要スル場合ハ爾今當初誤謬ニ出テシ手續ヲ詳具シ尙之ニ關スル證左ア

分スルノ外ナシト雖モ可成協定ヲ調ハシムル様諭示スヘシ

○社寺移轉ノ許可期限及建物悉皆烏有ハ狹義ニ解釋スヘキ件
(明治三十四年十二月六日)府縣宛
(神社宗教兩局通牒社甲第四七號)

十五年當省乙第五十九號達ノ疑義ニ關シ大阪府知事ト別紙寫ノ通照復候條爲御心得依命此段及通牒候也

大阪府知事照會
(明治三十四年十月十六日)第一三三二七號
明治十五年十一月七日御省乙第五十九號達中疑義ノ廉有之左ニ

- 一 該達前段ノ規定滿二年以内云々ハ神社寺院移轉ノ場合ニモ適用スヘキ筋成ヤ
- 一 又該達後段ノ規定建物悉皆トハ社ニ在テハ本殿以下寺ニ在テハ本堂以下凡明細帳ニ記載ノ建物一モ餘サ、ル場合ヲ指示セラレタル者ノ如シ然レトモ社寺共ニ境内ノ一小社一佛堂其他雜多ナル矮小建物ノ燒殘リタルノ故ヲ以テ悉皆ニアラストナスハ實際當ヲ得サルノ感有之寧ロ神社ニ於テハ本殿拜殿寺院ニ於テハ本堂庫裡ヲ燒失倒潰シ全ク其體ヲ失ヒ祭典法要執行ノ場所ナキニ至リタルモノヲ云フト其

寺院ニ關スル日用法規

レハ其證左相添ヘ内務大臣へ稟議ノ上御處分相成可然命ニ依リ此段申進候也
追テ本文ノ外同帳中訂正ノ廉ハ從前ノ通貴應限リ御處分ノ事ニ候條爲念此段申添候也

○明細帳削除ノ意義及其場合ニ於ケル社寺財產處分ニ關スル件
(明治三十四年六月二十一日)府縣宛
(神社宗教兩局通牒社甲第一八號)

明治十五年本省乙第五十九號達及二十年十月本省訓令第四十五號中明細帳ヲ削除スヘシノ意義及此場合ニ於ケル社寺財產ノ處分ニ付往々疑義ノ向不
少趣ニ候處爾今左記ノ通御取扱相成可然爲御心得依命此段及通牒候也

一 明細帳ノ削除アルトキハ其社寺ハ廢止セラレタルモノナリ尤モ右明細帳ノ削除ハ直ニ其社寺ニ相達スヘシ

一 明治八年本省乙第百十三號達及十九年本省令第一號ニ明文ナキ場合ナルトキハ明細帳削除以前ニ於テ其社寺關係者ヲシテ豫メ削除後ニ於ケル社寺有財產處分方ヲ協定セシムヘシ
社寺關係者前項ノ協定ヲ行ハス又ハ之ヲ行フモ到底其協定調ハサルトキハ明細帳ヲ削除シ其削除後ノ財產處分方ハ民法ノ規定ニ依リ處

解釋ヲ狹義ニナス方取締上便宜ナルノミナラス實際ニ較相當ノ如ク思考スレトモ別段類例モ無之ニ付如何取扱可然哉

右至急御垂示相煩ハシ度此段及照會候也

神社宗教兩局長回答
(明治三十四年十二月六日)社甲第四七號
十月十六日付一第三三二七號ヲ以テ十五年當省乙第五十九號達ニ關スル疑義照會ノ趣了承右第一項ニ付テハ該達ハ移轉ノ許可ニハ當然ノ適用ナキモ該達ニ準シ御取扱相成可然第二項ニ付テハ御意見ノ通リト存候經伺ノ上此段及回答候也

○地所名稱區別
(明治七年十一月七日)太政官布告第百二十號

明治六年三月第百十四號布告地所名稱區別左ノ通官有地

- 第一種 地券ヲ發セズ地租ヲ課セズ地方稅ヲ賦セザルヲ法トス
- 一 皇宮地 (說明略)
- 一 神地
- 第二種 地券ヲ發シ地租ヲ課セズ地方稅ヲ賦セザルヲ法トス、尤モ府縣所用ノ地ハ地券ヲ發セズ唯簿帳ニ記入ス
- 一、皇族賜邸

一、官用地 (説明略)

第三種 地券ヲ發セズ地租ヲ課セズ地方稅ヲ賦セザルヲ法トス 但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其ノ間借地料ヲ納メシム

前六項略

一、民有地ニアラザル堂宇敷地及墳墓地 後略

第四種 地券ヲ發セズ地租ヲ課セズ地方稅ヲ賦セザルヲ法トス

一、寺院、大中小學校說教場病院貧院等民有地ニアラザルモノ

民有地

第一種 地券ヲ發シ地租ヲ課シ地方稅ヲ賦スルヲ法トス

項別略

第二種 地券ヲ發シテ地租地方稅ヲ賦セザルヲ法トス

一、官有ニアラザル鄉村社地及墳墓地等ヲ云フ (以下略)

○市制町村制(抄) (明治二十一年四月十七日) (法律第一號)

市制(町村制)第九十七條左ニ掲クル物件ハ市稅ヲ免除ス

二 社寺及官公立ノ學校病院其他學藝美術及慈善ノ用ニ供スル土地造營物及家屋

○府縣制(抄) (明治三十二年三月十五日) (法律第六十四號)

第一百十條 府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノニ關シテハ法律勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除ク外市町村稅ノ例ニ依ル

○社寺境内ハ猥ニ伐木不相成件

(明治六年七月二日) (太政官布告第二三五號)

社寺境内ノ樹木ハ假令其社寺修繕等ニ相用ヒ候共猥ニ伐木不相成候若シ難止事情有之節ハ其地方廳へ願出許可ヲ可受事

○同上有稅地ニ限リ伐木可開届件

(明治七年十二月十日) (內務省甲第三一號達)

社寺境内樹木ノ義ハ昨六年第二百三十五號公布之通可相心得答ニ候得共社寺ノ私有タル確證有之有稅地ニ係候者及其町村ノ買得候確證有之候有稅地ニ係リ候モノニ限リ無餘儀入用有之伐木致度節ハ所有主ヨリ其事故管轄廳へ申立事實取糺相違ナキニ於テハ可開届候此旨布達候事

○官有地境内ノ異動及伐木出願管長添書ヲ要スル件 (明治十八年十一月十四日) (內務省官房長通牒社丙第十八號)

明治十七年當省乙第三十七號達第二項ハ官有地ニ係ル境内ノ伐木等ノ願モ該達ニ準シ管長添書ヲ要スル儀ト御承知相成度爲御心得此段申進候也

○寺院境内又ハ所有地處分ノ件

(明治二十一年三月二日) (社寺局長通牒)

寺院境内又ハ所有地等處分方ノ義ニ付埼玉縣ヨリ伺出別紙寫ノ通指令相成候此段申進候也

(別紙)

寺院附屬地處分ノ儀稟申 (二十一年二月二十日) (埼玉縣知事伺)

寺院附屬ノ地所建物等賣買其他財產ニ關スル諸願ハ管長ノ添書ヲ要ス云々去ル明治十七年十月御省乙第三十七號達ノ趣モ有之候處道路堤塘河川溝梁等ノ變更改修ニ依リ地方廳又ハ町村ニテ敷地買上ノ節者沿村各所有者ハ承諾シ或ハ舉テ寄附上地地種組換出願スル等ノ場合ニ當リ寺院境内ハ官有民地ヲ問ハス全部ヲ要シ隨テ移轉出願又ハ代地若クハ移轉料ヲ下附シ及境内外ノ幾部分ヲ寄附スル等ノ場合ニ於テハ正式ノ通管長ノ添書ヲナサシメ候得共其境内ノ幾部分又ハ境外所有地ヲ上地又ハ買上候場合ニ於テ時々管長ノ添書ヲ要シ候テハ夥多

ノ日子ヲ要シ工事計畫事業施行上差支ヲ生シ取扱上因難ニ付右ノ場合ニ於テハ住職ハ勿論本寺法類並ニ檀徒總代三名以上連署買上又ハ上地地種組換等願出候節ハ管長ノ添書ヲ要セス處分致可然哉何分ノ御指揮相成度此段稟申候也

指 令

伺之通 但處分ノ都度其宗派管長へ通知スヘシ

○障礙木伐採ハ連署添書ヲ要セサル件

(明治二十二年一月十九日) (內務書記官通牒千甲第二號)

十八年十一月十四日社丙第一八號ヲ以テ明治十七年當省乙第三十七號達第二項ニ付官房長ヨリ通牒ノ趣候處障礙木伐採ノ義ハ本寺法類連署及管長添書ヲ不要處分シ不苦儀ト御承知相成度爲御心得此段申進候也

○社寺境内模様替ニ關スル件

(明治二十二年九月十六日) (府縣) (內務省訓第六四一號)

左ニ掲クル條件ハ自今稟請ヲ要セス處分シテ後報告スヘシ

(節略)

一 官國幣社並延喜式内國史現在神社ヲ除ク外

社寺境内模様替ノ事

但社寺ニ於テ別段由緒アルモノ及風致ヲ損スルモノヲ模様替ヲナスコトヲ得ス

○境内地及本堂庫裡ハ抵當不相成件

(明治二十三年八月十五日)道廳府縣(京都府)社寺局通牒京甲第四號

寺院境内及庫裡等入質ノ儀ニ付京都府伺ニ對シ境内地及本堂庫裡ノ儀ハ法要ニ必要ナル箇所ニ付抵當不相成旨本月二十三日ヲ以テ指令相成候條爲御心得此段申進候也

○社寺境内使用竹木伐採處分

(明治二十四年五月二十二日)内務省訓令第四六二號

官有地社寺境内ヲ他人ニ使用セシムルトキハ其社寺ヨリ管轄廳ノ認可ヲ受ケシムヘシ但祭典等ニ際シ一時使用スルハ其社寺限り承諾スルコトヲ得

官有地社寺境内ノ竹木ヲ伐採シ及ヒ枯損木障碍木處分ニ關スルモノモ前項ニ依ルヘシ前項ニ依リ社寺ヨリ認可ヲ請フ時ハ府縣知事ハ從前ノ例ニ準シ其社寺並風致ヲ保存スルコトニ注意監督スヘシ社寺境内ノ使用料並竹木其他ノ收益ハ其社寺ノ收

○境内地域ハ輒ク變更セサル件

(明治二十四年十一月二十七日)府縣(内務省訓令第千十六號)

社寺ノ境内地ハ官民有地ニ不拘從來査定ノ區域ハ輒ク變更セサル儀ト心得ヘシ

但特別ノ事故アリ事實不得已ト認ムルモノハ該事由ヲ具シ本大臣ヘ稟議スヘシ

○境内地坪數ノ帳簿上ノ誤謬訂正ハ稟議ヲ要セサル件

(明治二十六年七月廿五日)府縣(内務省訓令第五百三十六號)

社寺境内從來民有地第一種ニシテ更ニ同地種ノ區域増加ヲ要スルモノ並ニ同境内官民有地ニ拘ラス坪數等帳簿上ノ誤謬訂正ニシテ實地ノ變更ニ關セサルモノハ自今道廳府縣限リ處分シ其都度當省ヘ報告スヘシ

但社寺地ノ取扱ハ明治十年太政官第四十三號布告ノ趣モ有之民法上ノ性質ニ影響ヲ及ホシ往々權利者及社寺トノ間紛議ヲ惹起スルノ恐モ有之ニ依リ新タニ境内ヘ増加ノ義ハ處分上充分注意スヘシ

○境内地區域變更稟議書ニ關スル件

(明治二十七年十一月十九日)府縣(内務省社甲第七六號通牒)

寺院ニ關スル日用法規

入ニ屬スヘシ

但收入財産ハ明治十四年當省乙第三十三號達ニ依リ整理スヘシ前各項ニ關スル事項ハ渾テ從前ノ例規ニ準據取扱候様嚴ニ注意スヘシ

○枯損障害又ハ測量支障等ノ伐木處分委任ノ件

(明治二十四年七月二十四日)道廳府縣(内務省訓令第一四四號)

第一條 官有土地水面ニ關スル處分ノ内左ニ掲クルモノハ之ヲ委任ス 但處分ノ後内務報告例ニ依リ報告スヘシ

(中略)

十三 官有土地ニ屬スル枯損、障害又ハ測量ニ支障アル竹木ヲ伐採シ及處分スル事並盜伐誤

伐ニ係ル竹木處分ノ事

十四 天災事變ニ際シ公益ノタメ必要已ムコトヲ得サル場合ニ於テ官有土地ニ屬スル竹木ヲ伐採シ及處分スル事

第二條 前條ノ官有土地水面ニシテ書省直轄又ハ流域兩管轄以上ニ跨ル河川及國道港、河口ニ關係アル者ハ先ツ土木監督署ニ協議ノ上處分スヘシ

二十四年當省訓第一〇一六號訓令ニヨリ官民有社寺境内地査定ノ區域變更ノ儀稟議ノ節ハ其稟議書ニ實地見取略圖(移轉ニ係ルモノハ移轉先境内地及其四圍ノ狀況ヲ見ルニ足ルヘキ圖面)御添付相成度命ニ依リ此段申進候也

○區域變更申收用土地及本省許可ヲ要スル工事ニ關スルモノ取扱方ノ件

(明治二十七年十二月十三日)府縣(内務省社甲第八〇號通牒)

社寺境内地區域變更ノ儀ニ付テハ明治二十四年訓令第一〇一六號ノ旨モ有之候處土地收用法ニ依リ收用セラルヘキ土地及内務大臣ノ許可ヲ要スヘキ工事ニシテ社寺境内地ニ關係ヲ及ホスモノハ其全部ト幾部トニ拘ラス工事設計書ノ外別ニ社寺名及所在郡市町村字並坪數等ヲ詳記シタル調査書且境内ノ幾部ニ係ルモノハ一社寺毎ノ境内見取圖共取添ヘ稟申相成度命ニ依リ此段申進候也

○民有境内官有境内ニ準スル件

(明治二十八年四月六日)道廳府縣宛(内務省訓令第二四〇號)

社寺境内民有地使用及管理ノ方法ハ總テ境内官有地ニ準シテ取扱フヘシ

○同上訓令ニ付取締方

(明治二十八年四月八日) 道廳府縣宛

社寺境内民有地取扱方之儀ニ付四月六日當省訓第
二四〇號ヲ以テ御通達ニ相成候ニ付テハ從前社寺
境内民有地ハ社寺又ハ人民等ノ私有地ト同一ノモ
ト誤謬シ官ノ許可ヲ經スシテ樹木ヲ伐採シ又ハ
休息所其他建物等ヲ設置スル爲永久貸附スル向モ
有之右ハ甚タ不都合ノ次第ニ付爾後該地ハ境内官
有地ニ準シ嚴重御取締有之度依命此段申進候也

○鐵道敷地中社寺佛堂境内地等ニ係ハルモ
ノニ關スル件(明治三十一年十月二十日) 府縣

遞信省ニ於テ敷設セラルヘキ鐵道ノ敷地中社寺佛
堂境内地、名勝地、舊蹟地、古墳、墓地ノ類ニ係
ルモノアルトキハ線路確定前鐵道主務官ヨリ協議
可有之ニ付此場合ニ於テハ篤ト協議シ取調ノ上前
記ノ土地ニシテ疑義アルモノハ稟伺シ然ラサルモ
ノハ其應ニ於テ不都合ナキ様取計フルヘシ

○社寺保管林規則(明治三十二年八月二日)

第一條 社寺土地ノ森林保管ヲ其社寺ノ願出ニヨ
リ許可スルハ本令ノ定ムル所ニヨル
第二條 保管林ノ區域ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條 保管林ノ保管期間ハ十五年ヲ超ユルコト
ヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第四條 社寺ニシテ保管林地ヲ使用セントスルト
キハ大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ

但シ祭典又ハ法用ノ爲一時之ヲ使用スルトキ
ハ此限リニアラス

社寺ハ保管林地ノ使用ニ付林地ノ資質ヲ害シ又
ハ風致ヲ損スルコトヲ得ス

第五條 社寺ハ保管林ニ關シ左ノ義務ヲ負フ

一 火災ノ豫防及消防

二 盜伐誤伐冒認侵墾其他ノ加害行爲ノ豫防
及防止

三 有害動物ノ豫防及驅除

四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存

五 雜樹ノ保育

六 大林區署長ノ命ニ依リ看守人ヲ配置スル
コト

七 大林區署長ノ指定シタル方法ニ從ヒ保管
林ノ植樹補植手入其ノ他造林ニ必要ナル
行爲ヲ爲スコト

第六條 社寺ハ伐採量ノ二分ノ一ニ相當スル主産
物ヲ採取スルコトヲ得

根株ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ之

林ハ其ノ社寺ノ出願ニ依リ本令ニ定ムル保管林
ト爲スコトヲ得

○寺院境内墓地内狩獵禁止ニ關スル狩獵法

ノ規定(明治三十四年四月十二日)

第四條 左ニ掲クル場所ニ於テハ狩獵ヲナスコト
ヲ得ス

五 社寺境内

六 墓地

○寺院佛堂境内官有地木竹管理規則

(明治三十六年三月廿六日)

第一條 寺院佛堂ニ於テ其ノ境内官有地ノ木竹ヲ
採取セントスルトキハ本規則ニ依ルヘキモノト

第二條 枯損木竹又ハ障礙木竹ヲ採取セントスル
トキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 寺院佛堂ノ本堂庫裡ノ造修用材ニ必用ナ
ル竹木ハ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコ
トヲ得但寺院佛堂ノ合併又ハ移轉ノ場合ヲ除ク

外樹木ニツキテハ左ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

一 目通五尺以上一丈未満ノ樹木ハ其ノ割以内

一 目通一尺以上五尺未満ノ樹木ハ其ノ割以内

一 目通一尺以上五尺未満ノ樹木ハ其ノ割以内

一 目通一尺以上五尺未満ノ樹木ハ其ノ割以内

一 目通一尺以上五尺未満ノ樹木ハ其ノ割以内

一 目通一尺以上五尺未満ノ樹木ハ其ノ割以内

一 目通一尺以上五尺未満ノ樹木ハ其ノ割以内

ヲ採取スルコトヲ得ス

第七條 社寺ハ林地ノ資質ヲ爲サ、ル副産物ヲ採
取スルコトヲ得

第八條 社寺ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ
其採取産物ノ搬出ヲ終ルヘシ

前項ノ期間内ニ搬出ヲ終ラサルトキハ其産物ヲ
採取スル權利ヲ失フ

第九條 左ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ保管ヲ解
除スルコトヲ得

一 社寺ノ管理者第四條ノ規定ニ違背シタル
トキ

二 社寺ノ管理者第五條ノ義務ヲ怠タルトキ

三 社寺ノ管理者其ノ保管林ニ關シ罪ヲ犯シ
タルトキ

前項ノ規定ニ依リテ保管ヲ解除シタル場合ニ於
テハ損害ヲ賠償セス

第十條 社寺ノ管理者許可ヲ得スシテ保管林地ヲ
使用シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス社寺
ノ管理者保管林ヲ他人ニ貸附シ又ハ使用セシメ
タルトキ亦同シ

附 則

第十一條 本令施行前ニ社寺ニ委託シタル土地官
林ハ從前ノ例ニ依ル

第十二條 本令施行前ニ社寺ニ委託シタル土地官

前項ニ該當セサル建造物ト雖モ古社寺保存法ニ依リ特別保護建造物ニ指定セラレ又ハ同法ニ依リ修理費ノ補助ヲ受ケタル建造物及寺院佛堂ニ特別ノ由緒ヲ有スル建造物ノ造修用材ニ對シテハ前項ヲ適用ス

第四條 前條ノ建造物ニシテ災害復舊等ノ爲メ已ムヲ得サル事由アルトキハ前條ノ制限ニ拘ラス

第五條 林藪ノ經營上必要ナル拔伐ヲ爲サントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 前二條ニ該當スルモノト雖モ寺院佛堂ニ由緒アル木竹及風致ニ必要ナル竹木ハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス

第七條 境内地ノ林藪五町歩以上ニ涉ルモノハ特別保護ノ方法ヲ設ケ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但五町歩以下ノモノト雖モ地方長官ニ於テ必要ト認ムル場合ハ本條ノ規定ニ依ラシムル事ヲ得

第八條 境内地ノ林藪ニ於テハ土石切芝ノ採取又ハ樹根ノ採掘ヲ爲ス事ヲ得ス但寺院佛堂ニ於テ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此限リニアラス

第九條 地方長官ニ於テ境内地ノ林藪荒廢ノ虞アリト認ムルトキ其他境内地ノ狀況林藪經營ノ必要アリト認ムルトキハ其經營方法ヲ指定スルコトヲ得

第十條 境内地ノ林藪ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲サントスル者ハ三日以前ニ警察官署ニ届出テ境内ノ林藪ニ對シ防火ノ設備ヲナスヘシ警察署ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項ノ火入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十一條 寺院佛堂ノ管理者本規則ニ依リ許可ヲ受クヘキ場合ニ於テ其手續ヲ怠リタルトキハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第十條第一項ニ違背シ又ハ同條第二項ノ禁止又ハ制限ニ違背シタルモノハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 (削除)

第十四條 明治十五年八月二日內務省番外示達社寺境内伐木取扱規則ハ之ヲ廢止ス

第十五條 本令ハ明治三十六年四月二日ヨリ施行ス

○寺院佛堂境内地使用取扱規則

(明治三十六年內務省令第十二號)

第一條 寺院佛堂境内地ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノヲ除クノ外其寺院佛堂以外ノ者ニ於テ之ヲ使用スルヲ得ス

一 一時限リノ使用
二 參詣人休息所等其使用三ヶ月以内ニ止ルモノ

三 公益ノ爲メニスル使用

第二條 前條ノ使用ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ寺院佛堂ノ承認ヲ得且地方長官ノ許可ヲ受ヘシ但シ前條第一號ノ場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受クルヲ要セス

事由

一 名稱

一 構造形狀寸法等ノ概要但シ必要ニ應シ圖面ヲ添附スヘシ

一 文字圖書ヲ記スルモノハ其文字圖書

一 期限

一 使用料

一 坪數位置、但シ必要ニ應シ見取圖ヲ添附スヘシ

前項各號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ亦前項ニ同シ

第三條 (削除)

第四條 地方長官ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ其使用ヲ禁止シ又ハ其建設物ノ改造撤却其他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

一 制限ノ手續ヲ經サルトキ

一 期限ヲ經過シタル時又ハ許可ヲ取消シタルトキ

一 寺院佛堂ノ爲必要ナリト認メタルトキ

寺院ニ關スル日用法規

第五條 本令ニ依ル許可ハ之ヲ取消スコトヲ得

第六條 (削除)

第七條 本令ハ明治三十六年十二月一日ヨリ施行ス

○境内地區域變更中稟議ヲ要セサルモノ、件(明治三十六年十一月七日府縣)

社寺境内地ノ區域ヲ變更セントスルトキハ本省ヘ稟議相成ヘキ制規ニ候處左記ノ場合ニ於テハ稟議ヲ要セサル儀ト御承知相成度

一 皇宮地又ハ各廳ノ用地ニ地種目組替ヲ要スヘキモノナルトキ

一 本省ニ於テ拂下交換讓與等ヲ許可スヘキモノナルトキ

一 本省直轄工事ノ用地内ナルトキ

一 本省ノ認可又ハ許可ヲ要スル工事ノ用地内ナルトキ

一 土地收用法ニ依リ收用ノ認定ヲ申請セル起業地内ナルトキ

一 明治三十一年七月當省訓第六三八號ニ依ル意見ヲ開申セラルトキ

前事項ニ關シ當省ニ於テ調査ヲ行フニ際シテハ社寺ノ意見參考ヲ要スル次第ニ付貴廳ニ於テ調査ノ

節(前記第三號ノ場合ハ自然ニ)社寺ノ意見ヲ徵セラルヘキハ勿論尙其變更區域坪數境内見取略圖並ニ社寺ノ意見(社寺ニ異議アルトキハ之當局ヘ御報告相成度尤モ願書、稟申書、意見開申書又ハ其添附書類ニ依リ此等ノ事項明カナルモノハ該報告ヲ要セス候依命及通牒候也)

追テ本文ノ次第ニ依リ明治三十一年十月當省訓第九一四號中「社寺佛堂境内地ハ本大臣ニ稟伺其他」同様ノ字削除セラレタル儀ト御承知相成度

○境内建碑ハ境内使用ニ關セサル件

(明治三十七年六月)府縣
(內務省宗甲第十九號通牒)

社寺境内ノ建碑ハ從來ヨリ境内地ノ使用トシテ取扱ハサルニ付右處分ハ客年十一月內務省令第十二號社寺佛堂境内地使用取締規則ニ對シテハ何等ノ關係無之モノニ付爲御心得此段及通牒候也

○飛地境内新設制限ニ關スル件

(明治四十年十一月二十六日)府縣
(內務省宗甲第二十五號通牒)

社寺佛堂境内區域變更ノ件ニ關シ昨年六月十五日附社甲第八號ヲ以テ通牒及置候次第有之候處獨立

- 三 手入間伐又ハ支障木、建築材等ノ名ノ下ニ過伐スルコト
- 四 農事ニ使用シ又ハ開墾シテ耕地ニ使用スルコト

○境内地域變更及移轉ニ關シ議稟ヲ要セサルモノノ件(大正三年十一月十六日)府縣
(內務省宗第四〇一號通牒)

寺院佛堂境内區域變更及移轉ニ關シテハ明治三十九年六月社甲第九號同四十年五月宗第一四號同年十一月宗甲第二五號通牒ノ次第有之候處自今左記各號ニ該當スルモノヲ除クノ外稟議ヲ要セス貴廳限リ處分相成可然依命此段及通牒候也

- 一 特別ノ緣故ヲ有スル土地ヲ減縮セントスルトキ
- 一 佛堂設置ノ目的ヲ以テ飛地境内ヲ設ケントスルトキ(但シ獨立佛堂ヲ寺院ヘ合併ニ際シ附屬佛堂トシテ存置スル爲メノ場合ヲ除ク)
- 一 寺院佛堂ノ意ニ反シテ境内ヲ減縮セントスルトキ
- 一 特別保護建造物ヲ有スル寺院佛堂境内ヲ減縮セントスルトキ
- 一 特別保護建造物又ハ國寶ヲ有スルモノ及文

寺院ニ關スル日用法規

佛堂ヲ寺院ヘ合併ニ際シ附屬佛堂トシテ其儘存置スル爲其敷地ヲ寺院飛地境内ト爲スモノ、外境内佛堂並境内神社ノ移轉若クハ存置ノ目的ヲ以テ新ニ飛地境内ヲ設ケントスルモノニ對シテハ許可セラレサルコトニ御取扱相成度尤特別ノ事情アルモノニ付テハ其事由ヲ具シ御伺出相成度候

追テ一般境内地増加ノ場合ニ於テハ其増加セントスル土地民有ナルトキハ當該社寺有ト爲スモノニ限り許可セラルヘキ筈ニ有之(下略)

○上地林境内編入地管理ニ關スル件

(明治四十四年二月二十四日)府縣
(內務省社第三三〇號通牒)

國有林野ヲ社寺境内ニ編入又ハ組換處分ヲ爲シタルモノハ其箇所及面積不少候處右處分後ニ至リ左記ノ如キ出願ヲ許容セラレタル向モ有之當初境内ニ編入又ハ組換タル主旨ニ背馳スルモノアルヤニ相聞候處爾今境内地ノ管理ニ付テハ一層注意ノ上伐木等ノ出願アルニ當リテハ特ニ周密調査ヲ遂ケラル、様致度依命此段通牒候也

- 一 林地更新ノ目的ヲ以テ風致林ヲ皆伐スルコト
- 二 基本財産増設ノ立木ヲ伐採スルコト

明十八年以前創立ニ係ル寺院佛堂ノ移轉

○國稅徵收法(禮拜ニ必要ナルモノ及石碑墓地ハ差押ユヘカラサル規定)
(明治三十年三月二十六日)
(法律第二二號)

- 第十六條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押ユルコトヲ得ス
- 四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑墓地

○民事訴訟法(禮拜ノ用ニ供スルモノハ差押ユヘカラサル規定)(明治二十三年四月二十一日法律第二十九號)

第五百七十條 左ニ掲クル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第十 神體佛像其他禮拜ノ用ニ供スル物

○佛器什物等ノ登錄備置キノ件
(明治五年八月三日)府縣
(教部省達第十二號)

各管内寺院ノ向建物ヲ除ク外一寺附屬之佛器什物等一切帳簿ヘ記載シ檀家惣代法類等奥印ノ上兼テ其寺院ヘ備置可申旨可相違候事

○寺院寄附帳什物帳ヲ綴ルヘキ件

(明治六年三月五日)
太政官布告第八九號

今般僧侶身代限規則被相定候ニ就テハ寺院所有ノ田園建造物諸什器檀家ヨリ寄附ノ分又ハ法用ニ必要ナル分並ニ古來傳承ノ寺寶等ノ部分判然相立不申候テハ差支候條左ノ規則ニ從ヒ寄附帳什物帳相綴リ置可申候

- 一 寄附帳ニハ何年何月何誰寄附ノ田園反別建造物坪數諸器物ノ質分ニ至ルマテ詳細ニ記載スヘシ
- 一 什物帳ニハ法用ニ必要ノ分並ニ寺寶ヲ區別シ記載スヘシ
- 一 右二帳二部ツ、相綴リ檀家法類共兩人以上並ニ其地ノ戸長檢査ノ上各姓名ヲ署シ之ニ關印シ一部ハ戸長役場ニ藏シ一部ハ其寺院ニ藏シ置クヘシ

右之通相定候事

○古來所傳ノ什物祠堂金等自儘ニ處分不相

成件(明治六年七月十七日)
太政官布告第二四九號

神社佛寺共古來所傳ノ什物衆庶寄附ノ諸器並ニ祠堂金等ノ類ハ神官僧侶ハ勿論氏子檀家ノモノタリトモ自儘ニ處分可致筋無之候條若不得止儀有之候ハ、委詳具狀ヲ以テ教部省へ可申立候此旨布告候

事

○持添ノ田畑山林寄附金並古文書類共同上

ノ件(明治九年二月二日)
府縣
教部省第三號達

神社佛寺共古來所傳之什物等處分之儀明治六年七月第二四十九號公布之趣有之ニ付テハ持添之田畑山林並寄附金又ハ古文書類共總テ右公布ニ照準シ處分可致ハ勿論ニ候條此旨爲心得相違候事

○寄附ノ物件別段契約ナキ分ハ讓渡ト看做

ス件(明治九年四月十八日)
太政官布告第五四號

社寺學校病院等へ寄附候土地建物其他物品等別段ノ契約無之分ハ寄附主ニ於テ其所有ヲ離シタルモノトシ一般ノ讓渡ヲ以テ處分候條此旨布告候事

○社寺ノ負債抵當總代ノ連署ヲ要スル件

(明治十年五月十六日)
太政官第四三號布告

神社並寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ル、トキ若クハ金穀ヲ借入ル、爲メ社寺附地所除稅地外建物、什器寶物古文書類等ヲ抵當ト爲ストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ、

若シ此連署ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其効ナキモノト爲スヘシ此旨布告候事

○社寺ノ守札及神佛號ヲ記載セル畫像ニ關

スル件(明治十五年十月十八日)
府縣
內務省乙第五五號達

神社寺院ノ守札ト可認モノ及神佛號ヲ記載セル畫像ハ其神社寺院ノ外出版不相成儀ト可心得此旨相違候事

但從前屆濟ノ分ト雖モ本文ニ抵觸シ不都合ト認ムル場合ニ於テハ更ニ申出ツヘシ

(註) 違背者ハ三十三年六月法律第八十四號行政執行法第五條ノ制裁ヲ受クヘシ寺院ノ當然頒布シ得ル守札及畫像ハ出版法ノ範圍外ナルモ住職自己ノ爲ニスル出版頒布ハ出版法ニ準據セサル可ラス

○觀覽料、寄附金等ニ關スル取締規程

(明治三十一年七月七日)
內務省令第六號

第一條 神社、寺院及佛堂ハ任意ノ賽物ノ外參拜者ニ對シ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス參拜セシムルタメ特ニ料金ヲ徵收スルコトヲ得ス

寺院ニ關スル日用法規

第二條 神社、寺院及佛堂ニシテ其殿堂、庭園、什寶等ヲ觀覽セシムルカ爲メ料金ヲ徵收セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 神社、寺院、祠宇、佛堂其他宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ニシテ寄附金又ハ負債ヲ募集セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

前項募集ノ區域カ二以上ノ廳府縣ニ涉ルトキハ神社、寺院、祠宇、佛堂及法人ノ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 神社、寺院、祠宇、佛堂及教派宗派其他宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル團體ノ用ニ供スル爲寄附金募集ヲ爲ス者亦前條ニ同シ

第五條 寄附金又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記シタル願書ヲ差出スヘシ

一 募集ノ目的
二 募集ノ方法
三 募集ノ金額
四 募集ノ區域
五 募集ノ期間
六 前各號ニ掲クルモノノ外負債ニ付テハ利率及償還ノ方法

第六條 前條各號ニ掲クル事項ヲ變更セントスルトキハ其事由ヲ記シ許可ヲ受クヘシ

第七條 寄附金又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケタル者他人ヲシテ其募集ニ從事セシメントスルトキハ其住所、氏名、職業、年齢ヲ記シタル願書ヲ差出シ募集地地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 第一條乃至第四條第六條及第七條ニ違背シタルトキハ神社、寺院、祠宇佛堂及法人ニアリテハ事務擔當者其他ノ場合ニアリテハ違背者ヲ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 本令ハ三十一年八月一日ヨリ施行ス

附 則

第十條 本令實施前募集ノ行爲ヲ爲シタルモノニシテ其募集ノ完了ニ至ラサルモノハ其部分ニ對シ本令ヲ適用ス

○國有財産法(大正十年四月七日)(抄)

第一條 本法ニ於テ國有財産ト稱スルハ國有ノ不動産並ニ勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動産及權利ヲ謂フ

第二條 國有財産ヲ分チテ左ノ四種トス

一 公用財産 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

二 公用財産 國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務事業若クハ官吏其他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

三 營利財産 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供セント決定シタルモノ

四 雜種財産 前各號ニ該當セサルモノ

第五條 雜種財産ハ左ニ掲クル場合ニ限り讓與スルコトヲ得

(一、二、略)

三、神社寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ使用ヲ止メタル國有財産ヲ其ノ合併シタル神社寺院又ハ佛堂ニ讓與スル時

第十五條 國有財産ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一 植樹ノ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年

三 建物其他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年

第十八條 國有財産ヲ貸付シタル場合ニ於テ其貸付期間中帝室用又ハ國、公共團體若シクハ私人ニ於テ公用、公用、若シクハ公益事業ニ供スル爲メ必要ヲ生シタル時ハ政府ハ其契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テ

ハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第二十四條 從前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財産ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス

寺院又ハ佛堂ノ土地ニ係ル雜種財産ハ其ノ用ニ供スル爲メ必要アル時ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得

以 上

○國有財産法施行令(大正十一年一月廿七日)

第二十八條 國有財産法第廿四條第一項ニ規定スル雜種財産ノ使用又ハ收益ニ付テハ寺院又ハ佛堂ニ關スル主務大臣ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二十九條 寺院又ハ佛堂國有財産法第二十四條第二項ノ規定ニ依リ雜種財産ノ貸付ヲ受ケムトスル時ハ地方長官ヲ經由シ主務大臣其ノ財産ヲ管理スル大臣及大藏大臣ニ願出ツヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ貸付シタル雜種財産ニ付之ヲ準用ス

○山林處分ハ認可ヲ受クヘキ件

(明治三十六年八月二十日)各管長宛

寺ニ於テ其所有山林ヲ處分スル場合ハ其ノ土地タルト立木ノミナルトヲ問ハス共ニ明治六年太政官布告第二百四十九號同九年教部省第三號及十二年七月本省達乙第三十九號但書等ニ依リ豫メ地方廳ノ認可ヲ受クヘキハ勿論ノ儀ニ有之然ルニ明治三十二年法律第九十九號國有土地森林原野下戻法ニ依リ山林ノ下戻ヲ受ケタル寺ニシテ右地方廳認可ノ手續ヲ經ス擅ニ處分スルモノ有之哉ノ聞有之如此ハ獨リ該下戻法制定ノ精神ニ反リ寺永遠ノ利益ヲ損スルノ虞アルノミアラス法規ノ規定ニ違反スルモノニシテ任職ノ職責上不問ニ付シ難キ筋ニ有之候條其宗派内寺院任職ニ對シ心得違無之様嚴重注意ヲ加ヘ且ツ如上ノ行爲アルモノニ對シテハ相當處分可相成命ニ依リ此段申進候也

○寶物持出ハ稟議ヲ要セサル件

(大正元年十一月十六日)府縣

寺院寶物持出ニ關シテハ明治十七年三月本省乙第一六號達但書ノ規定有之候處從來右但書ノ規定ハ絕對禁止ノモノト認メス從テ特別ノ理由アルモノニ就テハ本省へ稟議ノ上聽許可相成例ニ候處自

今稟議ヲ要セス貴廳限リ處分ノコトニ決定相成候條右ニ依リ御取扱相成度依命此段及通牒候也

○檀信徒總代人規程

(明治十四年七月廿一日)府縣宛
(內務省達乙第三三號)

各管内社寺惣代人ノ儀氏子檀家中氏子檀家ナキモノハ信徒相當ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相選ミ戶長役場へ届出サセ今後該社寺ノ願届等ハ渾テ連署ヲ以可爲差出且社寺收入財産ハ田畑山林ノ所得ハ勿論寶物新舊雜貨同向料等一切受納其社寺有ニ屬スヘキモノト其神官住職ニ付スルモノトノ豫約毎社寺適宜相定平素混亂セサル様取調方可爲致此旨相達候事

但神宮官國幣社ハ非此限

總代人ハ滿三年毎ニ改選市町村役場若クハ戶長役場へ届出ツヘシ尤モ期限中ト雖モ犯罪其他不良ノ所爲アルトキハ臨時改選セシムヘシ但臨時改選ノ外ハ前惣代人再三當選スルモ妨ケナシ

○寺院檀徒取扱概則

(明治二十四年六月)各宗協會定期大會議決録寫

第一條 左ノ各項ニ該當スル者ハ檀那ト稱スルコトヲ得

- 第一項 其宗旨ニ歸依シ教師ニ隨順スル者
- 第二項 其本山及檀那寺ノ維持ヲ補助スル者

第三項 其宗派ノ法式ヲ遵奉シ葬儀追善ヲ依托スル者

第二條 此概則ニ定メタル入檀トハ新ニ其宗派ノ檀那トナル者轉檀トハ同宗派内甲寺ノ檀那ニシテ乙寺ニ轉スル者離檀トハ其宗派寺院ヲ離レタル者ヲ云フ

第三條 入檀手續ハ左項ニ依ル

第一項 檀那タラントスル者アラハ其寺住職ハ本人ノ志念ヲ調査シ寺檀ノ契約ヲ假定シ其本山へ具狀シテ入檀證ノ下附ヲ請フヘシ

第二項 前項ノ場合ニ於テハ本山ハ其檀那寺ヲ經テ入檀證ヲ交附シ檀徒名籍ニ姓名ヲ記入セシム

第四條 左ノ各項ニ該當シ不得止ト認ムル者ハ轉檀ヲ許容スヘシ

第一項 惣檀那ト意見ヲ異ニシ又ハ住職ト意見ノ折合ハサル場合

第二項 檀那寺ト其檀那ト居住地ヲ遠隔スル場合

第五條 離檀ヲ二類トシ其一ハ檀那ノ自ラ檀那寺ヲ離ル、ヲ謂ヒ其一ハ檀那寺住職ヨリ離檀狀ヲ附與スル者ヲ謂フ

第六條 自ラ離檀セントスル者ハ左ノ事情アル場合ニ限リ許容スヘシ

其宗旨ニ歸依ヲ失シ教師ニ隨順シ能ハサル者

○總代改選届ニハ住職連署ノ件

(明治二十四年十二月十日)府縣宛
(內務省記官通牒管甲第三二號)

明治十四年當省乙第三十三號達中各管内社寺總代人ノ儀氏子檀家中(氏子檀家ナキ)相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スル者三名以上相選ミ戶長役場へ届出サセ云々トアルニ付總代人選舉ノ届ニハ別段届出ノ式ヲ定メサルカ如クナレトモ該選舉届モ社寺ノ届ニ屬スルヲ以テ無論神官若クハ住職ト現在ノ總代人ト連署シ届出シムヘキ筋ニ候條爲御心得此段及通報候也

○總代人一般改選ノ件

(明治二十四年六月九日)道廳府縣
(內務省訓令第五三五號)

社寺惣代人ノ年限並改選方等ノ儀本年訓令第八號ヲ以テ明治十四年當省乙第三十三號達改正ニ付テハ右社寺惣代人ノ儀ハ此際一般改選セシムル儀ト心得ラルヘシ

○總代員數制限及其權限ニ關スル件

(明治二十四年十二月十一日)府縣宛
(內務省訓令第一〇六三號)

寺院ニ關スル日用法規

○社寺總代人資格喪失ニ關スル件

(明治三十五年八月七日)府縣
(神社局島甲第九〇號通牒)

社寺總代人改選方ノ件島根縣伺出ニ對シ別紙ノ通指令相成候條此段及通牒候也

乾第四七三號(明治三十五年六月二十八日)島根縣伺

社寺總代人選舉方ノ義ハ明治十四年御省乙第三十三號達ノ次第有之候處總代ニシテ家資分散ノ

宣告ヲ受ケタル者有之モ犯罪其他不良ノ所爲アル云々ニ該當セサルヲ以テ改選セシムルコト不能然レトモ家資分散ヲ受タルモノヲ其儘總代人ト爲シ置クハ社寺ノ不利益ニ付特ニ改選セシメ度右ハ目下差掛リタル件有之候條至急御指令相成度此段相伺候也

(別紙) 内務省指令甲第九〇號明治三十五年八月六日
明治三十五年六月二十八日付乾第四七三號伺社寺總代人改選方ノ件聞届ク

○社寺總代人交替期ニ關スル件

(明治三十八年十月二日) 佛教管長
(内務省宗教局長宗甲第二二號)

社寺總代人新舊交替期ニ關シ別紙ノ通地方長官へ通牒候ニ付爲御心得此段申入候也
宗甲第二十一號内務省神社局長宗教局長ヨリ府縣へ通牒社寺總代人新舊交替期ニ關シ左ノ通決定相成候ニ付御承知相成度依命此段及通牒候也
一 社寺總代人改選ニ關スル明治二十四年本省訓令第八號ハ總代人改選ノ時期ヲ定メタルモノニシテ其任期ヲ定メタルモノニアラス從テ一旦當選ヲ届出タル總代人ハ其當選ヲ届出タル日ヨリ起算シ滿三年毎ニ改選セシムヘキハ

勿論ナリト雖モ後任者ノ當選届出ヲ爲サ、ル間ハ其三個月ヲ經過セルノ故ヲ以テ當然總代人タル資格ヲ失ヒタルモノトナスヲ得ス

○民法施行法

第二十八條 民法中法人ニ關スル規定ハ當分ノ内神社寺院祠宇及ヒ佛堂ニハ之ヲ適用セス

【判例】 寺院ハ法人ナリ(三五、九、四六)

寺ノ代表ハ住職之ヲ爲スモノタリ故ニ寺ノ代表者トシテ住職ト共ニ檀家總代ヲ相手取リタル訴訟ハ不當ナリ(三一、九、一)

【同主旨】 寺院ノ權利伸暢ニ關スル行爲ノ代表ニ付テハ法律上反對ノ規定ナキヲ以テ住職ヲ以テ寺院ノ代表者ト爲ス(同一判例二八、三、一三七)(二八、五、四九)

●寺院ハ訴訟上住職ニ依リ代表セラルヘキモノニシテ檀家總代ニハ代表ノ資格ナシ(二九、一〇、八〇)

●寺院ノ訴訟ハ其住職ヲ以テ代表者ト爲スヘキモノニシテ檀中ハ寺院ヲ代表スルノ能力ナシ(三〇、三、一三五)

○神職葬儀ニ關スル件

(明治十五年一月二十四日) 府縣宛
(内務省達乙第七號)

自今神官ハ教導職ノ兼補ヲ廢シ葬儀ニ關係セサルモノトス此旨相達候事
但府縣社以下神官ハ當分從前ノ通

○自葬ノ禁ハ自ラ解除セラル

(明治十七年十月) 府縣長官
(内務卿口達)

明治五年第百九十二號布告ヲ以テ凡葬儀ハ神官僧侶ニアラサレハ執行スルヲ許サス乃自葬ヲ禁止セラレタリ然ルニ嚮ニ教導職ヲ廢セラレタルニ付テハ自今葬儀ヲ執行スルヲ得ルモノハ獨神官僧侶ニ止マラス乃自葬ノ禁ハ自ラ解除セリ故ニ自今以後葬儀ヲ依トスルハ一々喪主ノ信仰スル所ニ任セ不可ナルヘシ然レトモ其墓地取締及葬儀ヲ執行スル場所ノ如キハ則其取締規則ニ依テ實地適當ノ警察ヲ施スヘシ

(參照)

布告第百九十二號 明治五年六月二十八日
近來自葬取行者モ有之哉ニ相聞候處向後不相成候條葬儀ハ神官僧侶ノ内へ可相頼候事

●寺院ノ權利ヲ伸暢スルヲ以テ目的トセル訴訟ハ住職ニ於テ之ヲ代表スヘキモノニシテ檀家又ハ信徒ハ其訴訟ニ附從スルヲ要セス(三〇、七、一九)

檀徒カ自己ノ名義ヲ以テ寺院ノ利益ノ爲メニ訴訟ヲ提起スルコトヲ許サレタル法律ノ規定ナク亦其慣習モ存在セス(三一、九、五二)

●寺院カ訴訟ヲ爲スニ當リ檀家總代ハ寺院ヲ代表スルノ權ナシ明治十四年内務省乙第三十三號達ハ寺院カ行政官廳ニ對シ願届等ヲ爲ス場合ノ規定ニ過キス(三二、九、三四)

●信徒總代ハ神社ヲ代表スルノ權能ナシ(三三、九、三四)

●寺院ノ代表者ニ付テハ法律ノ明文上何等ノ規定ナキヲ以テ住職ノ欠缺シタル場合ニ於テ住職ノ職務ヲ攝理スル權限ヲ有スル者アルトキハ訴訟上ニ於テモ住職ト同シク寺院ヲ代表スル資格アル者ト認ムルヲ當然トス(三五、四、一一)

●寺院ノ住職ヲ兼務セル者ハ單ニ住職兼務ノ事實ヲ縣廳ニ届出テサルノ故ヲ以テ其寺ノ住職ニ非スト云フヲ得ス從テ右住職ハ寺院ヲ代表シテ訴訟ヲ爲ス資格アルモノトス(四五、二、九四)

布告第百九十三號 同日
從來神官葬儀ニ關係不致候處自今氏子等神葬祭
相頼候節ハ喪主ヲ助ケ諸事可取扱候事
布告第十三號 明治七年一月二十九日
葬儀ハ神官僧侶ノ内ヘ可相頼旨壬申六月第百九
十二號布告候處自今教導職ノ輩ヘハ信仰ニ寄リ
葬儀相頼候儀不苦候條此旨布告候事

○墓地及埋葬取締規則(明治十七年十月四日
太政官布達第二十五號)

- 第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區
域ニ限ルモノトス
- 第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ
受クヘキモノトス
- 第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サ
レハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス
但シ別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス
- 第四條 區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得ルニ非サレ
ハ埋葬又ハ火葬ヲ爲スコトヲ得ス
但シ改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許
可ヲ受クヘシ
- 第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戶長
ノ認許證ヲ得タルモノニアラサレハ埋葬又ハ火

葬ヲナサシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タ
ル者ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス
第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若ク
ハ火葬場ニ於テ行フヘシ
第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警
察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得スシテ建設シ
タルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ 但墓地外ニ建
設スルモノ亦之ニ準ス
第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監、
府知事、縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツ
ヘシ

○同上施行細目標準(明治十七年十一月十八日
內務省達乙第四十號)

- 本年第二十五號布達第八條ニ記載セル方法細目ハ
左ノ條件ヲ標準トスヘシ此旨相達候事
- 第一條 墓地ハ從前許可セラレタル者ニ限ル 但
已ムコトヲ得サル事アリテ之レヲ取廣メ又ハ新
設スル場合ニ於テハ地方廳ニ願出ヘシ
- 第二條 墓地ヲ新設スルハ國道、縣道、鐵道、大
川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡六十間以上ニシテ
土地高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ
- 第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ

有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニ
テモ之ヲ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモ
ノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃
シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第四條 墓地ノ周圍(墓地ト墓地ニ非サル)ニハ樹木ヲ
栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀塙ヲ存
スヘカラサルモノトス 但從前ヨリ現存スル者
ハ此限ニアラス

第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘ
カラス

第六條 火葬場ハ人家及人民輻輳ノ地ヲ隔ル凡ソ
百二十間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火
爐烟筒ヲ備ヘ臭烟ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ
塀塙ヲ設クヘシ 但山林原野ニシテ人家ヲ隔タ
ル場所ナキトキハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第八條 擴穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地
ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及火葬ノ遺骨ヲ埋藏
スルモノハ格別ナリトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名
ハ區役所又ハ戶長役場ニ届ケ置クヘシ

第十條 死者ノ姓名、族籍、官位、勳、爵、法號

寺院ニ關スル日用法規

及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止マリ
誌、銘、傳、贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄
警察署ノ許可ヲ受クルノ限ニアラス

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ
主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ區長又ハ戶長ノ認許
證ヲ乞フヘシ醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシ
テ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル
トキハ醫師ノ檢案ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許
證ヲ乞フヘシ

變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ
檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ
囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモ
ノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒテ
差出スヘシ

第十二條 區戶長ハ前條ノ届書證書ヲ領收スルニ
アラサレハ埋葬火葬ノ認許證ヲ與フヘカラス

第十三條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區戶長ノ
認許證ヲ編纂シ每三ヶ月所轄警察署ノ檢閱ヲ受
ケテ之ヲ區役所又ハ戶長役場ヘ差出スヘシ

第十四條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置
クヘシ

第十五條 (削除)

○刑死者ノ墓標及祭祀等ニ關スル件

(明治二十四年七月二十七日)
內務省令第十一號

- 第一條 刑死者ノ墓標ニハ氏名、法號、族籍、年齡、生死ノ年月日ヲ記入スルニ止メ他ノ事項ヲ記スルコトヲ得ス
其墓標ハ遺骸埋葬地又ハ祖先塋域ノ外之ヲ建設スルコトヲ得ス
異様ノ墓標ヲ建設シ及文字ニ彩色ヲ施スコトヲ得ス
- 第二條 所轄警察署ノ許可ヲ得シテ刑死者ノ爲公然祭祀ヲ行フコトヲ得ス 但親族ノ香花ヲ供スルノ類ハ此限リニ非ス
- 第三條 刑死者ノ寫眞其他肖像ヲ公然陳列シ又ハ販賣スルコトヲ得ス
其他總テ刑死者ヲ賞揚哀悼スルコトヲ得ス
- 第四條 前各條項ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ十一日以上二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス
- 第五條 犯罪ニ關シ現ニ捜査起訴拘留留服刑中ノ者若クハ捜査起訴拘留留服刑中ニ死去シタル者及刑ヲ免レント欲シテ自殺シ或ハ犯罪現行ノ際殺害セラレタル者ニ付地方長官(東京府ハ警視總監)ハ安寧ノ秩序ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ特ニ命

令ヲ下シ第一條第二條第三條ニ掲タル所爲ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違背シタル者ハ第四條ニ據リ處分ス

○形像取締規則(明治三十三年五月十九日)
內務省令第十八號

- 第一條 官有地及公衆ノ往來出入スル地ニ於テ永久保存ノ目的ヲ以テ人物其他ノ形像ヲ建設移轉改造又ハ除却セントスルモノハ東京市、京都市、大阪市ニ在テハ內務大臣其他ノ地方ニ在テハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
但墓地境內ニ於テ慣例ニ依リ禮拜ノ用ニ供スルモノハ此限ニアラス
前項ニヨリ內務大臣ノ許可ヲ申請スルニハ地方長官ヲ經由スヘシ
- 第二條 形像ノ建設移轉改造ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ具シタル書面ヲ添付スヘシ
 - 一 形像ノ位置ヲ表示セル地圖
 - 二 形像ヲ設置スヘキ土地ノ種目
 - 三 地主又ハ其ノ土地若クハ形像ニ關スル權利ヲ有スル者アルトキハ其承諾ノ有無
 - 四 形像ノ物質製作方法並其ノ設計及圖面
 - 五 礎石其他ノ部分ニ文字ヲ表ハストキハ其文字

六 歷史上顯著ナラサル人物ノ形像ニ係ルトキハ其人ノ事蹟又寓意

七 費用ヲ募集スルモノハ募集及支出ノ方法

八 形像ノ管理及維持方法

- 形像ノ除却ノ許可申請書ニハ其形像ノ來歴及除去ヲ要スル理由ヲ具シタル書面ヲ添付スヘシ
- 第三條 內務大臣ニ於テ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ風俗ノ取締ヲ爲スカ爲必要ト認ムルトキハ既ニ建設シタル形像ノ移轉改造又ハ除却ヲ命スルコトアルヘシ
許可ヲ得スシテ建設移轉改造又ハ除却シタル形像ハ地方長官ニ於テ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

○禮拜所及墳墓ニ關スル刑法ノ規定

(明治四十年四月二十三日)
法律第四十五號

- 第百八十八條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
說教禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ニハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第百八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ

寺院ニ關スル日用法規

懲役ニ處ス

第百九十條 死體遺骨遺髮又ハ棺內ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十一條 第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體遺骨遺髮又ハ棺內ニ藏置シタル物ヲ損壞遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
第百九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

○檀家ノ外埋葬セサル習慣ノ寺院境內墓地ハ他宗派ノ埋葬ヲ拒絕シ得ルノ件

(明治二十五年一月三日)
東京市本郷區駒込眞淨寺何

明治十七年內務省達乙第四十號第三條ニ墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ於テ死タルモノハ何人ニテモ之ヲ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限リニ非スト有之從來本寺ハ檀家ノ外他宗派異教者等ヲ葬ラサル習慣アル墓地ニ付縱令該地使用者ノ子孫ト雖モ習慣ニ適セサル他宗派並ニ異教式ヲ以テ埋葬セントスルモノアルトキハ管理者ハ之ヲ拒絕致シ可然哉
警視廳令(同二月二日)
墓地埋葬ノ件伺ノ通

○古社寺保存金下賜出願ニ關スル件
(明治二十四年二月二十三日)
(内務省訓令第一三二號)

古社寺保存金下賜出願ノ向ハ自今該社寺ノ永續方
法並建物保存資金醱集方法等精密取糺シ確實ト認
ムルモノニ限リ左ノ各項ノ書類ヲ具シテ上申スヘ
シ

- 一 該社寺ノ永續方法書
- 一 建物保存資金醱集並仕拂方法書
- 一 建物ノ名稱坪數創建改造修繕ノ年月取調書
- 一 境内地及建物位置見取圖

(參照)

明治二十四年二月二十三日内務書記
官社甲第一號通牒 府縣

古社寺保存金下賜ノ社寺ハ當省ヨリ下賜ノ金額ハ
勿論出願ノ際仕法書ニ記載ノ廉々ハ盡ク實踐スル
ヤ否ヤ豫定金額ハ漸次増殖方ヲ施行スルヤ否等嚴
密ニ監督相成保存ノ趣旨貫徹候様平生注意ヲ盡サ
レ年末計算書ハ殊ニ精査ノ報告相成度此段申進候
也

○古社寺保存法(明治三十年六月五日)
(法律第四十九號)

第一條 古社寺ニシテ其建造物及寶物類ヲ維持修
理スルコト能ハサルモノハ保存金ノ下附ヲ内務

大臣ニ出願スルコトヲ得

第二條 國費ヲ以テ補助保存スヘキ社寺ノ建造物
及寶物類ハ歴史ノ證徴、由緒ノ特殊又ハ製作ノ
優秀ニ就キ古社寺保存會ニ諮詢シテ内務大臣之
ヲ定ム

第三條 前條ノ建造物及寶物類ノ修理ハ地方長官
之ヲ指揮監督ス

第四條 社寺ノ建造物及寶物類ニシテ特ニ歴史ノ
證徴又ハ美術ノ模範トナルヘキモノハ古社寺保
存會ニ諮詢シ内務大臣ニ於テ特別保護建造物又
ハ國寶ノ資格アルモノト定ムルコトヲ得

第五條 特別保護建造物及國寶ハ之ヲ處分シ又ハ
差押フルコトヲ得ス 但シ内務大臣ノ許可ヲ得
テ國寶ヲ公開ノ展覽場ニ出陳スルハ此ノ限リニ
在ラス

第六條 前條ノ物件ハ神職若クハ住職之ヲ監守シ
内務大臣ノ監督ニ屬スルモノトス 但内務大臣
ノ許可ヲ經テ別ニ監守者ヲ置クコトヲ得

第七條 社寺ハ内務大臣ノ命ニヨリ官立又ハ公立
ノ博物館ニ國寶ヲ出陳スルノ義務アルモノトス
但シ祭典法用ニ必要ナルモノハ此限ニアラス
前項ノ命ニ對シテハ訴願ヲ爲スコトヲ得

第八條 前條ニヨリ國寶ヲ出陳シタル社寺ニテハ
命令ニ定メタル標準ニ從ヒ國庫ヨリ補給金ヲ支
給スルモノトス

第九條 神職住職其ノ他ノ監守者ニシテ内務大臣
ノ命ニ違背シ國寶ヲ出陳セサルトキハ内務大臣
ハ其出陳ヲ強要スルコトヲ得

第十條 社寺ニ下付シタル保存金ハ地方長官之ヲ
管理ス保存金ハ豫算金ヲ以テ之ヲ下附ス但精算
ノ上剩餘アルトキハ内務大臣ハ之ヲ還附セシム
ルコトヲ得

第十一條 社寺ニ下付シタル保存金ハ之ヲ差押フ
ルコトヲ得ス

第十二條 第十條及第十一條ノ保存金ハ其ノ利子
ヲ包含スルモノトス

第十三條 監守者其監守スル所ノ國寶ヲ竊取シ毀
棄シ、隱匿シ若クハ他ノ物件ト變換シ又ハ第五
條ノ規定ニ違背シタルトキハ二年以上五年以下
ノ重禁錮ニ處ス

第十四條 監守者怠慢ニ由リ國寶ヲ亡失若ハ毀損
シタルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處

寺院ニ關スル日用法規

過料ハ地方裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス 但其
命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ハ檢事ノ命令ニ依リ之ヲ徵收ス其徵收ニ付
テハ民事訴訟法第六編ノ規定ヲ準用ス 但シ此
場合ニ於ケル檢事ノ命令ハ執行文ノ効力ヲ有ス

第十五條 第七條ニ依リ出陳シタル國寶ノ監守者
故意怠慢ニ由リ國寶ヲ亡失若ハ毀損シタルトキ
ハ國庫ハ命令ニ定メタル評價ノ方法ニ從ヒ其損
害ヲ賠償スルモノトス 但其評價額ニ關シテハ
裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第十六條 本法ニ定メタル保存金及補給金トシテ
國庫ヨリ支出スヘキ金額ハ一箇年十五萬圓乃至
二十萬圓トス

第十七條 本法施行前社寺ニ下付シタル保存金ニ
關シ内務大臣ハ第十條乃至第十二條ヲ適用スル
コトヲ得

第十八條 第四條ニ該當スル物件ハ社寺ニ屬セサ
ルモノト雖モ所有者ノ請求アルトキハ第七條第
一項ニ掲ケタル博物館ニ出陳スルコトヲ許可シ
之ニ補給金ヲ支給スルコトヲ得

第十九條 名所舊蹟ニ關シテハ社寺ニ屬セサルモ
ノト雖モ仍本法ヲ準用スルコトヲ得

第二十條 本法施行上必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○古社寺保存法施行細則

(明治三十年十二月十五日)
(内務省令第十五號)

- 第一條 古社寺保存法第一條ニヨリ保存金ノ下付ヲ出願セントスル者ハ願書ニ左ノ事項ヲ詳具シテ之ヲ内務省ニ差出スヘシ
 - 一 出願ノ事由
 - 二 修理スヘキ物件ノ名稱、所在、種類、品質、員數、形狀、寸尺、構造、坪數並歴史ノ證據、由緒ノ特殊又ハ製作ノ優秀等ヲ證見スルニ足ルヘキ要項
 - 三 建築又ハ製作ノ年代及其ノ後之ニ加ヘタル修理ノ年月
 - 四 修理ニ要スル工費豫算並設計仕様等
 - 五 竣成期限
 - 六 出願者ノ資力ヲ證スルニ足ルヘキ事項
- 第二條 特別保護建造物及國寶ノ修理費ニ對シ國庫ヨリ補助スル場合ニ於テハ當該社寺ハ少クトモ其半額ヲ負擔スヘキモノトス 但シ特別ノ事情アルモノニ限リ其負擔ヲ輕減スルコトヲ得
- 第三條 保存金下付ノ後ニ於テ設計仕様ノ變更若

ハ竣成期限ノ延期ヲ要スルトキハ其事由及變更設計仕様書等ヲ具シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ關係者ノ願出ニ係ラス設計仕様ノ變更ヲ命スルコトヲ得

- 第四條 修理竣リタルトキハ清算書ヲ添ヘ二箇月以内ニ内務大臣ヘ届出ツヘシ
- 第五條 本令ノ規定ニ違反シ若ハ保存金下付ノ條件ニ違反シタルトキハ内務大臣ハ保存金ノ全部若ハ一部ノ還附ヲ命スルコトアルヘシ
- 第六條 國寶ハ分ツテ左ノ三種トス 但シ神社ノ祭神若ハ寺ノ本尊ハ此限ニアラス
 - 甲種 製作ノ優秀ナルモノ
 - 乙種 由緒ノ特殊ナルモノ
 - 丙種 歴史ノ證據トナルモノ
- 甲種ハ製作優秀ノ程度ニヨリ一等乃至四等ノ四等ニ分ツ
- 第七條 内務省ニ特別保護建造物臺帳並國寶臺帳ヲ備置クモノトス
- 第八條 特別保護建造物ノ臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載スルモノトス
 - 一 名稱
 - 二 所有者及所在地
 - 三 創立及沿革
 - 四 構造、形式

第九條 國寶臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載スルモノトス

- 一 名稱
- 二 所有者及所在地
- 三 作者及傳來
- 四 第六條ノ種別等級
- 五 種類
- 六 員數
- 七 品質
- 八 形狀
- 九 寸尺
- 第十條 特別保護建造物若ハ國寶ヲ臺帳ニ登記シタルトキハ特別保護建造物證書若ハ國寶證書ヲ其物件所有者ニ交附ス
- 第十一條 古社寺保存法第六條但書ニ依リ別ニ監守者ヲ置カントスル者ハ其ノ氏名、履歷、資産調書ヲ添ヘ設置ノ事由ヲ詳具シテ内務大臣ニ願出ツヘシ
- 第十二條 特別保護建造物若ハ國寶ニシテ亡失毀損アリタルトキハ其實況ヲ詳具シ五日以内ニ内務大臣ニ届出ツヘシ
- 第十三條 補給金ハ左ノ標準ニヨリ之ヲ支給ス
 - 甲種一等 五十圓以上
 - 甲種二等 三十五圓以上

- 同 二等 三十五圓以上
- 同 三等 二十圓以上
- 同 四等 十圓以上
- 丙種 六圓以上
- 第十四條 前條ノ補給金ハ月割ヲ以テ計算シ一箇月ニ滿タサル端日數及厘位未滿ハ切捨トス
- 第十五條 博物館ニ於テ國寶ヲ受領シタルトキハ受領證書ヲ交附シ又國寶ヲ返付スルトキハ該證書ヲ引換フヘシ
- 第十六條 博物館ニ於テ國寶ヲ受授シタルトキハ其都度内務大臣及當該地方長官ニ報告スヘシ
- 第十七條 從前社寺ニ下付シタル保存金ニ關シテハ古社寺保存法第十七條ニ依リ同法第十條乃至第十二條ヲ適用ス
- 第十八條 古社寺保存法第十九條ニ依リ保存金ノ下付ヲ出願セントスル者ハ第一條ノ規定ニ準據シテ願書ヲ差出スヘシ
- 第十九條 本令ニ依リ内務大臣ニ差出ス書類ハ總テ所轄地方廳ヲ經由スヘシ

○特別保護建造物制札ノ件

(明治三十五年八月十三日)府縣
(内務省訓令第十五號)

古社寺保存法ニ依リ特別保護建造物ニ指定セラレタル建造物ニ對シ保護上必要アリト認タル場合ハ明治六年敎部省第十三號達神社制札ニ準シ制札ヲ建設スヘシ

- 制札ニハ左記禁止條項ニ準シ當該社寺ノ意見ヲ徵シ保護上必要ト認ムル條項ヲ掲クヘシ
- 一 建物ヲ汚瀆又ハ毀損スルコト
- 一 喫煙ヲナスコト
- 一 猥リニ火ヲ用ユルコト
- 一 土足又ハ履物ノ儘上ルコト
- 一 建物ニ樂書スルコト
- 一 建物ニ廣告等ノ類ヲ貼付又ハ打付ルコト

○古社寺保存法施行ニ關スル件

(明治三十年十二月十三日)

(勅令第四百四十六號)

- 第一條 古社寺保存法第七條ニ依リ國寶ヲ博物館ニ出陳セシメタルトキハ當該博物館ニ國寶監守ヲ置ク
- 國寶監守ハ命ヲ內務大臣ニ承ケ出陳國寶ノ監守ニ關スル一切ノ責ニ任ス
- 第二條 官立博物館ノ國寶監守ハ當該博物館ノ奏任待遇以上ノ館員ヲ以テ之ニ充ツ

公立博物館ノ國寶監守ハ當該博物館長ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 國寶監守ハ身元保證金ヲ納ムヘシ
前項ノ身元保證金ニ關シテハ明治二十二年勅令第六十號會計規則及明治二十三年勅令第四號ヲ準用ス

第四條 國寶監守故意怠慢ニヨリ其監守スル國寶ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ

第五條 古社寺保存法第八條ニヨリ支給スヘキ補給金ハ國寶一箇ニ就キ一箇年二圓以上五十圓以下トシ內務大臣ハ出陳ヲ命スル都度之ヲ定ム但シ國寶ニシテ特ニ貴重ナルモノアルトキハ內務大臣ハ古社寺保存會ニ諮詢シ五十圓以上百圓以下ヲ支給スルコトヲ得

第六條 出陳ニ要スル荷造運搬費等ハ總テ當該博物館ニ於テ支辨スヘキ者トス出陳ノ義務解除シタルトキ返送ニ要スル荷造運搬費等亦同シ

第七條 古社寺保存法第十五條ニヨリ損害賠償ヲ要スルトキハ內務大臣ハ賠償金額ヲ豫定シ古社寺保存會ノ議ニ附ス
前項ニ依リ古社寺保存會ニ於テ議決シタル金額內務大臣ノ豫定金額ニ相違シタルトキハ內務大臣豫定額ト古社寺保存會ノ議決額トヲ合セテ之

ヲ二除シタル額ヲ以テ賠償ノ實額トス
第八條 本令ニ定ムルモノノ外古社寺保存法施行ニ要スル細則ハ內務大臣之ヲ定ム

○特別保護建造物等監守方ノ件

(明治四十年十一月八日)

(內務省宗甲第二七號)

古社寺保存法ニ依リ特別保護建造物又ハ國寶ニ指定ノ場合ハ其都度官報ヲ以テ告示相候處社寺ノ内ニハ官報ヲ購讀セサル爲從來其指定ノ事實ヲ知ラサル向有之尤モ右指定ノモノニ對シテハ本省ヨリ證書下附スル答ナルモ右證書下附マテニハ多少ノ時日ヲ要スルニ依リ其間不知不識監督ヲ等閑ニ附スルモノナキヲ保セス就テハ既ニ指定ノモノニ對シテハ此際又今後新タニ指定ノモノハ其都度貴廳ヨリ當該社寺ヘ通知ヲナシ其監守方充分御注意相成候様致度依命此段及通牒候

○社寺建造物白蟻豫防方ニ關スル件

(明治四十三年十一月十二日)

(內務省宗甲第一五五號通牒)

近來特別保護建造物ニ白蟻發生ノ向所々々發見致候ニ付之カ撲殺豫防方法ニ關シテハ本省ニ於テモ調査中ニ有之追テ何分ノ義可申進積リニ候ヘトモ

寺院ニ關スル日用法規

貴管下ニ於ケル該建造物中現ニ補助金ノ下付ヲ受ケ修理中ノモノ若シクハ修理ニ着手セントスルモノ有之此等ニ對シテハ此機ニ於テ少クモ左記ノ施設ヲナスコト必要ト認メ候間可然御措置相成度依命此段及通牒候也

記

- 一 追テ特別保護建造物ニアラサル各官國幣社ノ建造物ニ付テモ白蟻發生ノ個所及ヒ修繕、改築ノ場合ニ於テハ左記ニ依リ相當豫防若クハ撲滅方法ヲ施サシメ候様致度此旨添候也
- 二 柱下ニ鉛板ヲ敷クコト
- 三 外面ニ見ハレサル木口ニハ悉ク防蟲劑ヲ塗ルコト
- 四 新補材ハ一切松材ヲ使用セサルコト
- 五 現ニ白蟻發生シ居ルカ若クハ發生ノ處アリト認ムル場所ハ雨葛内ニ「コンクリート」ヲ打ツコト
- 六 時々床下ヲ掃除スルコト

○社寺濫ニ菊章ヲ用ユルヲ禁ス

(明治二年八月二十五日)

(太政官布告)

社寺ニテ是迄菊御紋用ヒ來ル者不少候處今般御改正相成社ハ伊勢八幡上下賀茂寺ハ泉涌寺般舟院等

ノ外ハ一切被差止候旨被仰出候事
但格別由緒有之社寺ハ由緒書ヲ以テ可伺出候事

○寺院ノ願伺届ニハ宗名ヲ記載スヘキノ件
(明治九年三月二十七日)府縣
(教部)書達第十號

各管内寺院諸願伺中宗名ヲ脱スル向往々有之取調
筋差問候條自今諸願伺届共總テ宗名記載可爲致此
旨相達候事

○寺院佛堂出火ニ付管長ヘ照會スヘキ件
(明治三十一年六月十日)府縣宛
(内務省訓令第五百三十號)

近來神社寺院佛堂ヨリ出火シテ烏有ニ歸セシメタ
ルモノ多シ是レ一ハ管理不行届ニ致ス所ニシテ不
都合ヲ免レサル儀ニ有之就テハ平素特ニ注意警戒
ヲ加ヘ候様一般神社寺院佛堂ヘ示達セラルヘシ
神社、寺院、佛堂ヨリ出火シタル場合ニ於テ法律上
處分セラル、モノアルト否トニ拘ハラス其神社、
寺院、佛堂ノ管理者ハ各其管理ノ責ニ任スヘキモ
ノナルニ依リ如斯事實生スルニ際シテハ其顛末ヲ
十分審査シ果シテ懲戒スヘキモノニ於テハ神職ニ
對シテ相當之ヲ處分シ住職其他ノ僧侶ニ對シテハ
所屬宗派管長ニ移牒シテ懲戒ヲ求メラルヘシ

○同上管長ニ於テ住職僧侶ヲ懲戒スヘキ件
(明治三十一年六月十日)佛道各管長宛
(内務省訓令第五百三十一號)

近來寺院佛堂ヨリ出火シテ烏有ニ歸セシメタルモ
ノ多シ是レ一ハ管理不行届ノ致ス所ニシテ不都合
ヲ免レサル儀ニ有之就テハ平素特ニ注意警戒シ不
都合ヲ生セサル様取締ルヘク且寺院佛堂ヨリ出火
ノ場合ニ於テ法律上處分セラル、モノアルト否ト
ニ拘ハラス住職若クハ受持僧侶ハ管理上各其責ニ
任スヘキモノナルニ依リ宗制寺法ニ照シ相當懲戒
セラルヘシ

四、各宗派關係ノ部

○真言宗各派關係寺院取扱法

(明治三十五年
九月二十五日)

第一章 總 則

第一條 本法ハ真言宗々典第八十四條同高野派宗
制第八十三條同御室派同大覺寺派宗制第八十二
條智山派及豐山派宗憲第八十九條ニ依リ之ヲ定
ム

第二條 本法ニ公稱寺院ト稱スルハ真言宗各宗派
總本山乃至準別格本山ノ直末己下寺院ニシテ新
義真言宗智山派又ハ同豐山派ヲ公稱スル寺院ヲ
略稱ス智山派又ハ豐山派ヲ公稱スルハ新義ノ教
相ニ基キ本末ノ關係ハ事相ノ法流ニ依ル

第三條 本法ニ真言宗各宗派ト稱スルハ真言宗同
御室派同高野派同大覺寺派ヲ略稱ス

第四條 本法ハ單ニ智山派又ハ豐山派ト稱スルハ
新義真言宗智山派豐山派ヲ略稱ス

第二章 住職及檢知

第五條 真言宗各宗派寺院ノ末寺ニシテ智山派又
ハ豐山派ヲ公稱スル寺院ノ住職ハ真言宗各宗派
其關係管長之カ任免ヲ行フモノトス

第六條 前條住職任免ノ場合ニ於テハ其寺院ノ公
各派關係之部

各派關係之部

稱セル智山派又ハ豐山派管長之カ檢知ヲ爲スモ
ノトス

檢知ヲ經サルモノハ住職ヲ任免スルコトヲ得ス
第七條 住職任免ヨリ生スル爭議ハ檢知ヲ爲シタ
ル其派管長ト協議ヲ以テ裁定ス

但シ主務官廳ノ命令又ハ處分ニ依ル場合ハ此ノ
限ニ在ラス

第八條 真言宗各宗派其關係管長ニ於テ懲罰條例
ニ依リ公稱寺院住職ノ停職又ハ住職罷免セント
スル時ハ事由ヲ具シ其寺院ノ公稱セル智山派又
ハ豐山派管長ノ承認ヲ要ス

前項罰懲ニ該當スルモノアルトキハ智山又ハ豐
山派管長ハ其處分ヲ真言宗各宗派其關係管長ニ
請求スルコトヲ得

第九條 公稱寺院ニシテ住職ヲ選定セス寺院ノ興
廢ニ關スルトキハ智山派又ハ豐山派管長ハ住職
任命ヲ真言宗各宗派其關係管長ニ請求スルコト
ヲ得

第十條 公稱寺院ノ住職タルヘキ者ハ左ノ標準ニ
從ヒ寺格ト寺院等約トニ合致スル教師ニ限ル其
寺格ト寺院等級ト一致セサルトキハ寺格ト寺院
等級ト比較シ其高キ方ノ寺格若ハ寺院等級ニ
相當スル教師ニ限ル

寺院等級	特等一等 ヨリ三等マテ	同四等ヨ	同五等マ	等地一等 ヨリ五等マテ	同六等ヨ	同七等マ	同八等ヨ	同九等マ	ヨリ十一等 マテ	同十三等 マテ	同十六等 マテ	同廿一等 ヨリ廿五等 及其以下
寺格	別格本山	準別格本	常法談林	談林	準談林	格院	平格院	末寺	門徒			
教師等級	權中僧正 以上	權少僧正 又ハ少僧 正以上	權大僧部 又ハ大僧 部以上	中僧部以 上	權中僧部 以上	少僧部以 上	權少僧部 以上	權律師以 上	教師試補 以上			

但シ右表中教師等級トアルハ豊山派ニアツテハ僧侶等級ヲ用ウルモノトス

第三章 法流印可

第十一條 住職任命後直ニ本寺ノ法流印可ヲ稟承スヘキモノトス
但シ事故アルモ六箇月ヲ經過スルコトヲ得ス

第四章 教師

第十二條 公稱寺院ノ住職又ハ徒弟ノ教師進退ハ其寺院ノ公稱セル智山派又ハ豊山派管長之ヲ行フ

第十三條 智山派又ハ豊山派管長ニ於テ公稱寺院ノ住職ニ對シ懲戒條例ニ依リ降級又ハ教師褫奪ノ處分ニ付セントスル時住職ノ資格ニ異動ヲ生スル場合ハ事由ヲ具シ眞言宗各宗派其關係管長ノ承認ヲ要ス

第五章 色衣允可

第十四條 公稱寺院住職ノ色衣被着ハ其寺院ノ公稱セル智山派又ハ豊山派管長之ヲ許可ス

第六章 寺格及寺院等級

第十五條 公稱寺院ノ寺格昇降ハ眞言宗各宗派其關係管長之ヲ允可ス

第十六條 公稱寺院ノ談林格及寺院等級ノ昇降ハ其寺院ノ公稱セル智山派又ハ豊山派管長之ヲ允可ス

第十七條 公稱寺院ノ寺格並昇格禮録ノ額ハ左ノ如ク之ヲ定ム

別格本山	金百五十拾圓
準別格本山	金百圓
常法談林	金七拾圓
準談林	金五拾圓
格院	金參拾圓
平格院	金貳拾圓
末寺	金拾圓

第七章 副伸

第十八條 公稱寺院ノ官衙公應ニ對スル願書ノ副伸ハ其寺院ノ公稱セル智山派又ハ豊山派管長之ヲ爲ス

但シ本寺連署ノ外總本山又ハ大本山住職ヨリモ副伸ヲ爲スモノトシ其副伸具備スルニ非レハ管長ハ副伸ヲ爲サルモノトス

第八章 宗費並禮録

第十九條 公稱寺院ニ賦課スル宗費ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ徵集ス

- 一 智山派又ハ豊山派教學費、事務費其他ノ宗費ハ智山派又ハ豊山派ノ宗規ニ依リ各其派ニ於テ之ヲ徵集スルモノトス
- 二 眞言宗各宗派ノ事務費ハ一個寺金貳拾錢ノ程度ヲ以テ之ヲ徵集スルモノトス
- 三 眞言宗各宗派ノ事務費ハ都合ニ依リ智山派又ハ豊山派各關係宗務所ヘ之カ徵集ヲ囑托スルコトヲ得

第二十條 公稱寺院住職補任禮録ノ額ハ寺院等級ニ依リ左ノ如ク之ヲ定ム

特等地	一、二、三等	拾五圓
同	四、五等	拾貳圓
等地	一等	拾圓
同	二等	九圓五拾錢
同	三等	九圓

各派關係之部

同	四等	八圓五拾錢
同	五等	八圓
同	六等	七圓五拾錢
同	七等	七圓
同	八等	六圓五拾錢
同	九等	六圓
同	十等	五圓五拾錢
同	十一等	五圓
同	十二等	四圓五拾錢
同	十三等	四圓
同	十四等	參圓五拾錢
同	十五等	參圓
同	十六等	貳圓五拾錢
同	十七等	貳圓
同	十八等	壹圓五拾錢
同	十九等	壹圓
同	二十等	七拾錢
同	二十一等	已下五拾錢

第九章 轉派

第二十一條 眞言宗各宗派ノ僧侶ニシテ智山派又ハ豊山派ニ轉派ヲ出願スルモノ及智山派又ハ豊山派ノ僧侶ニシテ眞言宗各宗派ニ轉派ヲ出願スルモノハ其所屬宗派管長ノ承認ヲ要スルモノトス

眞言宗各派關係寺院取扱法細則

- 第一條 公稱寺院住職ノ資格ハ智山派又ハ豊山派ノ宗規ニ依リ之カ任命ノ手續ハ眞言宗各宗派ノ宗規ニ依ルモノトス
- 第二條 公稱寺院ノ住職任免及寺格昇降ノ願書ハ其寺院ノ公稱セル智山派又ハ豊山派宗務所ヲ經テ之ヲ眞言宗各宗派其關係宗務所ヘ差出スモノトス
- 第三條 公稱寺院住職任免ノ辭令及寺格昇降ノ許狀ハ其寺院ノ公稱セル智山派又ハ豊山派宗務所ヘ交付スルモノトス
- 智山派又ハ豊山派宗務所ハ各其派宗務支所ヲ經テ之ヲ其寺院住職ヘ交付スルモノトス
- 第四條 公稱寺院住職ヨリ其本寺ヘ納ムル繼目禮錄ハ左ノ如ク之ヲ定ム

別格本山	特等一等	金參拾圓
別格本山	同 二等	金貳拾八圓
別格本山	同 三等	金貳拾六圓
準別格本山	特等四等	金貳拾四圓
準別格本山	同 五等	金貳拾貳圓
常法談林	等地一等	金拾五圓
常法談林	同 二等	金拾四圓
常法談林	同 三等	金拾參圓
常法談林	同 四等	金拾貳圓
常法談林	同 五等	金拾壹圓

其寺格ト等級ト相一致セサルモノノ取扱亦之ニ準例ス

- 第五條 公稱寺院住職ノ本寺繼目禮錄ハ住職補任禮錄ト同時ニ其寺院ノ公稱セル智山派又ハ豊山派宗務所ヲ經テ眞言宗各宗派關係宗務所ヘ納付スルモノトス
- 但シ末寺ヨリ直ニ本寺ヘ繼目禮錄ヲ納ムルヲ便宜トスルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 住職任命後止テ得サル事故アリ六箇月以内ニ於テ其本寺ノ法流印可ヲ稟承スルコト能ハサルモノハ其事由ヲ具シ延期出願許可ヲ得ヘシ
- 第七條 眞言宗各宗派僧侶ノ智山派若ハ豊山派ヘ轉派セントスルモノ又ハ智山派、豊山派僧侶ノ眞言宗各宗派ニ轉派セントスルモノハ左項ノ手續ニ依ル
- 一 轉派セントスルモノハ轉派承認願ニ冥加金五拾錢ヲ添附スヘシ
- 一 加入セントスルモノハ轉派加入願ニ履歷書及禮錄金五圓添附スヘシ

○智豊兩派所屬條例

各派關係之部

- 智豊兩派所屬條例
- 第一條 智豊兩派寺院及末徒ノ所屬ハ寺籍ニ依テ之ヲ別ツ
- 第二條 根嶺及智山ノ交衆ナルモ豊山公稱寺院ニ住職ノモノ及徒弟ハ豊山末徒トナシ根嶺及豊山派交衆ナルモ智山派公稱寺院ニ住職ノモノ及徒弟ハ智山末徒トス
- 第三條 爾今新ニ住職(正、兼)セントスルモノ一人兩派ニ跨ルヲ得ス
- 第四條 古義各派及根來末寺ニシテ智豊兩派所屬ノ寺院ハ別ニ告示ス
- 第五條 智豊兩派ノ手續ハ左ノ各項ニ依ル
- 第一項 轉派セントスルモノハ第一號書式ニ準シテ從來所屬ノ宗派ニ承認ヲ乞フモノトシ冥加金五十錢ヲ添附スヘシ
- 第二項 加入セントスルモノハ第二號書式ニ準シテ加入セントスル宗派ノ認可ヲ乞フモノトシ禮錄金五圓ヲ添附スヘシ
- 第三項 智豊兩派末徒ノ古義各派ニ轉派セントスルモノ及末徒ノ兩派ニ加入セントスルモノハ前二項ヲ準用ス

(第一號書式)

談	林	等地六等	金拾圓
談	同 七等	金九圓	
準	林	等地八等	金八圓五拾錢
準	同 九等	金八圓	
格	同 十等	金七圓五拾錢	
格	院	等地十一等	金七圓
格	同 十二等	金六圓五拾錢	
平	院	等地十三等	金六圓
平	同 十四等	金五圓五拾錢	
末	同 十五等	金五圓	
末	寺	等地十六等	金四圓
末	同 十七等	金三圓	
門	同 十八等	金貳圓	
門	同 十九等	金壹圓	
門	同 二十等	金七拾五錢	
門	等地廿一等	金五拾錢	
門	同 廿二等	金五拾錢	
門	同 廿三等	金五拾錢	
門	同 廿四等	金五拾錢	
門	同 廿五等	金五拾錢	

(明治三十三年十一月八日) 聯(智、豊)第一號

各派關係之部

轉派承認願

何宗務支所下
何縣何郡何村何派何寺住職(又ハ徒弟)

私儀今般何々派へ轉籍致度候ニ付御承認被成下度
別紙履歷及冥加金相添此段願上候也
年 月 日

右本人 教師僧階 何 某印
法類(又ハ師僧)同 何 某印
何宗何々派管長何某殿
前書之通相違無之ニ付與書進達候也
年 月 日

何宗務支所長 同 何 某印
(第二號書式)
轉派加入願

何縣何郡何村何派何寺住職(又ハ徒弟)
僧階 何 某印
私儀今般貴派へ加入仕度候ニ付別紙何派承認書并
履歷禮錄相添此段願上候
年 月 日

右本人 級 何 某印
右法類(又ハ師僧) 級 何 某印
何宗何派管長何某殿

(備考)

本人戶籍謄本及所屬宗派ノ證明ヲ得タル
履歷ノ添附ヲ要ス轉派ノ際直ニ住職出願
セサルモノハ依止師ヲ定メ連署スヘシ

○根來山大傳法院寺法

(明治三十四年三月二十五日)
聯 第 二 一 號

根來山大傳法院寺法

根來山大傳法院ハ興教大師唱寂ノ靈地ニシテ新義
眞言宗智山派同豐山派ニ屬スル寺院ナルヲ以テ茲
ニ智豐兩派管長商議ノ上祖山ノ慣例ニ基キ時運ニ
鑑ミ左ノ六章十二條ヲ協定シ以テ根來山大傳法院
ノ寺法ト爲ス

第一章 總 則

第一條 根來山大傳法院ハ大本山ト稱シ新義眞言
宗智山派、同豐山派ノ兩派ニ於テ協同維持スヘ
キモノトス

第二章 住 職

第二條 大傳法院ニハ專任住職ヲ置カス智豐兩山
管長各滿二箇年宛輪次交替ニテ兼務スルモノト
ス

第三章 末 寺

第三條 大傳法院ハ古規ニ依リ座主ト稱ス
第四條 大傳法院ノ末寺末院ハ別表ノ如ク智豐兩
派ニ分屬シ各派ノ宗制寺法ニ依リ之ヲ統理ス但

大傳法院ト其末寺トハ智豐兩派カ宗制寺法ニ依
ル各派内ニ於テ末寺ヲ有スル寺院其末寺トノ間
ニ有セシメタル權義ハ同一ノ權義ヲ有セシム

第四章 執 事

第五條 大傳法院ニ執事二名ヲ置キ座主ヲ補佐シ
大傳法院ノ事務ヲ處辨セシメ其任期ハ滿二箇年
トス但再任ヲ妨ケス

第六條 執事ノ内一名ハ智山派管長ニ於テ一名ハ
豐山派管長ニ於テ各其派内權中僧都以上ノ中ヨ
リ薦舉シ座主ノ名義ヲ以テ任命ス

第七條 智山派管長座主タル間ハ豐山派管長薦舉
ノ執事主任トナリ豐山派管長座主タル間ハ智山
派管長薦舉ノ執事主任トナリ事務ヲ擔當スルモ
ノトス

第八條 智山派管長薦舉ノ執事タル間ハ山内律乘
院ニ住職又ハ兼務住職シ豐山派管長薦舉ノ執事
タル間ハ同蓮華院住職又ハ兼住職ニ就職スルコ
トヲ得

第九條 執事ニ於テ不都合ノ行爲之アルトキハ各
其薦舉ノ區分ニ依リ所屬宗派ノ懲罰條例ニ照シ
之ヲ處分ス

第五章 會 計

第十條 大傳法院ノ經費ハ歲計豫算ヲ以テ定メ智
豐兩派管長ノ承認ヲ經ヘキモノトス

各派關係之部

第十一條 大傳法院ノ基金ノ保管法及會計ニ關ス
ル細則ハ座主之ヲ定メ智豐兩派管長ノ認可ヲ經
ヘキモノトス

第六章 補 則

第十二條 本法實施ニ付必要ナル細則ハ座主ニ於
テ之ヲ定メ智豐兩派管長ノ認可ヲ經テ行フヘキ
モノトス

○密嚴山誕生院寺法

(大正八年六月二十四日聯達)

密嚴山誕生院寺法

佐賀縣藤津郡鹿島町密嚴山誕生院ハ興教大師聖蹟
ノ靈蹟ニシテ新義眞言宗智豐兩派所屬ノ大本山根
來山大傳法院ノ末寺ナリシモ永祿元年兵燹ニ罹リ
テ殆ト廢滅ニ歸セシヲ大正六年八月三十日主務官
應ノ許可ヲ得テ之ヲ復興シタルヲ以テ茲ニ兩派管
長商議ノ上左ノ條項ヲ協定シ誕生院ノ寺法ト爲ス

第一章 總 則

第一條 誕生院ハ新義眞言宗智山派同豐山派ノ兩
派ニ於テ協同維持スルモノトス

第二條 誕生院ハ大本山根來山大傳法院ノ末寺ニ
屬シ之ヲ別格本山トス

第二章 住 職

第三條 誕生院ニハ智豐兩派ノ教師ヲ以テ各派交
替ニ住職セシムルモノトス

- 第四條 誕生院住職ハ任期ヲ定メス辭任死亡其他ノ事由ニ依リ闕員トナリタルトキハ前條ニ依リ之ヲ交替スルモノトス
- 第五條 誕生院住職ハ其ノ教師所屬ノ管長ニ於テ其ノ派ノ宗制宗規ニ依リ之ヲ任命シ兩派互ニ通牒スルモノトス其ノ辭任失職死亡等ノ場合亦同シ
- 第六條 誕生院住職ニ對スル賞典又ハ懲誡ハ兩宗派管長協議ノ上住職所屬宗派管長ニ於テ其ノ派ノ宗制宗規ニ依リ施行スルモノトス
- 第七條 誕生院住職任命ニ對スル禮錄金ハ之ヲ徵收セス
- 第八條 誕生院住職ハ寺ヲ代表シ寺務及法要執行ノ責ニ任ス
- 第九條 住職ノ職務ニ關シテハ本寺法ニ定ムルモノ外住職所屬宗派ノ宗制宗規ヲ遵守スヘキモノトス

第三章 評議員

- 第十條 評議員ハ智豐兩派教師中各二名宛外ニ誕生院ニ對シ特殊ノ關係又ハ功勞アル信徒中ヨリ若干名ヲ兩派管長協議ノ上之ヲ選定ス
- 第十一條 評議員ハ誕生院ニ關スル重要ノ件ヲ議決ス
- 第十二條 評議員ハ何時タリトモ誕生院ノ財産及

事務ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第十三條 評議員ノ任期ハ三箇年トス任期中辭任死亡其他ノ事由ニ依リ闕員ヲ生シタルトキハ第十條ノ規定ニ依リ補闕員ヲ選定ス補闕員ノ任期ハ前任者ノ殘任期トス

第四章 會計

- 第十四條 誕生院ノ經費ハ住職ニ於テ歲計豫算ヲ以テ評議員ノ議決ヲ經テ之ヲ定メ智豐兩派管長ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十五條 誕生院ノ寺有財産管理及會計ニ關スル規則ハ住職ニ於テ評議員ノ議決ヲ經テ之ヲ定メ智豐兩派管長ノ認可ヲ經ヘキモノトス
- 第五章 補則
- 第十六條 本寺法ヲ改正増補ヲ要スルトキハ智豐兩派管長協議ノ上主務大臣ノ認可ヲ得ヘキモノトス
- 第十七條 本法施行ニ付必要ナル細則ハ住職ニ於テ評議員ノ議決ヲ經テ之ヲ定メ智豐兩派管長ノ認可ヲ受クヘシ

○誕生院ニ關スル協商事項(抄)

(大正八年六月二十四日) 智豐兩派協定

- 第一 寺法認可指令書ハ誕生院住職ニ保管セシム

ルコト

- 第二 寺院住職ヲ誕生院住職ニ任命シタル場合ハ元寺ニ對シ其ノ人體ヘ兼務住職ノ特任ヲナスコト
- 第三 誕生院住職ハ寺法第九條ノ明文ニ依リ所屬宗派内ノ選舉權被選舉權ヲ有ス
- 第四 誕生院第一世住職ハ智山派太山寺住職宮崎智全ヲ特任スルコト
- 第五 誕生院ニ對シテハ兩派ニ於テ宗費ヲ賦課徵收セサルコト
- 第十 毎年誕生會及紀念法會(十月二十五日)ニハ兩派ヨリ各代表者ヲ參拜セシムルコト

○御修法ニ關スル協定書

(大正九年十月二十六日眞言宗聯合各派、智豐兩派管長協定)

- 御修法ニ關シ大正十年度以後左ノ方針ニ依リ奉修スルコトヲ締約ス
- 一 法流ニ關スル件
 - 當分慣例ニ依ルコトトシ追テ慎重調査ノ上何分ノ方針ヲ協定スルコト
 - 一 大阿闍梨奉修順番ノ件
 - 大正十年度勸山、十一年度醍醐山、十二年度豊山、十三年度智山ノ順序ニテ奉修シ其ノ後ハ更

各派關係之部

ニ協議ノ上決定スルコト

- 一 各派管長席次ノ件
 - 一 右ハ管長就職ノ順位ニ依リ席次ヲ定ムルコト
 - 一 定額僧ニ關スル件
 - 大阿供僧十五名中各派管長十名聯合各派選出三名智山派一名豊山派一名ノ率ニテ每年出仕スルコト
 - 一 實行年度ノ件
 - 大正十年度ヨリ實行スルコト
 - 一 經費ニ關スル件
 - 御修法ニ關スル經費ハ總額ヲ五分シテ左ノ割合ニ依リ各派ニ於テ負擔スルコト
 - 一 三分 聯合各派
 - 一 二分 智豐兩派
- 前記各項並其ノ以外ノ改正設定ニ付テハ各派關係機關ノ協議ニ依リ決定セシムルコト
- 右協定候也

○佛教聯合會規則

(大正四年十二月協定)

- 第一條 本會ハ佛教聯合會ト稱シ本部ヲ東京ニ出張所ヲ京都ニ設置ス
- 第二條 本會ハ各佛教宗派ニ關スル共通ノ事件ヲ審議シ之ヲ處辨スルヲ以テ目的トス

教護國團ト稱ス

- 第三條 佛教護國團ハ佛教ノ本旨ニ依リ尊皇護國ノ目的ヲ貫徹スル爲國民精神ノ振作統一ヲ盡リ濟世利民ノ事業ヲ經營ス
- 第四條 佛教護國團ハ佛教各宗派僧侶及檀徒信徒ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第五條 佛教護國團ノ設置區域ハ地方ノ狀況ニ從ヒ府縣又ハ市郡町村ノ區域ニ據ル
- 第六條 佛教護國團ノ役員會計其他必要ノ事項ハ各團則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
- 第七條 各地方既設ノ團體ニシテ本團ノ主義目的ニ契フモノハ前各條ニ準シ之ヲ扱フモノトス
- 第八條 此規程施行ニ必要ナル規則ハ別ニ之ヲ定ム

○佛教護國團設立規定施行法

(大正五年十月一日協定)

- 第一條 地方佛教護國團創立ノ獎勵及之カ聯絡統辨シ常務幹事其統督ノ責ニ任ス
- 第二條 地方ニ依リ必要アリト認ムルトキハ佛教聯合會本部ヨリ出張員ヲ派遣スルコトアルヘシ但經費ハ地方ノ負擔トス

- 第三條 佛教聯合會本部ハ必要アリト認ムル地方ノ僧侶又ハ檀信徒ニ對シ該地方佛教護國團設立者ノ囑托辭令ヲ交付ス
- 第四條 地方佛教護國團ノ希望アルトキハ佛教聯合會本部ノ名ヲ以テ役員ノ囑托辭令ヲ交付ス
- 第五條 佛教護國團ノ獎勵統一ニ關スル經費ハ佛教聯合會ノ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

○東京佛教護國團規則(大正五年十月協定)

- 第一條 本團ハ東京佛教護國團ト稱シ本部事務所ヲ東京市神田區通神保町佛教中央會館ニ置ク
- 第二條 本團ハ東京府管内ニ居住スル佛教各宗派僧侶並檀信徒ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第三條 本團ハ佛教ノ本旨ニ依リ世界ノ文化ニ貢獻シ尊皇護國ノ目的ヲ貫徹スル爲國民精神ノ振作統一ヲ圖リ濟世利民ノ事業ヲ經營ス
- 第四條 本團ハ前條ノ目的ヲ達スル爲專ラ布教傳道ノ刷新擴充ヲ圖リ本團綱領ニ提示セル各般ノ事業ヲ實行シ佛教教化ノ徹底ヲ期スルモノトス
- 第五條 本團體ハ東京府管内ノ必要アリト認ムル地方ニ支部ヲ設置シ區域ヲ限リテ團務ヲ分掌セシムルコトヲ得
- 第六條 本團ハ全國各地ニ於ケル佛教護國團及主

義ヲ同ウセル佛教團體ト呼應提携ス

- 第七條 本團ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 一 團長 一名
 - 一 副團長 若干名
 - 一 顧問 若干名
 - 一 理事 若干名
 - 一 協議員 若干名
- 第八條 本團ノ會議ハ左ノ四種トス
 - 一 定期總會 毎年一回開會シ事務及會計ヲ報告シ並協議員ノ選舉ヲ行フ
 - 一 臨時總會 必要ニ應シ開會ス
 - 一 顧問會 隨時ニ團長之ヲ召集ス
 - 一 協議員會 團長ニ於テ必要ト認メタル時又ハ協議員三分ノ一以上ノ請求アリタル時開會ス
- 第九條 本團ノ團員ヲ左ノ四種トス
 - 一 名譽團員 地位名望アル特別團員ニ就キ協議員會ニ於テ推薦セルモノ
 - 一 特別團員 本團ニ特殊ノ功勞アルモノ
 - 一 正團員 各宗派僧侶檀徒信徒ニシテ一定ノ會費ヲ齎出スルモノ
 - 一 贊助團員 本團ノ趣旨ヲ贊助スルモノ
- 第十條 本團ノ會計ハ正團員ノ會費及特別團員其他ノ特志寄附金ニ依リ毎年度豫算ヲ編成シ協議

各派關係之部

- 員會ノ決議ヲ經テ之ヲ支出ス
- 第十一條 本規則施行並更改ニ必要ナル規程ハ協議員會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ム
- 附則 本團第一次ノ協議員ハ發起人之ニ當ル

○東京佛教護國團規則施行細則

(大正五年十一月十九日設定)

- 第一條 東京佛教護國團本部ハ協議員會ノ決議ヲ以テ他ニ移轉スルコトヲ得
- 第二條 東京佛教護國團ハ綱領普及ノ爲左ノ諸項ヲ實行スルモノトス
 - 一 東京府下各地ニ講演會ヲ開キ本團ノ主義精神ヲ鼓吹スルコト
 - 一 他府縣ヨリノ交渉ニ應シテ本團ノ主義鼓吹ノ爲團員ヲ派遣スルコト
 - 一 本團ノ主義鼓吹並事業報告及他トノ連絡ノ爲各種ノ印刷物ヲ發行スルコト
 - 一 本團ハ事業ノ發展ニ從ヒ追テ新聞ヲ發行スルコト
- 第三條 本團ノ綱領ニ提示セル諸項ノ考究ヲ爲シ其ノ實行方針ヲ定ムル爲調査部ヲ設置ス
- 調査部ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

各派關係之部

- 第四條 本團支部ヲ設置セントスルトキハ其ノ規程ヲ作成シ本部ノ承認ヲ經ルモノトス
- 第五條 本團役員ノ任期ハ總テ二年トシ重任スルコトヲ得
- 第六條 本團役員ノ選舉法ヲ左ノ如ク定ム
 - 一 協議員定期總會ニ於テ之ヲ選舉ス
 - 一 協議員會ニハ協議員會長ヲ置キ協議員會ニ於テ之ヲ選舉ス
 - 一 團長、副團長ハ協議員會ニ於テ之ヲ推薦ス理事ハ十二名トシ團長之ヲ指名シ協議員會ノ承認ヲ經ルモノトス
- 第七條 本團定期總會ハ每年十一月トス
- 第八條 本團入團者ハ團員一名以上ノ紹介ヲ以テ申込ムモノトス
- 第九條 正團員ノ會費ハ一箇月金五錢トス
- 第十條 會計年度ハ每年十一月ニ始リ翌年十月ニ終ル會計ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十一條 本團規則並施行細則更改ノ場合ハ協議員半數以上出席ノ協議員會ニ於テ其ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ要スルモノトス

○東京佛教護國團會計規則
(大正六年十一月二十六日設定)

- 一 本團發會式費ノ剩餘金ハ之ヲ第一年度ノ經常費ニ編入ス
- 二 本團振替口座ノ加入取引銀行ノ選定ハ會計理事ニ一任ス
- 三 會費ノ本年度ニ限り大正六年一月ヨリ徵收スルモノトス

○東京佛教護國團調查部規程
(大正五年十一月二十六日設定)

- 第一條 本團ノ調查部ヲ分チテ左ノ五課トス
 - 第一課 政教關係調查
 - 第二課 教育宗教關係調查
 - 第三課 威化救濟事業對宗教關係調查
 - 第四課 各宗派教勢調查
 - 第五課 臨時事項調查
- 第二條 調查部員ヲ五十名以内トシ各課ニ分屬セシム部員ハ團長之ヲ指名ス
- 第三條 調查部ニ部長ヲ置ク部長ハ各課ヲ總括シ其ノ聯絡ヲ司ル
- 各課ニハ主査ヲ置ク主査ハ各課調査ノ開閉、調査項目ノ選定、議題議事ノ整理ヲ管掌ス
- 調查部長、各課主査ハ部員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

各派關係之部

- 第一條 東京佛教護國團規則施行細則第二條、第三條ニ規定セル事項ヲ考究實行シ其ノ他必要ノ事務費ヲ支辨スル爲メ團員ヨリ會費ヲ徵集シ寄附金ヲ收納ス
- 第二條 本團ノ歳入、歳出ハ豫算ヲ編成シ協議員會ノ協賛ヲ經ルモノトス
- 第三條 豫算外ニ生シタル收入、支出ハ次回ノ協議員會ニ於テ其ノ承諾ヲ得ルヲ要ス
- 第四條 已ムヲ得サル必要ニ應スル爲メ豫算ノ款項ニ就テ其ノ全部又ハ其ノ一部ニ於テ費額十分ノ三ヲ超過セサル限り經費ヲ互融スルコトヲ得但シ此場合ニ於テハ協議員會ノ追認ヲ得ルヲ要ス
- 第五條 歳入歳出ノ決算ハ次年度第一次ノ協議員會ノ承認ヲ經テ定期總會ニ報告スルモノトス
- 第六條 理事ノ互選ヲ以テ會計理事三名ヲ置ク會計理事ハ現金保管並收支一切ノ責ニ任ス
- 第七條 各宗派所屬ノ會計幹事若干名ヲ置キ會費ノ徵集其ノ他ノ會計事務ヲ分擔セシム
- 會計幹事ノ員數及選定法ハ各宗派所屬ノ協議員會ニ依ル
- 第八條 會計幹事ハ徵集會費額十分ノ一以内ニ於テ徵集實費ヲ請求スルコトヲ得

附帶決議

- 第四條 調查部ハ臨時専門ノ士ニ必要ト認ムル問題ノ調査ヲ托スルコトヲ得
- 第五條 調查部ハ時宜ニ應ジ調査問題ニ關スル專門ノ士ヲ聘シテ研究會ヲ開ク
- 第六條 調查部各課ノ會合ハ毎月一回以上トナシ問題ニ應ジテ適宜之ヲ開會ス
- 第七條 調查部ハ常ニ本團理事會ト協議ノ上總テノ事務ヲ執行スルモノトス

佛教朝鮮協會々則

- 第一條 本會ヲ佛教朝鮮協會ト稱ス
- 第二條 本會ハ大聖釋尊ノ教旨ニ基キ自彊敬愛ノ念ヲ以テ内鮮佛教徒ノ聯絡提携ヲ企圖シ朝鮮文化ニ必要ナル事項ヲ研究シ之ヲ實現スルヲ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ニヨリ左ノ事業ヲ爲ス
 - 一、鮮地文化ニ必要ナル施設ヲナスコト
 - 二、内地在留ノ鮮人ニ對シ須要ナル方法ヲ講スルコト
 - 三、鮮地ニ必要ナル譯著并ニ出版ヲナスコト
 - 四、朝鮮ニ關スル知識ヲ普及スルコト
 - 五、朝鮮ニ關スル諸般ノ調査研究其他適當ナル事項ヲ行フコト

- 第四條 本會ハ内地及朝鮮佛教徒ニシテ本會ノ目的ヲ贊襄スルモノヲ以テ會員トス
- 第五條 本會々員ヲ分チテ左ノ三種トス
 一、名譽會員 本會ノ推薦シタルモノ
 二、特別會員 年額費金拾圓以上ヲ納付スルモノ
 三、正會員 年額會費金貳圓以上ヲ納付スルモノ
- 第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 顧問 若干名
 評議員 若干名
 理事長 一名
 理事 若干名
 常務員 若干名
- 第七條 本會ハ必要ニ應シテ會員總會、評議員會ヲ開ク
- 第八條 本會ノ經費ハ會費及有志者ノ寄附金ヲ以テ支辨ス
- 第九條 本會ハ事務所ヲ東京ニ、朝鮮本部ヲ京城ニ、支部ヲ各地ニ置ク
- 第十條 役員選定任期、會員總會、評議員會、并ニ會計ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

六、補遺

○本派私立大學智山勸學院ニ
 法資入學ノ件 (大正三年三月廿五日教令第五號)
 本派私立大學智山勸學院別記ノ通設立認可セラレタルニ付テハ派内法資等ヲ登院入學セシムヘシ

○本派私立大學智山勸學院
 設立認可ノ件 (大正三年三月廿七日學告第一號)
 本派私立大學智山勸學院別記ノ通設立認可申請中ノ處本日主務大臣ヨリ認可相成候ニ付此段開申候也

大正三年三月二十五日
 新義眞言宗智山派教學財團理事長
 設立者 權中僧正 宮 本 隆 範
 新義眞言宗智山派管長
 大僧正 伊 藤 宗 盛殿
 文部省京專二七號
 新義眞言宗智山派教學財團理事長 宮本隆範
 大正二年十二月二十三日附申請專門學校令ニ依リ
 新義眞言宗智山派私立大學智山勸學院設置ノ件認
 補遺

可ス

大正三年三月二十五日 文部大臣 大岡 育造

○同學院徵兵令第十二條
 認定ノ件 (大正三年四月十一日學告第四號)
 本日官報ニ左ノ通り告示セラレタリ
 文部省告示第七十號

新義眞言宗智山派智山勸學院
 右ハ徵兵令第十三條ニ依リ認定ス但シ認定ノ効力ハ別科ニ及ハラ
 大正三年四月十一日 文部大臣 大岡 育造

○新義眞言宗智山派私立大學智山勸學院則
 (大正三年三月廿五日認可) (大正七年十月十六日改正認可) (大正九年十二月二日改正認可)
 第一章 總則
 第一條 本則ハ本派宗規第五號教育條例第二章第二條以下ノ規定ニヨリ之ヲ定ム
 第二條 本院ハ事教二相ノ教義並ニ樞要ノ學術ヲ教授シ本派僧侶ヲ養成スルヲ以テ目的トス
 第三條 本院ニ豫科本科研究科選科及別科專修科

ヲ置ク

- 一 豫科ハ本科ニ入ルモノ、爲メニ豫備ノ學術ヲ授クルモノトシ修業年限ヲ壹ケ年トス
 - 二 本科ハ宗乘餘乘及樞要ナル學術ヲ受クルモノトシ修業年限ヲ參ケ年トス
 - 三 研究科ハ本科及選科卒業者ニシテ宗乘及餘乘ノ蘊奧ヲ究メシムルモノトシ修業年限ヲ貳ケ年トス
 - 四 選科ハ特ニ宗乘ノミヲ教授スルモノトシ修業年限ヲ貳ケ年トス
 - 五 別科ハ本科ノ學生タルヘキ資格ヲ有セサルモノ、爲メニ所定ノ學課ヲ授クルモノトシ修業年限ヲ參ケ年トス
 - 六 專修科ハ別科卒業者ニシテ別ニ宗乘乘ヲ學ハシム其修業年限ヲ貳ケ年トス
- 第二章 職員
- 第四條 本院ニ左ノ職員ヲ置ク
院長 一名 學監 一名 教授 若干名
助教 若干名 講師 若干名 舍監 一名
司書 一名 書記 若干名
但シ便宜ニヨリ兼任セシムルコトヲ得
- 第五條 院長ハ院務ヲ總裁シ職員ヲ統督シ重要ナル事件ヲ宗務所ニ具狀ス

- 第六條 院長以下職員ノ任免ハ勸學院職員任免規定ニヨル
- 第七條 院長ハ必要ニ應ジ職員會ヲ開催スルコトヲ得
- 第八條 教授助教及講師ハ學生ノ教育並ニ德性ノ涵養ヲ掌ル
但シ擔任教師ヲ置キ特ニ德性涵養ノ責ヲ分擔セシムルコトアルヘシ
- 第九條 教員ハ每學期豫メ受持學科ヲ定メテ院長ノ承認ヲ受ケ每學期末ニ受持學科ノ經過ヲ院長ニ報告スヘシ
- 第十條
- 一 學監ハ院長ヲ補佐シテ庶務會計ヲ擔當シ兼テ學生ノ風儀ヲ監督ス
 - 二 舍監ハ院長及學監ノ指揮ヲ受ケ寄宿舎ニ關スル事務及學生ヲ取締リ特ニ學生ノ行爲ヲ監督ス
 - 三 司書ハ上長ノ命ヲ受ケ本院ノ圖書記錄ノ整理及圖書閱覽ニ關スル事務ニ從事ス
 - 四 書記ハ上長ノ指揮ヲ受ケ雜務ヲ處辨ス
- 第三章 學年學期及休日
- 第十一條 學年ハ四月一日ヨリ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第十二條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

- 第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル
 - 第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル
 - 第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル
- 第十三條 一 休日ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 一 日曜日
 - 一 大祭祝日
 - 一 春期休業 自四月一日 至四月七日
 - 一 夏期休業 自七月二十日 至八月三十一日
 - 一 冬期休業 自十二月二十六日 至翌年一月九日

但シ都合ニ依リ臨時ニ休業スルコトアルヘシ

二 左記ノ日ヲ法式日トス法式日ニハ學科ノ教授ヲ休ミ法式及布教ノ實習ヲ課ス法式日休日ト一致スルモ法式及布教ノ實習ヲ行フ但シ春夏冬ノ三期休暇中ニ當ル時ハ法式及布教ノ實習ヲ中止スルコトアルヘシ

- 一 新年祝禱仁王會 一月十五日
- 一 紀元節祝禱大般若會 二月十一日
- 一 常樂會 二月十五日
- 一 中興開祖誕生會 四月十七日
- 一 宗祖正御影供 四月二十一日
- 一 佛生會 五月八日

- 一 宗祖誕生會 六月十五日
 - 一 派祖誕生會 六月十七日
 - 一 中興開祖忌 十月四日
 - 一 天長節祝禱護摩供 十月三十一日
 - 一 春秋季彼岸會 春秋皇靈祭日
 - 一 派祖忌日 每月二十一日
 - 一 高祖忌日 每月二十一日
 - 一 出仕論議及陀羅尼會 十二月十一日
 - 一 派祖御法事 十二月十二日
- 但シ以上ノ外臨時ニ法式ヲ授業外ニ課スルコトアルヘシ

- 第四章 入學及退學
- 第十四條 入學期日ハ每學年ノ始メトシ志願者ハ別ニ定ムル書式ニ準シ出願スヘシ
- 第十五條 本科一年ニ入學シ得ルモノハ左項ノ一ニ該當スルモノニ限ル
- 一 豫科ヲ修了シタルモノ
 - 二 豫科ニ入學シ得ル資格ヲ有スルモノニシテ豫科全科目ニ就テ入學試験ニ合格シタルモノ
- 第十六條 本科第二年第三年ニ編入セントスルモノハ第十五條ノ資格ヲ有シ其志望學年以下ノ全科目ニ就キ試験ニ合格シタルモノヲ編入セシムルコトアルヘシ

第十七條 豫科ニ入學シ得ルモノハ左項ノ一ニ該當スルモノニ限ル

- 一 中學校ヲ卒業シタルモノ
- 二 專門學校入學者檢定試験ニ合格シタルモノ
- 三 明治三十六年文部省令第十四號專門學校入學者檢定規定第八條ニ依リ指定セラレタルモノ

第十八條 研究科一年ニ入學シ得ルモノハ本學院本科及選科卒業生トス

第十九條 專修科一年ニ入學シ得ルモノハ本學院別科卒業生トス

第二十條 選科第一年ニ入學シ得ルモノハ本學院豫科ニ入學シ得ル資格ヲ有シ他ノ專門學校ヲ卒業シタルモノニシテ豫科本科ニ缺員アル時トス

第二十一條 別科ニ入學シ得ルモノハ年齢滿十八歳以上ニシテ中學校卒業以上ノ學力アリト認めタルモノトス

第二十二條 入學許可ヲ得タルモノハ保證人連署ヲ以テ別ニ定ムル書式ニ準シ在學證書ヲ差出スヘシ

第二十三條 休學又ハ退學セント欲スル時ハ保證人連署ヲ以テ出願シ許可ヲ受クヘシ

但シ解除セラレタリト雖モ復學ヲ許可セサルコトアルヘシ

第二十六條 左ノ各項ノ一又ハ數項ニ該當スルモノハ除名シ之ヲ師僧及保證人ニ通告シ宗務所ニ報告シ智嶺新報ニ公告ス

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナキモノ
- 二 學力劣等若クハ疾病ノ故ヲ以テ成業ノ見込ナキモノ
- 三 休學ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一學年間授業日數三分ノ二以上缺席シタルモノ又ハ正當ノ理由ナクシテ引續キ一ケ月以上缺席シタルモノ
- 四 出席常ナラサルモノ
- 五 如何ナル事由アルモ同一學年ニ貳ケ年以上停ルモノ
- 六 食費舍費聽講料其他必要ナル費用ヲ滯納セルモノ

第五章 授業料入學料
第二十七條 別ニ規定セルモノ、外本院ハ授業料又ハ入學料ヲ徵集セス

第六章 試験及落第
第二十八條 試験ヲ分チテ入學試験、學期試験、學年試験ノ三種トス
第二十九條 入學試験ハ學年ノ始メニ學期試験ハ

但シ休學ノ許可ハ學年一回ニ限リ其學年ヲ超ルコトヲ得ス

- 二 休學期間終ラハ直ニ復學スヘシ休學期間中ト雖モ事故止ム時ハ其旨届出テ復學登院スルコトヲ得
- 第二十四條 一學年中三ケ月以上休學ヲ願出ルモノハ其學年中休學ト見做ス
- 第二十五條

一 兵役ニ服スルタメ退學シタルモノハ服役滿期後ハ歸休後一ケ年以内ニ再入學ヲ請フトキハ原級ニ編入スルモノトス

二 許可ヲ受ケ退學シタルモノニシテ再ヒ復學セントスルモノハ入學期ニ於テ原級以下ニ復學ヲ許可ス

但シ必要ト認めル時ハ學力ヲ檢定ス
三 退學後滿一ケ年經過シ他ニ於テ研學シタルモノハ學力檢定ノ上相當ノ學年ニ編入スルコトヲ得
四 除名セラレタルモノハ相當ノ事由ニヨリ該處分ヲ取消サレタル上ニアラサレハ復學ヲ許サス
五 放學ニ處セラレタルモノハ第四十八條ニヨリ解除セラレ、ニアラサレハ復學ヲ許サス

各學期ノ終リニ學年試験ハ學年ノ終リニ之ヲ行フ

但シ最終ノ學期ニ限リ學期試験ヲ行ハサルモノトス
第三十條 試験ノ得點ハ各科目百點ヲ以テ滿點トス

第三十一條 品行點ハ百點ヲ以テ滿點トス
第三十二條 品行點ハ各學期末ニ之ヲ評定シ平均シタル得點ヲ以テ學年成績品行點トス

第三十三條 病氣又ハ止ムヲ得サル事故ニヨリ許可ヲ得テ一學期試験ノ全部又ハ一部ヲ缺席シタル者ハ他ノ學期評點平均數ノ十分ノ七ヲ與ヘテ其缺席シタル科目ノ學期試験トス
但シ如何ナル事故ニヨルモ二學期トモニ受驗科目ノ缺席ヲ許サス

第三十四條 一科目ノ學年成績評點ハ各學期試験平均評點ト學年試験得點トヲ折半シテ之ヲ定ムルモノトス
第三十五條

- 一 一學期ノ三分ノ二以上休學又ハ缺席シタルモノハ第一第二學期ニテハ其學期試験ニ第三學期ニテハ學年試験ヲ受クルコトヲ許サス
- 二 受驗セザリシ科目ノ得點ハ第三十三條ニ

依ル外ハ零點トス

第三十六條 學期試驗及學年試驗成績ハ各科目及品行總得點ノ和ヲ總科目數ニ品行ノ一科ヲ加ヘタル數ニテ除シ之ヲ定ム

第三十七條 學年ノ終リニ於テ其學年成績ヲ審査シ品行點六十點以上及各學科評點五十點以上諸學科平均點六十點以上ヲ得タルモノヲ及第トシ之ニ缺クモノヲ落第トス

但學科評點五十點ニ滿タサルモ其評點四十點以上ニシテ且諸學科平均點六十點以上品行點八十五點以上ヲ得タルモノハ特ニ斟酌シテ及落第判スルコトヲ得

第三十八條 學年試驗ニ缺席シタル者ハ落第ト見做ス

但シ左ノ各項ニ相當スルモノニシテ豫メ許可ヲ得テ缺席シタルモノハ次學年ノ始メニ追試驗ヲ受クルコトヲ得

- 一 各學期品行點七十點以上ノモノ
 - 二 各學期學科平均點六十點以上ノモノ
- 第三十九條 試驗ハ各科受持教員之ヲ擔任ス
- 第四十條 規定ノ試驗ニ及第シタモノニハ別記書式ニ準シ修業證書又ハ卒業證書ヲ授與ス
- 第四十一條 學科評點及品行點ハ甲乙丙丁ノ四階ニ分チ學期ノ終リニ保證人ニ報告ス

第七章 賞罰

第四十二條 品行方正學術優等ナルモノハ學年末ニ於テ褒賞スルコトアルヘシ

第四十三條 平素品行不良ノモノ及本院ノ規則命令ヲ遵守セサル者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ懲罰ス

- 一、譴責
- 二、懺悔
- 三、停學
- 四、放學

第四十四條 所犯ノ情狀輕キモノハ之ヲ說諭シ尙改メサルモノハ譴責ニ處ス

第四十五條 再三譴責ヲ受ケ尙改メサルモノ及所犯ノ情狀重キモノハ其犯狀ノ輕重ニ從テ三日以上二週間以内毎日放課後一時間宛院内ニ於テ懺悔セシム

第四十六條 二回以上ノ懺悔ノ罰ヲ受ケタルモノ又ハ之ヲ受ケサルモノト雖モ所犯ノ情狀ノ輕重ニ依リ停學又ハ放學ヲ命ス

第四十七條 總テ罰ニ處セラレタルモノハ之ヲ院內ニ揭示シ懺悔以上ノモノハ保證人ニ通知ス停學以上ノモノハ更ニ本人所轄支所及宗務所ニ通知スルモノトシ之ヲ智嶺新報ニ公告ス

第四十八條 停學又ハ退學ノ處分ヲ受ケタルモノニシテ懺悔ノ情狀特ニ著シキモノハ其處分ヲ解クコトアルヘシ

但シ此場合ニハ本人所轄支所及宗務所ニ通

知シ智嶺新報ニ公告ス

第八章 學生心得及寄宿舎

第四十九條 本院ノ學生ハ左ノ項目ヲ遵守スヘシ

- 一 佛祖ノ訓誡ヲ奉體シ教育勅語ノ趣旨ヲ服膺シ以テ道德ヲ修養スルコト
- 二 言行ヲ慎ミ學業ヲ勵ミ和敬ノ風儀ヲ修ムヘキコト
- 三 其他學生タルノ本分ヲ守リ其體面ヲ汚スヘカラサルコト

第五十條 本院ノ學生ハ必ス寄宿舎ニ入舎スヘシ但特別ノ事情アルモノハ院長ノ許可ヲ得テ通學スルコトヲ得

第五十一條 寄宿舎規定ハ院長別ニ之ヲ定ム

第九章 聽講生

第五十二條 本學院所定ノ學科ノ一科又ハ二科以上ニツキ特ニ研究セントスルモノアル時ハ缺員アル場合ニ限り聽講ヲ許可ス

第五十三條 聽講生ハ聽講セントスル學科ヲ選定シ聽講許可願ヲ提出スヘシ

第五十四條 聽講生ハ志望學科ノ最低學年ニ編入シ上級ニ進マムトスルトキハ試驗ノ上學力ヲ檢定シ許可ス

第五十五條 聽講生ニシテ試驗ヲ受ケ合格セルモノニハ聽講修了證ヲ授與ス

第五十六條 聽講生ハ毎月(八月ヲ除ク)十日迄ニ聽講料金參圓宛ヲ納ムヘシ若シ納附ヲ怠ル時ハ聽講許可ヲ取消スヘシ

第五十七條 本派僧侶ニアラサルモ聽講生タルコトヲ得

第五十八條 本派僧侶ニシテ聽講生タルモノニハ聽講料ヲ免除ス

第五十九條 聽講生ニモ本學院ノ學則各章ヲ準用ス

第六十條 聽講生ハ寄宿舎ニ收容セス

第十章 保證人

第六十一條 學生ノ保證人ハ二名トシ其内一名ハ學生ノ師僧トシ他ノ一名ハ京都市内ニ在住スル公民權ヲ有スルモノ又ハ一寺正住職者ニシテ本學院ニ於テ適當ト認メタルモノトス

但シ本派僧侶以外ノモノハ師僧ノ代リニ其親權者又ハ師僧トス

第六十二條 保證人不適當ナリト認ムル時ハ變更ヲ命ス之ニ應セサル時ハ除名ス

第六十三條 保證人ハ學生ノ身上ヲ保證シ一切ノ事項ヲ引受ケ其操行ヲ監督スルモノトス

第六十四條 保證人ハ保證セル學生ノ件ニ關シ學院ヨリ召集セラレタルトキハ直ニ出頭シ處理スヘシ

第六十五條 保證人ハ學生ノ食費舍費學生ニ貸與セル器物其他學生ニ關スル費用ニ對シ責任ヲ有シ學費滯納又ハ未返済ノ際ニハ直ニ之ヲ納附スル義務ヲ有ス又補給金返済ヲ命セラレタル時ハ償還スル義務ヲ負ヒ退舍ヲ命セラレタル時ハ直ニ之ヲ引取ルヘシ

第十一章 制服

第六十六條 本學院學生ノ制服ヲ左ノ通り定ム

一 法式制服

黑色直綴(木綿)

白木綿帽子(豫科選科一年別科) (木綿)

白衣、袴、念珠、白足袋

二 通常制服

黑色改良服(セル地)

折五條(本山紋章入雲形模様)

三 制帽

羅紗地角帽徽章ヲ附ス

第六十七條 本學院ノ徽章ヲ左ノ通り定ム

形直徑一寸

本豫選科研究生ハ金色

別科專修科生ハ銀色

第十二章 研究科及專修科

第六十八條 研究科及專修科生ハ入學ノ始メニ研究題目ヲ撰ミ指導教授ヲ定メ其題目ニ從テ必要ナル學科ヲ教授ス

第十三章 補則

第六十九條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十條 本則實施上必要ナル事項ハ細則ヲ以テ院長之ヲ定ム

(智山勸學院各科學科程度表及書式ハ略ス)

○主管顧問ノ件 (大正三年四月十日學告第一號)

本學院ハ本派化主親下御主管遊ハサレ本學院顧問左ノ通り囑托セラレタリ

顧問囑托	權大僧正	石川	照勤
同	中僧正	佐伯	隆運
同	文學博士	谷本	富
同	文學博士	榊	亮三郎

○教育方針及豫算ノ件 (大正四年三月六日學告第十一號)

本年三月五日附宗牒第八號ヲ以テ本學院教育方針學生監督方法其他ノ項目別記通牒セラレタリ

宗牒第八號

- 一 本派私立大學智山勸學院ニ關スル件
- 二 教育方針ハ本派僧侶トシテ完全ノ教師ヲ育成スルコト
- 三 學生監督方法ハ自修自覺ヲ期待スト雖現在ノ情態ニアツテハ必要ノ校規ヲ設ケ嚴正ニ之ヲ督勵スルコト
- 四 本派宗學所トシテ健實ナル校風ヲ涵養セシムルコト
- 五 教職員ヲ増シ授業及ヒ其他ノ内容ヲ完全ニ充實スルヲ期スルコト
- 六 豫科ノ前後期ヲ廢シ一學年三學期トスルコト
- 七 學生ノ學資ヲ校規トシテ職員ニ保管スルコトヲ廢止スルコト
- 八 學生ノ學資保管ニ關シテハ諸師僧ニ於テ必要ト認ムルトキハ能屬ヲ依頼シ能屬ハ師僧ニ代ハリ學生ヲ充分保護取締ヲ爲スコト
- 九 學生ノ風儀ニ關シ擔任教師ニ負責ヲ勵行スルコト
- 十 補給金ヲ控除シタル飯料不足金額及ヒ舍費等ヲ其月ニ納附セサル學生アルトキハ之ヲ該師僧ニ通知シ翌月十日以内ニ完納セサルトキハ退舍ヲ命スルコト

補遺

但シ該師僧ハ該學生ノ不足飯料ヲ辨納スル義務アルモノトス

十 不良學生ハ勿論學則校規院長ノ命令ヲ遵守セス能屬ヲシテ説諭セシメ尙改悛ノ見込ナキモノハ該師僧ニ通知シテ諭旨休校若クハ退學ヲ出願セシムルコト

○新義眞言宗智山派教學財團錄事

本派教育財團設立綱領

- 明治四十三年本派第六次定期大會ニ於テ左ノ各項ヲ決議セラレタリ
- 建議者 宮本隆範、小柴豐嶽
- 一 金五萬圓也 教育基金募集額
 - 一 募集期間ハ明治四十四年一月ヨリ滿三ヶ年トス
 - 一 募集範圍本派寺院僧侶及檀信徒
 - 一 應募者ニ對シテハ相當ノ褒賞ヲ授與スル事
 - 一 本基金ハ財團法人組織ニスル事
 - 一 但現在ノ基金ヲ以テ直チニ該法人ヲ組織スルモノトス
 - 一 現在ノ基金ハ五萬圓ノ内へ繰入ル、事

- 一 本基金ハ事故ノ如何ニ拘ラス他ノ用途ニ支出セサルモノトス
- 一 五萬圓ニ滿ツルマテハ利子ヲ元金ニ繰入ル事
- 一 菩提院結衆補命ノ節特別献金又ハ其他特志ノ献金ハ基金ノ内ヘ繰入ル事
- 一 五萬圓ニ達シ利子ヲ使用セントスル場合ハ定款ニ依ルモノトス
- 一 詳細ノ方法規則並ニ法人組織ニ關スル定款ハ宗務所ニ於テ之ヲ作製スル事

○新義眞言宗智山派教學財團
寄附行爲

第一章 目的
 第一條 本財團ハ新義眞言宗智山派ノ教學振興ヲ企圖スル爲メ必要ナル資産ヲ所有シテ本派ノ布教及興學事業ニ關スル費用ヲ支辨スルヲ目的トス
 本寄附行爲ニ於テ本派ト稱スルハ新義眞言宗智山派ヲ云フ
 第二章 名稱

第二條 本財團ハ新義眞言宗智山派教學財團ト稱ス
 第三章 事務所
 第三條 本財團ノ事務所ヲ東京市芝區愛宕町一丁目四番地ニ置ク
 第四章 資産
 第四條 本財團ノ資産ハ左記財産ヨリ成ル
 一 本財團設立ノ爲メ新義眞言宗智山派管長伊藤宗盛ノ寄附シタル左記教學基金
 一金八千八百貳圓拾七錢也
 二 將來本財團ニ對シ本派管長ヨリ寄附セラルル教學基金
 三 將來本財團ニ對シ本派寺院僧侶及寺院ノ檀信徒其他有志者ヨリ寄附セラルル、財産
 四 本財團ノ所有財産ヨリ生スル果實及ヒ其他ノ雜收入
 第五條 本財團ノ財産ハ理事長之ヲ保管ス
 但シ寄附者カ寄附財産ニ付キ特ニ保管ノ方法ヲ指定シタルトキハ其指定ニ依ル
 第六條 第四條第一號乃至第三號ニ掲ケタル財産ヲ基本財産トス
 基本財産ハ如何ナル事由アルモ之ヲ處分スルコトヲ得ス
 第七條 第四條第四號ニ掲ケタル財産ヲ常用財産トス

トス
 本財團ノ維持費及ヒ財團ノ目的ヲ達スル爲メニ要スル費用ハ常用財産ヲ以テ之ヲ支辨ス

但シ前條第一項ノ財産カ總額五萬圓ニ達スルマテハ維持費ヲ支辨シテ生シタル常用財産財ノ殘餘ハ之ヲ其財産ニ組入ルモノトス
 會計年度ノ終ニ於テ維持費及ヒ財團ノ目的ヲ達スル爲メニ要スル費用ヲ支辨シテ尙剩餘アルトキハ總裁ノ指定ニ從ヒ之ヲ前條第一項ノ財産ニ組入レ又ハ次年度常用財産ニ繰越スモノトス
 第八條 本財團ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルモノトス
 毎年度ノ決算報告ハ年度終期ヨリ三ヶ月以内ニ監事ヲ經テ智嶺新報ニ掲載シ本派内ニ告示スルモノトス

第五章 役員
 第九條 本財團ニ左ノ役員ヲ置ク
 一 總裁 一名
 一 顧問 若干名
 一 理事 三名
 一 監事 三名
 一 評議員 若干名
 第十條 總裁ハ本派管長タル者之ニ任ス
 補遺

總裁ハ本財團ヲ統轄シ顧問理事以下ノ役員ヲ任免ス

第十一條 顧問ハ本派宿老ニシテ特ニ巨額ノ教學基金ヲ本派ニ寄附シ若クハ本財團ニ巨額ノ基本財産ヲ寄附シタル者ノ中ヨリ總裁之ヲ選任ス
 顧問ハ本財團ノ重要事項ニ就キ總裁ノ諮詢ニ應スルモノトス
 第十二條 理事ハ内一名本派宗務長タル者之ニ任シ其他ノ二名ハ本派教學職員及ヒ巨額ノ教學基金ヲ本派ニ寄附シ若クハ本財團ニ巨額ノ基本財産ヲ寄附シタル者ノ中ヨリ總裁之ヲ選任ス
 第十三條 理事ニ總裁ノ指名ヲ以テ理事長ヲ置ク
 理事長ハ總テ本財團ノ事務ニ付キ財團ヲ代表シ兼テ評議員會ノ議長トナル理事長事故アルトキハ總裁財團ヲ代表スヘキ理事ヲ指名ス
 第十四條 財團ノ事務ハ理事ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス
 前項ノ規定ニ拘ハラス財團ノ常務ハ理事長之ヲ專行スルコトヲ得理事長事故アルトキハ總裁ノ指名スル理事代テ其職務ヲ行フ
 第十五條 監事ハ本派ノ宗務及ビ教學ニ功勞アル者及ヒ巨額ノ教學基金ヲ本派ニ寄附シ若クハ本財團ニ巨額ノ基本財産ヲ寄附シタル者ノ中ヨリ評議員會之ヲ選舉シ總裁之ヲ命ス

監事ハ本財團ノ資産及ヒ理事ノ業務執行ノ情況ヲ監督ス

第十六條 評議員ハ本派宗務所部長及ヒ本派教學職員並ニ本派宗務教學功勞者其他本派教學基金又ハ本財團基本財産ヲ特別ニ寄附シタル者ノ中ヨリ總裁之ヲ選任ス

評議員ハ財團ニ關スル重要ノ事務ニ付理事ノ諮問ニ應ス

第十七條 理事ハ必要ノ場合ニハ常務員及ヒ書記ヲ置クコトヲ得

常務員ハ理事長ノ指揮ヲ稟ケ其事務ニ從事ス書記ハ理事長及ヒ常務員ノ指揮ヲ受ケ其事務ニ從事ス

第十八條 總裁ハ役員中不適當ト認ムル者アルトキハ何時ニテモ顧問ニ諮詢シ之ヲ解任スルコトヲ得

第十九條 顧問及ヒ監事カ決議ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ第十四條第一項ノ規定ヲ準用ス

第二十條 役員ノ任期ハ各三ヶ年トス但シ再選ヲ妨ケス

第二十一條 監事死亡其他ノ原因ニ因リ退任シタル場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ臨時評議員會ヲ召集シテ之ヲ選舉セシムルコトヲ得

第二十二條 役員補缺者ノ任期ハ前任者ノ殘任期

トス
第二十三條 役員ハ名譽職トス但シ實費ヲ支給スルコトヲ妨ケス

第六章 評議員會
第二十四條 評議員會ハ定期開會ハ毎年一回四月トス理事ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ監事ノ請求アリタルトキハ何時ニテモ臨時開會ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 評議員會ノ召集ハ理事長之ヲ行フ評議員會ハ全員ノ二分ノ一以上出席スルニ非レハ議事ヲ開クコトヲ得ス

評議員會ノ決議ハ出席員ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス可否同數ナルトキハ議長ノ定ムル處ニ依ル

第二十六條 理事ハ評議員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

但シ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第七章 補則
第二十七條 理事ハ本財團ノ執務細則及本寄附行爲施行細則ヲ設クルコトヲ得

但シ總裁ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第二十八條 本財團設立ノ際ニ限リ監事ハ總裁之ヲ選任ス

第二十九條 本寄附行爲ノ規定ヲ改正セントスル

○本財團寄附行爲中巨額及持別寄附金額左ノ通り設立者覺書ヲ以テ決定ス

- 一 本財團寄附行爲第十一條中ノ巨額ハ金貳千圓以上トス
- 二 同上第十三條中ノ巨額ハ金壹千圓以上トス
- 三 同上第十五條中ノ巨額ハ金五百圓以上トス
- 四 同上第十六條中ノ特別寄附金額ハ金百圓以上トス

○本派教學財團基本資産増額ヲ要スル説明書

本派教學財團ニ於テ設立セル本派私立大學智山勸學院ハ大正三年三月二十五日設立ヲ認可セラレ同年四月十日徵兵令第十三條ニ依リ同學院豫本科學生ハ認定セラレタリ
私立學校令第二條ノニ私立學校立設者タル財團法人ハ其學校ヲ維持スルニ足ルヘキ年度經常費ニ充ツル金額ヲ云フ) 收入ヲ生スル資産及ヒ設備又ハ之ニ要スル資金ヲ具備スルコトヲ要スル規定アルヲ以テ本派私立大學智山勸學院年度經常費豫

トキハ其改正案ヲ理事一致ノ意見ニ依リ評議員會ノ會議ニ付スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ評議員ノ三分ノ二以上出席スルニ非レハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席者ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非レハ改正ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ決議ハ顧問ノ同意ヲ以テ總裁ノ承認ヲ經テ主務官廳ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第三十條 本財團ハ法定ノ解散事由發生スルカ又ハ顧問理事及ヒ評議員ノ全員一致ヲ以テ總裁ノ承認ヲ得ルニアラサレハ解散スルコトヲ得ス

本財團解散シタルトキハ其財産ノ處分方法ハ理事及ヒ評議員ノ三分ノ二以上出席シタル會議ニ於テ出席者ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ得タル決議ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ決議ハ顧問ノ同意ヲ得テ總裁ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第三十一條 本財團設立ノ際ニ限リ本派宗務長タル者以外ノ二名メ理事ハ設立者ニ於テ之ヲ指名スルモノトス

右寄附者 伊藤宗盛

算金壹萬〇七百五拾圓トスレハ其二十倍額タル金
貳拾壹萬五千圓ノ基本財産ヲ本派教學財團ニ教育
基金トシテ充實セサルヘカラス
依之本派寺院約三千ヶ寺ナレハ一ヶ寺平均金七拾
圓ツ、ノ割合ヲ以テ寄附金ヲ要シ本派現在寺院等
級收入約金貳拾參萬圓現在宗費賦課約金貳萬壹千
餘圓ナレハ現在宗費賦課金ノ約十倍ニ相當スル金
額ヲ寄附セラレンコトヲ要ス尤モ五ヶ年賦十回ニ
分納セラル、ヲ妨ケス前願ノ次第ニ付派内寺院諸
師ハ一派教學振興ノ爲メ護法道念ヲ發輝シ奮ツテ
本財團資産金寄附申込アラントコトヲ希望スル處ナ
リ

以上

○宗費納金ニ關スル件(大正三年九月一日宗牒番外)

別紙秘第一號ヲ以テ宗費納金ニ關スル注意書ヲ稟
命通牒相發候ニ付テハ貴部内寺院一般ニ無洩御配
付ノ上ヘ各寺院住職人ヨリ請書ヲ本月二十日迄ニ
提出セシメ御進達有之度候
貴管理ハ自今以後一層宗規教令規定ノ職責ヲ重
セラレ別記秘第一號注意書ノ趣旨ヲ諒セラレ貴部
内寺院住職一般懇示周知セシメラル、ハ勿論必ス

宗費ヲ遲怠無之様ニ徵納相成度候尤モ大正二年度
教令第二號宗費徵集施行細則第九條ノ無遲怠ハ宗
費受納後十日以内ニ宗務所ニ送金進達スヘキモノ
ト御了知相成度候若シ未納者アルトキハ同上細則
第八條及第十條ノ手續ヲ盡サレ猶豫無之具申又ハ
申報有之度候此段稟命及通牒候也

秘第一號 大正三年九月一日日本派寺院住職宛
宗費ハ一派ノ生存上宗治教學機關ヲ運轉スルニ
必要ナル經費ヲ支辨スル爲メニ豫算ニ依リ課賦
徵集スル處ニシテ之ヲ納金スルハ派内寺院ノ重
要ナル義務ナリ而シテ之カ滞納ハ豫算施行ニ支
障ヲ醸シ宗治ノ不振ヲ招キ教學ノ發展ヲ害スル
ハ勿論毎納期ニ完納スル寺院ニ對シテ滞納寺院
ノ責務ヲ不問ニ看過スル能ハサル處ナリ今ヤ宗
運ノ伸張教學ノ振興ニ伴ヒ宗費ヲ毎納期限内ニ
完納ヲ要スルコト益切實ナルヲ以テ自今以後ハ
毎納期ヲ經過スル滞納者ニ對シテハ情實ニ拘泥
セス斷然宗規法令ノ命スル處ニ從ヒ嚴正ニ其勵
行ヲ期ス庶幾ハ派内寺院宗費納金義務ノ重責ヲ
自覺セラレ從來宗費ノ滞納積弊ヲ一洗シ誓テ每
期限内ニ必ス宗納ノ美風善習ヲ養成シ以テ宗治
教學機關ノ活動ニ資セラレンコトヲ

一 宗費ハ徵收令狀指定ノ期日ニ取集管理ニ必
ス納金スヘシ

二

非常災害等ノ爲メニ宗費負擔ニ堪ヘサルカ
又ハ納期ニ納金シ能ハサル不止得事故發生
スルトキハ該期限内ニ其事實證據ヲ具シ宗
規第九號第三章第十四條ニ依リ申請スヘシ
若シ期日逼迫事實證據ヲ具シカタキトキハ
其旨豫申スヘシ

三

大正元年度乃至大正二年度第二期宗費未納
アル寺院ハ本月十二日迄ニ完納スヘシ若シ
不得止事故アリテ能ハサルモノハ其事實ヲ
具シテ申請スヘシ

四

大正元年度第一期以前ノ未納宗費ニシテ大
正二年度教令第二號宗費徵集施行細則第十
二條ニ依リ今尙未整理ノモノハ本月三十日
限り必ス整理シテ其完済方法ヲ具申スヘシ
本月ハ既ニ大正三年度第一期宗費納期ニ入
リタレハ假令前年度宗費未納アル寺院ト雖
モ本月十二日以後ニ於テハ先ツ當該本納期
ノ大正三年度第一期宗費臨時費ヲ納金完済
スヘシ而シテ前年度未納宗費ハ其上ニ納金
スヘキコト

五

本所ハ必要ト認ムルトキハ本所臺帳ニ依リ
直接ニ未納寺院ニ對シ調査又ハ示達スルコ
トアルヘシ

六

宗費滞納ニ關スル督促乃至派出費用等ハ滞

七

補遺

納寺院ノ負擔トス
右稟命及通牒候也

○本年數令第貳號宗費徵集施行

細則制定發布相成候ニ付テハ
該部内寺院ニ周知セシメラレ
宗費徵集送納共ニ勵行ヲ期セ
ラレ度候(大正二年三月一日宗牒番外)

大正元年度第二期宗費徵集令狀乃至領收證並ニ宗
費納金目錄共ニ印刷シテ送附ニ及ヒ候間該施行細
則第三條乃至第六條ニ依リ該部内寺院ヨリ宗費ヲ
徵集シ本月三十一日迄ニ當所ニ送納有之度候
一 該施行細則第八條乃至第十條及ヒ第十二條第
十四條ハ屹度勵行相成度候
一 該施行細則第十三條實施ニ付キ詮議ヲ要シ候
間第十條大正元年度第一期以來未納宗費アル
支所管理ヨリ本月三十一日迄ニ其未納事故乃
至情狀ヲ當所ニ具伸有之度候
一 宗費未納ニ關シ所員ヲ派遣スルトキハ其往復
旅費及ヒ實費等ハ當該支所負擔タルヘシ尤モ
未納寺院ニ負擔セシムル場合ニハ當該支所ヨ

一 其旨前以テ該未納寺院ニ督促ノ際豫告スルコトヲ要ス

一 該施行細則第十一條勵行ニ關シテハ宗費賦課徵收條例補則第十八條正當ノ事故ナクシテ納期後二ヶ月ヲ過キ寺院賦課金ヲ納附セサルモノハ怠納者トシテ情狀ニ依リ之ヲ處分ストアル全文ヲ特ニ該部内寺院ニ周知セシメ置カレ度候

一 宗費未納寺院ニ對シテ諸願伺等容易ニ御詮議不相成又々學資補給御停止可相成事有之候尤モ該部内何レノ寺院納否不明ノ場合ニハ當該支所一般ニモ關スヘク候間前以テ該部内寺院ニ周知セシメラルヘキハ勿論部内宗費納否寺院明細ニ申報相成度候

一 從來宗費領收ニハ會計課印ヲ用キ居候處自今該會計課印ハ割印ニ用キ左ノ會計課長印ヲ押捺シテ領收ヲ證シ候事

智山派宗務所會計課長之印

右各項稟命及通牒候也

○寺檀間ニ紛議無之様

注意 (大正八年八月一日諭達)

派内一般

近來寺院住職相互間又ハ住職對檀徒間ニ紛議ヲ起シ是非ヲ法廷ニ争フモノ尠カラサルヤニ聞ク、甚タ憂フヘキ傾向ナリトス、如斯ハ僧侶ノ本分ニ悖ルハ勿論國民教化上多大ノ支轄ヲ生スヘキ儀ニ付自今住職カ本派寺院ヲ代表シテ訴訟ヲ提起セントスル場合ニハ豫メ情ヲ具シテ管長ノ認可ヲ受クヘク若シ又々他ヨリ起訴セラレタル場合ニハ其旨直ニ宗務所ニ届出ツヘシ

右諭達ス

大正八年八月一日

新義真言宗智山派管長
大僧正 大江 存良

○寺院收入調査ニ關スル宗牒

(大正五年三月十日)

一 本年教令第三號寺院收入調査ハ一派寺院ノ實カヲ知悉センカ爲メニシテ宗務當局者タルモノ、當然實施スヘキ職責ニ屬スルモノナリト

二

信ス

本派寺院ハ收入ヲ標準トシテ等級ヲ定メ等級ニ依リ寺格ヲ公許シ宗費ヲ賦課徵收スル處ナレハ該收入調査ノ結果トシテ等級ヲ査定昇降セラレ隨ツテ寺格及ヒ宗費賦課徵收ニ影響スルハ勿論ナリト信スト雖トモ左項ヲ留意セラレンコトヲ

(イ) 宗費ハ宗會ノ協賛ニ依リ豫算ヲ定メ之ヲ一派寺院等級收入ニ賦課徵收スルモノナリ例セハ現行豫算歲入寺院賦課金二萬一千二百餘圓ナリ之ヲ一派寺院等級收入總額金二十三萬餘圓ニ課賦シテ大約寺院等級收入額百分ノ九ヲ徵收スル處ナリ若シ寺院收入調査ノ結果一派寺院等級收入總額カ増加シテ金六十九萬圓ニ達スルト假定スルトキハ寺院等級收入額百分ノ三ヲ徵收スレハ足ル則チ左ノ如シ

現行十等地地收入額金二百圓ニ對スル百分ノ九宗費年度地收入額金九圓ナリ

假定四等地地收入額金六圓ニ對スル百分ノ三宗費年度地收入額金九圓ナリ

如斯ニテ宗費豫算寺院賦課金二萬一千二百餘圓ヲ得ルハ同一ナリトス

(ロ) 寺院收入増加ノ爲メニ等級寺格共ニ昇等

三

スル結果トシテ現ニ住職人教師等級カ卑クナルトモ失格スルコトナガルヘン

(ハ) 現行寺院等級收入ハ土地ハ單ニ地價金十分ノ一ヲ收入ト認定シタルモノ本年教令第三號寺院收入調査ハ該規定ノ如ク實際ノ收入ヲ調査スル處ナリ

(ニ) 隨ツテ宗會ノ協賛ヲ得テ寺院條例第二章第二條ノ寺院等級收入標準及ヒ等級ヲ標準トスル宗規中ノ諸規定ヲ改正セラル、コトアルヘシ

寺院收入調査規則第二條ハ實際ノ收入ヲ取調申告スルコトヲ要スル左ノ如シ

(イ) 第二項收入ノ表示ハ事實收入ノ物件品目數量ヲ記スルヲ要ス則チ第一類ニアリテハ施物ニ米穀其他ノ物品アルトキハ其品目數量ヲ記シ第二類ニアリテハ小作米、粃、麥其他ノ物件アルトキハ其品目數量ヲ記シ又タ現金收入ハ其旨記入スヘシ今回ハ實際收入調査故ニ本項ヲ主眼トスル處ナリ

(ロ) 時價換算ハ該物件品目數量ノ欄ニ物品數ト時價トヲ細記スヘシ

(ハ) 該收入ヲ得ル諸經費トハ第一類ニアリテ檀徒施入ヲ得ルニ對シ必要ナル寺ノ出費ヲ云フ例セハ檀徒年賀施入金五十圓アルト

キハ施入金額欄ニ五十圓ト記シ寺ヨリ檀徒ニ年賀配札物件出費金十圓ナルトキハ諸經費欄ニ十圓ト記シ純益欄ニ金四十圓ト記スヘシ

第二類ニアリテハ諸經費トハ公租稅ノ外カ該土地ヨリ收入ヲ得ルニ要スル實費ヲ云フ例セハ組合用水費等ノ如シ尤モ水利費又ハ耕地整理費等ニシテ臨時一定期間ノ支出ニ屬スルモノハ備考欄ニ記入スヘシ

公租稅ハ地租及ヒ府縣市町村稅ニシテ寺名ニ宛テ課賦徵收セラル、モノニ限ル住職人名ニ宛テラル、戸數割等ヲ加算スヘカラス宗費、諸種ノ寄附義納金、及ヒ營繕法會等ノ寺經費ニ屬スルモノハ公租稅及ヒ諸經費中ニ加算スヘカラス

(ニ) 第二類評定小作入付品量地代金トハ實際ニ於テ該寺ニ於テ小作人ト評定契約セル品目數量ヲ云フ

四 各寺院ノ收入ハ其地方ニ於テ定評シ居ル處ナリ例セハ甲寺ハ檀徒何戸所有土地收入米何十石雜收入若干ト云フカ如シ時ニ該寺ノ盛衰收入増減アルヘシト雖トモ組合寺院及ヒ支所員ハ平生之ヲ知悉スル筈ナレハ寺院規則第六條第七條ノ評決副申ニ際シテハ嚴正ニ處理スヘシ

五 宗務調整部ニ於テ調査上必要ト認ムルトキハ左項ヲ實施勵行ス

- (イ) 當該寺年度歲入歲出ト帳簿、當該寺小作取集帳等ヲ點檢調査スルコト
- (ロ) 當該寺所在地ノ市町村役場其他ニ照會シテ當該寺ノ公租稅納金額並ニ田畑山林宅地雜地反別地價ニ對スル該部落小作入附標準等ヲ調査スルコト
- (ハ) 前兩項ハ部長又ハ部長ヨリノ部員若クハ支所員組寺總代人ニ命シテ點檢調査セシムヘシ

六 前項以外ニ尙ホ疑義アルトキハ其旨ヲ明記シテ宗務調整部長宛ニ伺出ヘシ

右寺院收入調査ニ關スル解説書該部内ニ周知セシメラレ度此段及通牒候也

○管長副申ニ關スル宗牒

(宗牒第二號) 派内一般 從來本堂庫裡其他堂宇ノ改築修繕又ハ境内及境外地上立竹木ノ伐採處分等ニ付地方廳ニ出願スル

但兩大會已講ノ者ニシテ權少僧正以上ノ教師ニ代理ヲ命セラル、コトアルヘシ

○智山派僧侶死亡者届出ノ件

(明治三十四年三月十日番外達)

本派僧侶ニシテ死亡ノ者往々届出ヲ怠リ不都合不尠候條死亡ノ節ハ法類(法類無之者ハ組寺又ハ本寺)並ニ檀徒總代又ハ信徒總代ノ連署ヲ要シ埋葬認可證ノ寫相添ヘ三日以内ニ屹度可届出 但非住職ノ者ハ檀徒及信徒總代ノ連署ヲ要セス

○師僧死亡後更ニ師僧相定メ届出ノ件

(明治三十四年三月一日番外達)

本派僧侶徒弟ニシテ師僧死亡後更ニ師僧ヲ定メス其儘ニ差措者有之取扱上不都合不尠候條一寺住職任命以前ニ係ルモノハ更ニ師僧相定メ可届出

ニ際シ管長ノ副申ヲ要スル地方ト要セサル地方トアリ管長ノ副申ヲ要スル場合ニハ宗務所ニ於テ十分事實ヲ調査(又ハ詮議)スルヲ以テ支替ナキモ副申ヲ要セサル場合ニハ宗務所ハ全ク之ニ關與セサルヲ以テ寺院財產ノ移動ヲ知ル能ハス寺有財產管理上不都合不尠候ニ付自今本堂庫裡其他堂宇ノ改築修繕并本派寺有財產保管條例施行細則第二條中第四種第十七目境内地上立竹木及物件令第十八目境外山林地上立竹木ノ伐採賣却等ヲ行ハントスル場合ニハ必ラス管長ノ副申又ハ認可ヲ得テ地方廳ヘ出願ノ手續ヲナスヤウ留意相成度此段稟命及通牒候也

大正八年八月一日

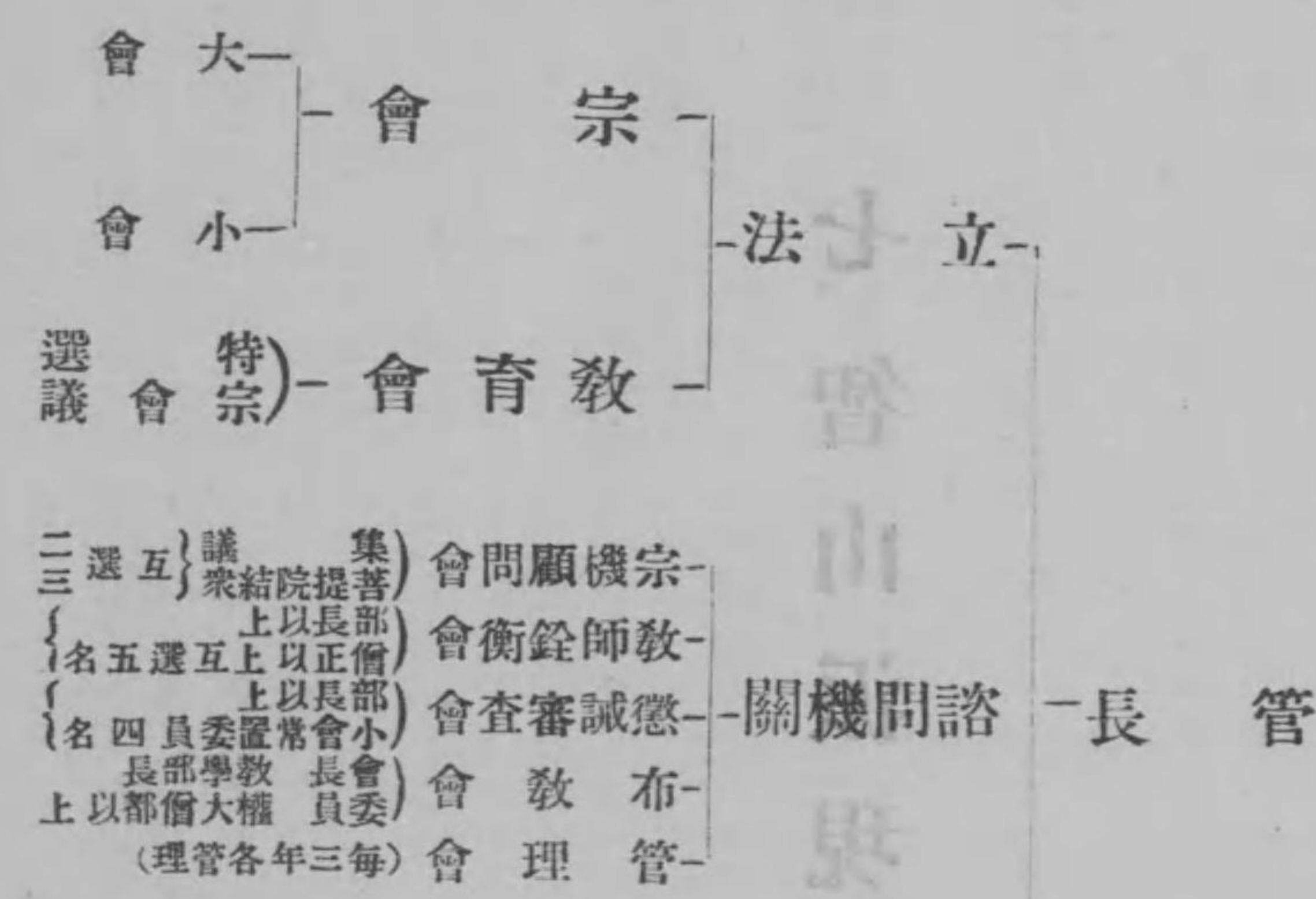
宗務長

○傳法灌頂及大曼荼羅供修行ハ管長ノ臨鑑ヲ請フヘキ件

(明治三十四年十月五日乙第三號達)

本派ノ寺院ニ於テ傳法灌頂及大曼荼羅供等ノ大法會ヲ修行セントスルトキハ管長ノ臨鑑證明ヲ請フ儀ト心得ヘシ

一、智山派組織一覽表



行政 — 宗務所

正算議願	改則規	一	(特選)
豫算豫急	豫時臨	二	(名五廿選公)
法方育教	院學勸	一	(名四參選互員)
件ルス關ニ	費育教	二	
項事ルス關ニ	團財育教	三	
項事ルス關ニ	督監事學	四	
項事ルス關ニ	究研相兩教事	五	
項事ルス關ニ	給補生學	六	
項事ルス關ニ	生學留	七	
必ガ長管	テシ關ニ育教他其	八	
項事ルメ認ト要		九	
免任職住	簿名院寺	一	庶
錄登者補候職住並類法	簿名僧	二	
退進師教簿名僧	賞會檀	三	務
罰議徒信檀	布	四	
所習講教布教布體團私公	社講會教	五	學
長管教布方地教布同巡化親	事	六	
{智學大立私}	免補師教布階學	七	教
{院學勸山}	成養資法	八	
生種甲學中	課賦及決豫ノ費宗	九	
院學修專	管保持維產財有宗	一〇	
	護監ノ產財院寺	一一	計
	納出ノ品物錢金	一二	會
	(上以都僧中權)理		宗務支所
	(上以都僧少權)理		管副
	(上以師律權)員		議評

一、管長

管長ハ本派總本山智積院化主ニシテ本派ノ宗義ヲ裁定シ宗憲宗規ニヨリ一派ヲ統理シ立法行政ヲ總攬ス、明治三十三年本派分離以後左ノ通り更迭セラル。

- 一、大僧正瑜伽教如猊下 明治三十四年 明治四十四年三月三日辭職
 - 二、大僧正伊藤宗盛猊下 明治四十四年三月三日認可就職 大正六年十月廿四日辭職
 - 三、大僧正大江存良猊下 大正七年一月八日認可就職 大正十年十二月八日辭職
 - 四、大僧正武藤範秀猊下 大正十二年十二月八日認可就職
- 管長ハ先ツ集議席拾名ヲ候補者トシ一般寺院住職ヲ選舉人トシテ候補者參名ヲ選舉シ更ニ菩提院結衆ヲ選舉人トシテ内一名ヲ選舉セシメ高點者ヲ當選人トシ文部大臣ノ認可ヲ得テ就職ス、集議席並ニ菩提院結衆ノ現員氏名左ノ如シ。
- 菩提院 大僧正 石川 照勤
 - 集議席 大僧正 加美谷 智觀
 - 同 權中僧正 三神 快遍
 - 同 中僧正 青木 榮豐
 - 同 大僧正 佐伯 隆運

三三四

同	三十二年十一月十八日	權中僧正	文屋 晋阿
同	大正六年五月七日	權中僧正	齋藤 隆現
同	三十五年三月廿四日	權中僧正	瀧 承天
同	大正八年十二月廿三日	權中僧正	旭 純榮
同	大正八年十二月廿三日	少僧正	日野 榮順
同	大正六年十二月二十日	少僧正	田中 徹道
同	大正五年十二月廿七日	少僧正	宮崎 智全
同	同 十二月三十日	少僧正	高橋 隆中
同	同 七月廿七日	少僧正	橫井 良琪
同	同 十二月廿三日	少僧正	丸山 覺雅
同	同 十二月十四日	少僧正	久志 卓動
同	同 十二月廿五日	少僧正	見田 政照
同	同 十二月二十日	少僧正	玉瀧 義秀
同	同 十二月廿三日	少僧正	竹村 智蓮
同	同	少僧正	平幡 照法
同	同	少僧正	川崎 辨龍
同	同	少僧正	松本 盛恒
同	同	少僧正	五十嵐 光龍
同	同	少僧正	正田 運猷

- 同 山口 宥存
- 同 大槻 快尊
- 同 林田 光禪
- 同 高井 觀海
- 同 平澤 照尊

(一名缺員)

- 一、三神榮阿(自明治三十六年至大正三年)
- 二、小山智盛(大正四年)
- 三、小島承範(大正五年)
- 四、林 快因(大正六年)
- 五、川崎辨龍(自大正七年至大正十年)
- 六、三神榮阿(自大正十一年至現在)
- 七、小島承範(現在)
- 八、小島承範(現在)

二、宗機顧問

宗機顧問ハ管長ノ教學及宗治上重要ノ事項ヲ諮問スル機關ニシテ集議ノ互選貳名菩提院結衆ノ互選參名ヲ以テ組織ス。現在宗機顧問左ノ如シ。(目下菩提院結衆選出ノモノ貳名缺員中ナリ)

石川 照勤 佐伯 隆運 丸山 覺雅

四、宗會大會

宗會ハ管長ノ特選(特等地ノ寺院住職ヨリ)セルモノ五名及ヒ一般寺院十五區ヨリ選出セルモノ廿五名ヲ以テ組織シ、宗憲宗規ノ改正並ニ管長ニ於テ必要ト認メタル事項ヲ議決ス。宗會ノ議案ハ宗務所之ヲ提出シ議員三人以上ノ同意ヲ得テ議案ヲ發スル事ヲ得、大會ハ宗會條例ノ定ムル所ニヨリ議案ヲ審議シ寺院僧侶ノ請願ヲ受ケ及ヒ管長ニ對シ建議スルコトヲ得。

宗會大會ハ定期臨時ノ二種トシ定期ハ始メ三年ニ一回開會セシテ隔年一回ニ改メ大正十一年度ノ宗會大會ニ於テ毎年開會ニ改正(宗規改正)セラレ定期ハ六月ニ於テ開會ス。明治三十四年六月二十二日第一次開會シテヨリ大正十一年六月マテ回ヲ重ヌル事十三回ナリ(定期九回)現宗會議員氏名左ノ如シ。

- 石川 照勤 佐伯 隆運 丸山 覺雅 平幡 照法
- 大槻 快尊 以上特選
- 松本 盛恒 稻垣 心鏡 岡 弘元 桑澤 俊盈
- 倉持 秀峰 文屋 教晉 大塚 寬識 齋藤 護道
- 相澤 湛海 喜田 隆秀 伊原 照肅 久我 啓道
- 安西 亮船 楠 純隆 鈴木 隆嶽 伊藤 恭尊
- 五頭 照惠 塚田 大賢 岡田 徹雄 山田 智海
- 高野 能曉 小島 教盛 小林 範田 佐野 慶如

三三五

田中敬道 以上公選
 因ニ昨年十月改選後開會セサルヲ以テ正副議長
 選舉セラレサルモ前回迄ノ開期並ニ議長等左ノ如
 シ。

回	定期 臨時	開 年	月	會 議	長	副議長	宗務長
一	定	明治三十四年	六月	同	瀧	平嵐光龍	小柴豐嶽
二	同	明治三十七年	四月	同	瀧	志賀照林	
三	臨	明治四十年	十一月	同	瀧	志賀照林	
四	定	明治四十年	六月	同	瀧	志賀照林	
五	臨	明治四十三年	十一月	同	旭	純榮	
六	定	明治四十二年	六月	同	旭	純榮	
七	定	大正二年	六月	同	旭	純榮	
八	定	大正五年	六月	同	旭	純榮	
九	臨	大正六年	十二月	同	旭	純榮	
十	臨	大正七年	十二月	同	旭	純榮	
十一	臨	大正七年	六月	同	旭	純榮	
十二	臨	大正九年	六月	同	旭	純榮	
十三	定	大正九年	六月	同	旭	純榮	
十四	定	大正十一年	六月	同	旭	純榮	

宗會小會ハ宗憲宗規ノ定ムル所ニヨリ宗會大會
 議員ヨリ互選セルモノ八名ヲ以テ組織シ會計條例

回	開 年	月	會 議	長	宗務長
一	大正四年	三月	同	石川照勤	宮本隆範
二	大正七年	六月	同	石川照勤	旭 純榮
三	大正八年	六月	同	石川照勤	旭 純榮
四	大正九年	六月	同	石川照勤	旭 純榮
五	大正十一年	六月	同	石川照勤	旭 純榮

六、會計検査會、教師詮衡會、
 懲誠審査會

○會計検査會ハ宗會大會議員ノ互選ニ依ル委員三
 名ヲ以テ組織シ毎年九月決算検査ヲナス。現在委
 員氏名左ノ如シ。(但シ大正十一年末任滿)
 平幡照法 田邊榮隆 大塚寛誠
 ○教師詮衡會ハ當初小會常置委員及宗務所部長以
 上ノ職員ヲ以テ組織セシカ大正九年ノ宗會大會ニ
 於テ改正ノ結果權少僧正以上ノ教師ヨリ互選セル
 モノ五名及宗務所部長以上ノ職員ヲ以テ組織シ初
 メハ正權大僧都昇補ノモノヲ詮衡セシヲ大正九年
 組織變更後權大僧都以上ノ教師ニ昇補セントスル
 モノヲ詮衡ス、現在委員氏名左ノ如シ。

智山派現勢一覽表

第二條ニヨリ豫算三分ノ一以内ノ臨時宗費其他憲
 規ノ定ムル事項ヲ議決ス。明治三十五年十二月第
 一回ヲ開會シテヨリ大正八年十二月開會セル迄回
 ヲ重ヌル事八回ナリ。

回	開 年	月	會 議	長	副議長	宗務長
一	明治三十五年	十二月	同	平嵐光龍	小柴豐嶽	
二	同	三十八年	十月	志賀照林	志賀照林	
三	同	四十一年	七月	志賀照林	佐伯隆運	
四	同	四十四年	二月	石川照勤	小柴豐嶽	青木榮豐
五	大正三年	二月	同	石川照勤	小柴豐嶽	青木榮豐
六	大正三年	五月	同	石川照勤	小柴豐嶽	青木榮豐
七	大正四年	十月	同	石川照勤	小柴豐嶽	青木榮豐
八	大正八年	十二月	同	石川照勤	小柴豐嶽	青木榮豐

五、教育會

教育會ハ宗會大會議員ノ互選四名ト管長ノ特選
 三名トヲ以テ組織シ教育條例ノ定ムル所ニヨリ教
 育ニ關スル事項ヲ議決ス。大正四年三月第一回ヲ
 開會セシヨリ大正十一年六月迄開會スル事五回ナ
 リ。

佐伯隆運	青木榮豐	玉瀧義秀
竹村智蓮	平幡照法	
旭 純榮	平澤照尊	江連賢盛
○懲誠審査會ハ小會議員ノ互選四名及ヒ宗務所部 長以上ノ職員ヲ委員トシ降級處分以上ノ懲誠ヲ審 査ス。現在委員氏名左ノ如シ。(但シ大正十一年末任滿)		
佐伯隆運	平幡照法	田邊榮隆
大塚寛誠	旭 純榮	平澤照尊
江連賢盛		

七、宗務所

宗務所ハ管長ノ宗務ヲ總攬スル所トシ宗規ノ規
 定ニヨリ宗務長ヲシテ事務ヲ執行セシム。芝區愛
 宕町一丁目四番地眞福寺内ニ在リ。所内ニ庶務教
 學會計ノ三部ヲ置キ部長三名主事三名往復係一名
 書記若干名ヲ置キ事務ヲ分割主掌セシム。職員氏
 名左ノ如シ。

一小柴豐嶽 (三、八、一六)	一志賀照林 (三、六、三三)
三旭 純榮 (三、九、一七)	一四佐伯隆運 (四、一、一七)
五青木榮豐 (四、三、一六)	一六宮本隆範 (四、六、一六)
七千葉賢永 (六、六、一七)	一八旭 純榮 (現任)

庶務兼教學課長(權大僧都以上ノ教師ヨリ選舉セラル)

一宮本隆範(三三、八一九) 一青木榮豐(同、三三、二五)

三青木宥如(三五、一、三三) 一四旭 純榮(七三、一、三三)

以下各部長分置セラル

庶務課長(現在ハ庶務部長ト稱ス)

五玉瀧義秀(三九、六、三三) 一六疋田運猷(四、四、三三)

七寶居弘徹(四、四、三三) 一八角田賴惠(三三、三、三三)

九竹村智蓮(五、三、三三) 一十旭 純榮(七三、一、三三)

教學課長(現在ハ教學部長ト稱ス)

五小島承範(三九、六、三三) 一六平嵐光龍(三九、六、三三)

七角田賴惠(三三、三、三三) 一八竹村智蓮(三三、三、三三)

九朝生聖圓(五、三、三三) 一十小峰融憲(七三、一、三三)

二平澤照尊(現任)

會計課長(現在ハ會計部長ト稱ス) (大正七年四月迄ハ代、宗務長兼任セリ)

九田村大榮(七、四、一六) 一十江連賢盛(現任)

庶務屬(現在ハ庶務部主事ト稱ス) (權少僧都以上ノ教師ヨリ當長任命ス)

一、角田賴惠 一、鈴木恭如 一、楠 體本

四、安東信慧 一、五、小林範田 一、六、福原義照

七、平幡照法 一、八、朝生聖圓 一、九、遠藤能曉

十、御嶽隆道 一、十一、芙蓉淨淳(現任)

教學屬(現在ハ教學部主事ト稱ス) 四代目安東信慧

迄ハ庶務屬兼任セリ。(同)

五、高橋宥恭 一、六、朝生聖圓 一、七、村上快諦

八、小峰融憲 一、九、御嶽隆道 一、十、文屋教晉

十一、芙蓉淨淳 一、十二、野口照清(現任)

會計屬(現在ハ會計部主事ト稱ス) (同)

一、小島承範 一、二、小林範田 一、三、伊藤理英

四、平幡照法 一、五、小島承範 一、六、東山深明

七、高麗慈光(現任)

往復係(權少僧都以上ノ教師ヨリ當長任命ス)

一、松本慶覺 一、二、畠山賴慶 一、三、福原義照

四、下部英舜 一、五、畠山賴慶 一、六、小口隆宣

七、御嶽隆道 一、八、野口照清 一、九、大橋乘善(現任)

書記ノ歴代ハ之ヲ省略シ現在ノ氏名左ノ如シ。

小島眞融 飯岡宣雅 小島覺道(會計部)

大森能圓(庶務部) 金剛興照(教學部)

雇員現員左ノ如シ。

渡邊祥峰

宗務支所ハ宗務所ト寺院ノ聯絡機關ニテ管理ハ支所ノ事務ヲ執リ部内寺院住職ノ互選ニヨリ管長之ヲ任命ス。

京都市支所 上京區鷹野十二坊町上品蓮臺寺中

管理 齋藤隆 現

京都府支所 相樂郡瓶原村 海住山寺中

和歌山縣支所 那賀郡根來村 律乘院中

管理 保立俊 惠

愛媛縣支所 松山市唐人町 觀音寺中

管理 山縣 徹 暹

高知縣支所 長岡郡國府村 國分寺中

管理 安井 覺 玄

長崎縣平戶支所 北松浦郡平戶村 最教寺中

管理 林 快 因

宮崎縣支所 兒湯郡都於郡村 黒貫寺中

管理 事務取扱 松本 盛 恒

福井縣支所 坂井市市川上町 持寶院中

管理 澤村 慈 光(副)

滋賀縣東部支所 阪田郡神照村 神照寺中

管理 佐々木 隆 伸

同 西部支所 高島郡海津村 寶幢院中

管理 高井 觀 海

岐阜縣支所 武儀郡關町 新長谷寺中

管理 長谷 範 意(副)

愛知縣支所 名古屋市中區門前町 寶生院中

管理 松平 實 亮

靜岡縣支所 磐田郡久努村 油山寺中

管理 菊地 快 温

山梨縣甲支所 東八代郡竹野原村 福光園寺中

同 乙支所 東山梨郡岡部村 大藏經寺中

管理 楠 體 本

長野縣南部支所 諏訪郡平野村 照光寺中

管理 諏訪 坂 有 詠

同 北部支所 上田市横町 宗吽寺中

管理 塚田 隆 榮

長野縣東部支所 北佐久郡小沼村 眞樂寺中

管理 北佐久 向 井 亮 道

群馬縣支所 多野郡神流村 觀音寺中

管理 觀音 廣 瀨 義 照

埼玉縣東部支所 北葛飾郡松伏領村 靜栖寺中

管理 北葛飾 齋 藤 護 道

同 西部支所 北足立郡加納村 明星院中

管理 北足立 高 橋 隆 恭

同 南部支所 北足立郡蕨町 三學院中

管理 北足立 山 口 宥 存

同 騎西支所 北埼玉郡加須町 勝藏院中

管理 北埼玉 茨 蓉 淨 淳

同 羽生支所 北埼玉郡不動岡村 總願寺中

管理 北埼玉 山 口 定 道

同 熊谷支所 比企郡西吉見村 息障院中

管理 比企郡 早 川 教 光

東京府第一號支所 芝區愛宕町一ノ六 鏡照院中

東京府第二號支所	南多摩郡七生村	管理 小峰 融 憲	茨城縣第一號支所	猿島郡弓馬田村	管理 平 幡 照 法		
神奈川縣支所	橋樹郡大師町	管理 丸 山 覺 雅	同 第二號支所	新治郡石岡町	管理 畑 中 秀 惠		
千葉縣安房支所	安房郡國府村	管理 佐 伯 隆 運	同 第三號支所	那珂郡湊町	管理 岩 田 照 守		
同 中島支所	君津郡中村	管理 成願寺中	同 第四號支所	鹿島郡輕野村	管理 旭 純 榮		
同 君原支所	君津郡馬來田村	管理 鈴木 隆 嶽	同 管理事務取扱	中 山 照 嚴	同 栃木縣下都賀支所	下都賀郡壬生町興生寺中	管理 竹 村 智 蓮
同 小久保支所	君津郡大貫町	管理 鈴木 真 精	同 河内支所	宇都宮市寺町	管理 生福寺中	同 同 同	管理 平 澤 照 尊
同 作田支所	夷隅郡中川村	管理 明王院中	同 北部支所	那須郡野崎村	管理 觀音寺中	同 同 同	管理 岡 田 徹 雄
同 山武支所	山武郡豐岡村	管理 地福寺中	同 芳賀支所	芳賀郡祖母井村	管理 崇眞寺中	同 同 同	管理 福 田 善 充
同 匝瑳支所	匝瑳郡野田村	管理 圓長寺中	同 福島縣磐城支所	石城郡赤井村	管理 常福寺中	同 同 同	管理 旭 純 榮
千葉縣印旛支所	印旛郡成田町	管理 新勝寺中	同 岩代支所	河沼郡箕川村	管理 遍照寺中	同 同 同	管理 佐 瀬 榮 輝(副)
同 香取支所	香取郡豐和村	管理 龍尾寺中	同 杵衝支所	岩瀬郡杵衝村	管理 長樂寺中	同 同 同	管理 梶 芳 光(副)
同 海上支所	海上郡銚子町	管理 圓福寺中	同 宮城縣支所	仙臺市東三番町	管理 大聖寺中	同 同 同	管理 大聖寺中

岩手縣支所	氣仙郡氣仙村	管理 千田 觀 祐
山形縣第一號支所	東村山郡長崎町	管理 正法寺中
同 第二號支所	東置賜郡龜岡村	管理 大聖寺中
同 第三號支所	飽海郡藤岡村	管理 龍頭寺中
秋田縣支所	南秋田郡土崎湊町	管理 正善院中
青森縣支所	弘前市銅屋町	管理 最勝院中
北海道支所	旭川市五條通	管理 眞久寺中
新潟縣甲支所	南蒲原郡見附町惣持寺中	管理 久 志 卓 動
同 乙支所	南蒲原郡城內村	管理 西珠院中
同 南海支所	佐渡郡羽茂村	管理 弘仁寺中

八、教學財團

本派教學財團ハ大正二年六月十日民法第三十四條ニヨリ文部大臣内務大臣ヨリ設立許可ヲ受ケ同年七月一日登記ヲ了シ、本派ノ教學振興ヲ企圖スル爲メニ必要ナル資産ヲ有シ布教興學事業ニ關スル費用ヲ支辨スルヲ目的トセリ。目下寄附募集中心ニ屬シ大正七年度ノ評議員會ノ決議ニヨリ資産總額金二十萬圓ニ達スル迄ハ其利子ヲ資産ニ繰入レツ、アリ。資産増加状態ヲ表示スレハ左ノ如シ。

同 西部支所	佐渡郡畑野村	管理 田 中 徹 道
同 朝鮮支所	釜山港太廳町	管理 金剛寺中
同 熊本支所	球磨郡黒肥地村	管理 見 田 政 照
同 宗務	青蓮寺中	管理 直 轄

大正十年度	大正九年度	大正八年度	大正七年度	大正六年度	大正五年度	大正二年度	年度別
1,400,000.00	1,200,000.00	1,100,000.00	1,000,000.00	900,000.00	800,000.00	700,000.00	寄附金總額
1,000,000.00	900,000.00	800,000.00	700,000.00	600,000.00	500,000.00	400,000.00	未收入金額

智山派現勢一覽表

所支城縣島福		所支賀芳縣木枋		所支部北縣木枋		所支內河縣木枋		正僧大 正僧大權 正僧中 正僧中權 正僧少 正僧少權 都僧大 都僧大權 都僧中 都僧中權 都僧少 都僧少權 師律 師律權 補試師教 計小
職住非	職住	職住非	職住	職住非	職住	職住非	職住	
	一		一				一	
	一一二		二		一三三		三三三	
	三九		一四		八一〇		一一〇	
	五九		三四		九二		三四	
	一四		二七		六三		五五	
	六二		二七		三三		四五	
	一七		七		一一		五	
八		二		六		七		計

三五七

所支乙縣瀉新		所支甲縣瀉新		所支衙梓縣島福		所支代岩縣島福		正僧大 正僧大權 正僧中 正僧中權 正僧少 正僧少權 都僧大 都僧大權 都僧中 都僧中權 都僧少 都僧少權 師律 師律權 補試師教 計小
職住非	職住	職住非	職住	職住非	職住	職住非	職住	
	一		二				一	
	三四		四六		一〇八		一一	
	五七		一〇八		二二		一一	
	六四		二二		四		一一	
	二二		三九		一五		一一	
	三四		四六		二		一一	
	二八		六三		二		二	
四		二		七		二		計

智山派現勢一覽表

所支號一第縣城茨		所支上海縣葉千		所支嶺印縣葉千		所支瑛匠縣葉千		正僧大 正僧大權 正僧中 正僧中權 正僧少 正僧少權 都僧大 都僧大權 都僧中 都僧中權 都僧少 都僧少權 師律 師律權 補試師教 計小
職住非	職住	職住非	職住	職住非	職住	職住非	職住	
	一		一		一		一	
	一一一		二五		三三		一四	
	二二		五六		二二		二二	
	二二		六三		一一		三七	
	二二		三四		一一		七六	
	二二		六三		一四		七三	
	九		三三		一四		三三	
二		四		七		元		計

三五六

所支賀部下縣木枋		所支號四第縣城茨		所支號三第縣城茨		所支號二第縣城茨		正僧大 正僧大權 正僧中 正僧中權 正僧少 正僧少權 都僧大 都僧大權 都僧中 都僧中權 都僧少 都僧少權 師律 師律權 補試師教 計小
職住非	職住	職住非	職住	職住非	職住	職住非	職住	
	二		一		一		一	
	一一		二		一一		一一	
	一一		二		一三		一三	
	一一		二		二二		二二	
	一一		二		三三		三三	
	一一		二		三三		三三	
	一一		二		三五		三五	
	二		二		一〇		一〇	
二		二		二		三		計

智山派現勢一覽表

宮城縣	支所	職住非	職住	岩手縣	支所	職住非	職住	青森縣	支所	職住非	職住	北海道	支所	職住非	職住
正僧大權	1			正僧大權	1			正僧大權	1			正僧大權	1		
正僧中權	4			正僧中權	1			正僧中權	1			正僧中權	1		
正僧少權	8			正僧少權	1			正僧少權	1			正僧少權	1		
正都僧大權	7			正都僧大權	1			正都僧大權	1			正都僧大權	1		
正都僧中權	1			正都僧中權	1			正都僧中權	1			正都僧中權	1		
正都僧少權	1			正都僧少權	1			正都僧少權	1			正都僧少權	1		
正都師律權	1			正都師律權	1			正都師律權	1			正都師律權	1		
正都師補計	1			正都師補計	1			正都師補計	1			正都師補計	1		
計	31			計	3			計	3			計	3		

三五八

山形縣	支所	職住非	職住	山形縣	支所	職住非	職住	山形縣	支所	職住非	職住	山形縣	支所	職住非	職住
正僧大權	1			正僧大權	1			正僧大權	1			正僧大權	1		
正僧中權	1			正僧中權	1			正僧中權	1			正僧中權	1		
正僧少權	1			正僧少權	1			正僧少權	1			正僧少權	1		
正都僧大權	1			正都僧大權	1			正都僧大權	1			正都僧大權	1		
正都僧中權	1			正都僧中權	1			正都僧中權	1			正都僧中權	1		
正都僧少權	1			正都僧少權	1			正都僧少權	1			正都僧少權	1		
正都師律權	1			正都師律權	1			正都師律權	1			正都師律權	1		
正都師補計	1			正都師補計	1			正都師補計	1			正都師補計	1		
計	11			計	3			計	3			計	3		

三、本派教會所表

內地 朝鮮 北海道 樺太 計
一九 一五 二九 三六 六一

新瀉縣	支所	職住非	職住	新潟縣	支所	職住非	職住	富山縣	支所	職住非	職住	石川縣	支所	職住非	職住
正僧大權	1			正僧大權	1			正僧大權	1			正僧大權	1		
正僧中權	1			正僧中權	1			正僧中權	1			正僧中權	1		
正僧少權	1			正僧少權	1			正僧少權	1			正僧少權	1		
正都僧大權	1			正都僧大權	1			正都僧大權	1			正都僧大權	1		
正都僧中權	1			正都僧中權	1			正都僧中權	1			正都僧中權	1		
正都僧少權	1			正都僧少權	1			正都僧少權	1			正都僧少權	1		
正都師律權	1			正都師律權	1			正都師律權	1			正都師律權	1		
正都師補計	1			正都師補計	1			正都師補計	1			正都師補計	1		
計	3			計	3			計	3			計	3		

朝鮮教會所

名稱	布教管理者	所管位置	權少僧正	見田政照
金泉布教所	慶尙北道金泉面錦町	二村政了	松永盛宏	村田堯鏞
草梁洞	釜山府草梁洞	菅野隆本	堀田政基	見田政照
絕影島洞	慶尙北道統營面朝日町	愛甲義海	新保覺純	阿部照芳
統營洞	釜山鎮凡一洞	見田政照	丸尾盛諒	見田政照
釜山鎮洞	忠清北道秋風嶺	阿部照芳	丸尾盛諒	見田政照
秋風嶺洞	全羅南道錦城町	丸尾盛諒	丸尾盛諒	見田政照
羅州洞	全羅南道西面東町	丸尾盛諒	丸尾盛諒	見田政照
麗水洞	慶尙南道府內面駕谷里	丸尾盛諒	丸尾盛諒	見田政照
密陽洞	慶尙南道府內面駕谷里	丸尾盛諒	丸尾盛諒	見田政照
九龍浦洞	同 北道九龍浦	丸尾盛諒	丸尾盛諒	見田政照
面錦城洞	全羅南道羅州面錦城町	丸尾盛諒	丸尾盛諒	見田政照
浦項洞	慶尙北道浦項	丸尾盛諒	丸尾盛諒	見田政照
長承浦洞	同 二運面長承浦	丸尾盛諒	丸尾盛諒	見田政照
順天洞	全羅南道順天面大手町	丸尾盛諒	丸尾盛諒	見田政照
計	十五ヶ所	丸尾盛諒	丸尾盛諒	見田政照

朝鮮開教補助金下附一覽表(大正十一年六月現在、單位圓)

大正十一年	大正十年	大正九年	大正八年	大正七年	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	布教所
120	1	1	1	1	1	1	1	1	釜山 絶影島

智山派現勢一覽表

歲出經常部

宗務所費	三,100,000	三,481,197	四,855,500	六,347,150	七,872,050	一四,398,040	二二,670,000
管長御手元費							
俸給諸給費	二,018,000	二,114,000	三,156,000	四,080,000	五,115,000	八,375,000	一,100,000
郵電費	150,000	170,000	150,000	250,000	298,940	375,000	1,175,000
旅費	110,000	250,000	150,000	150,000	150,000	361,970	340,000
筆紙墨費	128,653	128,653	150,000	181,900	250,000	433,000	670,000
印刷費	90,000	65,545	73,000	110,000	185,910	187,600	330,000
油炭費	60,000	60,000	84,000	150,000	185,910	407,200	960,000
器具費	30,000	30,000	50,000	50,000	50,000	50,000	100,000
管繕費	100,000	100,000	100,000	180,000	100,000	100,000	200,000
慰勞賞與	100,000	110,000	150,000	100,000	300,000	587,000	1,000,000
慰問費			90,000	100,000	100,000	100,000	100,000
會計檢查費		50,000		90,000	50,000	50,000	100,000
教師診衡會費				100,000	100,000	100,000	100,000
懲誡審查會費				100,000	100,000	100,000	100,000
宗機關問會費				100,000	100,000	100,000	100,000
宿直費			55,000	75,000	100,000	100,000	100,000
各宗事業費				55,000	95,000	700,000	3,000,000

雜費	九三,三四八	100,000	110,000	117,500	450,000	500,000	500,000
豫備費	200,000	150,000	200,000	200,000	300,000	300,000	300,000
管理會積立金							
宗會費	200,000	600,000	600,000	700,000	1,000,000	1,150,000	3,000,000
大會費積立金	160,000	400,000	400,000	500,000	1,000,000	1,150,000	3,000,000
小會費	70,000	110,000	100,000	250,000	1,000,000	1,150,000	3,000,000
布教費	225,000	2,067,500	1,947,500	2,147,500	3,190,000	4,800,000	6,100,000
教會本部							
巡回布教費	1,000,000	1,300,000	1,100,000	800,000	1,200,000	2,000,000	3,000,000
開拓布教費	450,000	400,000	380,000	840,000	1,100,000	1,100,000	1,100,000
監獄及公私	300,000	100,000	110,000	110,000	300,000	450,000	600,000
團體布教費	100,000	200,000	200,000	310,000	310,000	600,000	700,000
布教講習所費	50,000				50,000	50,000	100,000
布教會費	60,000				50,000	50,000	100,000
雜費	300,000	675,000	475,000	675,000	500,000	500,000	500,000
軍隊布教費	681,000,000						
教育費	4,130,000	7,000,500	11,305,610	15,225,000	19,424,600	37,911,000	50,225,000
中學林費	2,290,000						
大學林費	400,000						
研究科補給費							
宗學所費		7,000,000	7,000,000				

同	十等	100,000	1,000	14,000	18,000	30,000	30,000
同	十一等	175,000	875	12,500	15,750	20,130	27,680
同	十二等	150,000	750	10,500	13,500	17,250	23,300
同	十三等	125,000	625	8,750	11,250	14,380	19,920
同	十四等	100,000	500	7,000	9,000	11,500	15,300
同	十五等	75,000	375	5,250	6,750	8,630	11,150
同	十六等	50,000	250	3,500	4,500	5,800	7,600
同	十七等	25,000	125	1,750	2,250	2,900	3,800
同	十八等	12,500	62.5	875	1,125	1,450	1,900
同	十九等	6,250	31.25	437.5	562.5	725	950
同	二十等	3,125	15.625	218.75	281.25	362.5	475
同	廿一等	1,562.5	7.8125	109.375	140.625	181.25	237.5
同	廿二等	781.25	3.90625	54.6875	70.3125	90.625	118.75
同	廿三等	390.625	1.953125	27.34375	35.15625	45.3125	59.375
同	廿四等	195.3125	0.9765625	13.671875	17.578125	22.65625	29.6875
同	廿五等	97.65625	0.48828125	6.8359375	8.7890625	11.328125	14.84375
同	廿五等	5,000以下	1,000	18,000	23,000	37,000	54,000

C. 昇級禮錄對照表

種目	年別	甲	乙	丙	丁	戊	己
大僧正	明治三十四年二月十九日	50,000	100,000	110,000	150,000	150,000	150,000
中僧正	明治三十八年十一月廿二日	45,000	90,000	100,000	140,000	140,000	140,000
權中僧正	大正二年九月十六日	40,000	80,000	90,000	130,000	130,000	130,000
少僧正	大正七年二月八日	35,000	70,000	80,000	120,000	120,000	120,000
權少僧正	大正十一年八月四日	30,000	60,000	70,000	110,000	110,000	110,000
大僧都	明治三十四年二月十九日	15,000	30,000	35,000	50,000	50,000	50,000
中僧都	明治三十八年十一月廿二日	10,000	20,000	25,000	35,000	35,000	35,000
權中僧都	大正二年九月十六日	8,000	16,000	20,000	28,000	28,000	28,000
少僧都	大正七年二月八日	7,000	14,000	18,000	25,000	25,000	25,000
權少僧都	大正十一年八月四日	6,000	12,000	15,000	21,000	21,000	21,000
律師	明治三十四年二月十九日	3,500	7,000	8,000	11,000	11,000	11,000
權律師	明治三十八年十一月廿二日	3,000	6,000	7,000	9,500	9,500	9,500
教師	明治三十四年二月十九日	3,000	6,000	7,000	9,000	9,000	9,000
教師補	明治三十四年二月十九日	1,500	3,000	3,500	4,500	4,500	4,500

(在學生ハ教師等級ニ拘ハラズ禮錄金參拾錢ノ處大正十一年八月四日金壹圓ト修正)

智山派現勢一覽表

d. 住職禮錄對照表

等級	年別	明治三十四年三月十九日 甲第二號發布	明治三十八年七月廿二日 甲第一號發布	明治四十二年八月廿三日 甲第四號發布	大正二年九月十六日 教令第六號發布	大正七年二月八日 教令第三號發布
特等一級	同	一五,000	二〇,000	二六,000	四〇,000	五〇,000
二級	同	一五,000	一五,000	一九,500	三〇,000	四〇,000
三級	同	一四,000	一〇,000	一三,000	二〇,000	三〇,000
二等	同	一三,000	七,500	九,750	一五,000	二〇,000
三等	同	一二,000	五,000	六,500	一〇,000	一五,000
四等	同	一一,000	四,000	五,000	八,000	一〇,000
五等	同	一〇,000	三,000	三,900	六,000	八,500
等地一等	同	九,500	二,750	三,500	五,500	七,000
二等	同	九,000	二,500	三,250	五,000	六,500
三等	同	八,500	二,000	二,900	四,500	五,500
四等	同	八,000	一,750	二,600	四,000	五,000
五等	同	七,500	一,500	二,250	三,500	四,500
六等	同	七,000	一,375	一,900	三,000	四,000
七等	同	六,500	一二,500	一,780	二,750	三,600
八等	同	六,000	一一,500	一,625	二,500	三,100
九等	同	五,500	一一,250	一,460	二,350	二,800

同	同	五,500	一〇,000	一三,000	二〇,000	二五,000
十等	同	五,000	八,750	一一,280	一七,500	二一,000
十一等	同	四,500	七,500	九,750	一五,000	一八,000
十二等	同	四,000	六,250	八,300	一二,500	一五,000
十三等	同	三,500	五,000	六,500	一〇,000	一二,000
十四等	同	三,000	三,750	四,800	七,500	九,000
十五等	同	二,500	二,500	四,300	六,500	七,500
十六等	同	二,000	二,250	三,500	五,500	六,500
十七等	同	一,500	一,750	二,900	四,500	五,500
十八等	同	一,000	一,250	二,300	三,500	四,500
十九等	同	七,500	一,750	二,280	三,500	四,500
廿一等	同	五,000	一,000	一,600	二,500	三,500
廿二等	同	五,000	七,500	九,800	一,500	二,000
廿三等	同	五,000	五,000	六,500	一,000	一,500
廿四等	同	五,000	一,500	一,300	五,000	一,000
廿五等	同	五,000	一,250	一,100	五,000	一,000

e. 色衣禮錄對照表

種目	年別明治三十四年二月十九日		年別明治三十八年七月廿三日		年別明治三十九年八月四日	
	甲	乙	甲	乙	甲	乙
香衣	二,五〇〇	淡	二,五〇〇	紅	五,〇〇〇	五,〇〇〇
淺青	三,五〇〇	淺	五,〇〇〇	青	七,五〇〇	七,五〇〇
薄黃	五,〇〇〇	黃	七,五〇〇	黃	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
黃	六,〇〇〇	紫	一〇,〇〇〇	紫	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇
萌黃	七,五〇〇	紫	二〇,〇〇〇	紫	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇
紫	一〇,〇〇〇	紫				
紫	一五,〇〇〇	紫				

(在學生ハ一色毎ニ禮錄金壹圓ノ處大正十一年八月四日金貳圓ト修正)

f. 諸禮錄對照表

種目	年別明治三十四年三月十九日		年別明治三十六年七月廿三日		年別明治三十九年八月四日	
	甲	乙	甲	乙	甲	乙
度牒	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇
豫交	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇	二,五〇〇
交衆	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇
練行	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
托鉢	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
住職	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇
非住職	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇

g. 後任候補並繼目禮錄對照表

等級	年別明治三十六年七月廿三日		年別明治三十九年八月四日	
	甲	乙	甲	乙
特等一級	一〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	二五,〇〇〇
二級	一〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一五,〇〇〇
三級	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
二級	一〇,〇〇〇	七,五〇〇	一〇,〇〇〇	七,五〇〇
三級	一〇,〇〇〇	五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	五,〇〇〇
四等	五,〇〇〇	四,〇〇〇	五,〇〇〇	四,〇〇〇
五等	五,〇〇〇	三,〇〇〇	五,〇〇〇	三,〇〇〇
等地一	二,〇〇〇	二,七五〇	二,〇〇〇	二,七五〇
二	二,〇〇〇	二,五〇〇	二,〇〇〇	二,五〇〇
三	二,〇〇〇	二,二五〇	二,〇〇〇	二,二五〇
四	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇
五	二,〇〇〇	一,七五〇	二,〇〇〇	一,七五〇
六	一,〇〇〇	一,五〇〇	一,〇〇〇	一,五〇〇
七	一,〇〇〇	一,二五〇	一,〇〇〇	一,二五〇
八	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇

同 同

廿五等 廿四等 廿三等 廿二等 廿一等 二十等 十九等 十八等 十七等 十六等 十五等 十四等 十三等 十二等 十一等 十等 九等

100,000,000
50,000,000
100,000,000
100,000,000
100,000,000
100,000,000
100,000,000
100,000,000
100,000,000
100,000,000
100,000,000
100,000,000
100,000,000
100,000,000
100,000,000
100,000,000
100,000,000

11,500,000
10,000,000
8,750,000
7,500,000
6,250,000
5,000,000
3,750,000
3,250,000
2,750,000
2,250,000
1,750,000
1,250,000
1,000,000
750,000
500,000
250,000

14,000,000
12,500,000
10,500,000
9,000,000
7,500,000
6,000,000
4,500,000
3,500,000
3,000,000
2,500,000
2,000,000
1,500,000
1,000,000
750,000
500,000
250,000

8,000,000
7,500,000
7,000,000
6,500,000
6,000,000
5,500,000
5,000,000
4,000,000
3,000,000
2,000,000
1,000,000
750,000
500,000
250,000

14,000,000
12,500,000
10,500,000
9,000,000
7,500,000
6,000,000
4,500,000
3,500,000
3,000,000
2,500,000
2,000,000
1,500,000
1,000,000
750,000
500,000
250,000

智山派現勢一覽表

h. 現行等級區分並等級收入額宗費賦課額諸禮錄表 (大正十一年八月四日 教令第四號發布)

特等	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	地	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等		
100,000,000	50,000,000	30,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	
5,000,000	2,500,000	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
2,500,000	1,250,000	750,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000
1,250,000	625,000	375,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000
625,000	312,500	187,500	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000	125,000
312,500	156,250	93,750	62,500	62,500	62,500	62,500	62,500	62,500	62,500	62,500	62,500	62,500	62,500	62,500	62,500	62,500	62,500	62,500	62,500	62,500
156,250	78,125	46,875	31,250	31,250	31,250	31,250	31,250	31,250	31,250	31,250	31,250	31,250	31,250	31,250	31,250	31,250	31,250	31,250	31,250	31,250
78,125	39,062	23,437	15,625	15,625	15,625	15,625	15,625	15,625	15,625	15,625	15,625	15,625	15,625	15,625	15,625	15,625	15,625	15,625	15,625	15,625
39,062	19,531	11,718	7,812	7,812	7,812	7,812	7,812	7,812	7,812	7,812	7,812	7,812	7,812	7,812	7,812	7,812	7,812	7,812	7,812	7,812
19,531	9,766	5,859	3,906	3,906	3,906	3,906	3,906	3,906	3,906	3,906	3,906	3,906	3,906	3,906	3,906	3,906	3,906	3,906	3,906	3,906
9,766	4,883	2,929	1,953	1,953	1,953	1,953	1,953	1,953	1,953	1,953	1,953	1,953	1,953	1,953	1,953	1,953	1,953	1,953	1,953	1,953
4,883	2,441	1,464	976	976	976	976	976	976	976	976	976	976	976	976	976	976	976	976	976	976
2,441	1,220	732	488	488	488	488	488	488	488	488	488	488	488	488	488	488	488	488	488	488
1,220	610	366	244	244	244	244	244	244	244	244	244	244	244	244	244	244	244	244	244	244
610	305	183	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122
305	152	91	61	61	61	61	61	61	61	61	61	61	61	61	61	61	61	61	61	61
152	76	45	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
76	38	22	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
38	19	11	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
19	9	5	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
9	4	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
4	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

智山派現勢一覽表

第一區 百五十六ヶ寺

(備考) 住職名ノ下ノ何寺ト記入ナキモノハ 智山直末トス

郡市町村	村	等級	寺名	住職名	本寺
大阪府南河内郡	彼方村	三	明王院	高取信道	
京都市上京區	鷹野十二坊町	五	上品蓮臺寺	齋藤隆現	
下京區	松原通大和路東入	十	六波羅蜜寺	川崎辨龍	
下京區	松原通烏丸東入因幡堂町	十一	平等寺	大釜諦隆	
下京區	堂ノ前町	十四	愛染院	連隆觀	
上京區	七本松通一條上ル一觀音町	廿二	清和院	堀井龍豐	
上京區	五辻六軒町西入溝前町	廿二	大報恩寺	菊入頼如	
上京區	千本通盧山寺上ル	廿二	引接寺	橋淨應	上品蓮臺寺
下京區	錦小路通新町西入四錦小路町	廿九	清閑院	齋藤亮泰(兼)	安樂壽院
下京區	清閑寺町	廿九	寶源院	大釜諦隆(兼)	上品蓮臺寺
上京區	鷹野十二坊町	外	眞言院	高取慈恭	同
同		外	大慈院	藤村敬祐	同

京都府宗務支所下 二十八ヶ寺

一、五七〇、五〇	乙訓郡大山崎村字大山崎	八	寶積寺	星芳潤	
一、五〇一、二三	紀伊郡竹田村字内畑	八	安樂壽院	齋藤亮泰	

一、一〇六、三〇	相樂郡瓶原村字何幣	九	海住山寺	保立俊惠	
九三〇、九八	同 等置村字笠置	十一	笠置寺	小林慶尊	
七七六、〇八	同 高麗村字神童子	十四	神童寺	荏原政憲	
六七三、六〇	綴喜郡善賢寺村大字上	十六	觀音寺	三神榮阿	
四一〇、二三	南桑田郡東別院村大字植原	廿一	金輪寺	河原隆淨	平等寺
三七四、〇〇	相樂郡瓶原村字例幣	廿二	國分寺	保立俊惠(兼)	海住山寺
三五〇、四八	同 棚倉村大字綺田	廿二	蟹滿寺	中野惠泉	
三五〇、二三	同 棚倉村大字平尾	廿二	十輪寺	大崎覺禪	
三三六、八六	綴喜郡井手村字井手	廿三	西福寺	八幡禪我	
三二八、一三	久世郡宇治町	廿三	惠心院	齋藤亮全	
二九〇、一一	相樂郡加茂村	廿四	現光寺	小島等觀	
二四〇、一五	綴喜郡草内村大字草内	廿五	法泉寺	柴田眞證	
一九七、六一	同 草内村大字東	廿六	大德寺	佐竹眞運	
一七五、三九	同 宇治田原村字山田	廿六	西光院	高崎隆永	
一七一、六三	相樂郡西和束村	廿六	筠溪寺	保立俊惠(兼)	海住山寺
一一四、〇六	同 大河原村字北大河原	廿七	春光寺	増田尊亮	
九二、〇六	奈良縣宇智郡阪合部村大字表野	廿八	鹽迦寺	齋藤亮泰(兼)	安樂壽院
六一、六五	京都市相樂郡加茂村字錢司	廿九	福田寺	小林慶尊(兼)	笠置寺
五〇、七七	同 稻田村大字北稻八間	廿九	觀音寺	中野惠泉(兼)	
四一、六九	同 紀伊郡伏見町	三十	觀音寺	和田亮恒	
三五、〇〇	奈良縣山邊郡波多野村	三十	自作寺	保立俊惠(兼)	
三一、七〇	京都市久世郡富野村字觀音堂	三十	光明寺	山田鳳信	
三〇、〇〇	奈良縣添上郡大保村	三十	大保寺	小林慶尊(兼)	
一六、五〇	京都市相樂郡大河原村字野殿	三十	福常寺	増田尊亮(兼)	春光寺